

ハ希望条項トシテ通過ヲ見ルニ至レリ

六、國際聯盟理事會理事選出規則改正ノ結果明年度ニ於ケル四大強國以外ヨリ理事ヲ出スヘキ諸國ノ改選ヲ行ヒ

西、伯、白（以上再選）支之ニ當選セリ從テ常設軍事委員會ノ代表者モ明年一月一日以降異動アル筈

### 事項一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件

六六八 一月二十二日

在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

对独平和条約賠償条項ノ実施ニ関スル諸問題

二 付請訓ノ件

第一三四号

（一月二十五日接受）

对独条約実施ノ結果賠償委員會成立シ賠償条項ノ実施ニ関シ將來幾多ノ問題ヲ生ズベキニ付此際諸問題ヲ一括シテ予メ御電訓ヲ仰グ

一、賠償条項ニ依ル本邦ノ要償ニ関シテハ条約ノ趣旨ニ從ヒ更ニ本邦政府ニ於テ其種目計數ヲ決定セラレ御電訓相成ルコトト存シ且又必ず相当ノ立証法ヲ具シタル詳細ナル公文書類ノ提出ヲ要スル儀ト思考スルモ今日時日切迫ノ際ナルヲ以テ貴電講第三一九号乃至講第三三三三号ヲ以テ御通知ノ種目計數中賠償条項附屬書第一ノ種目ニ該當スト当方ニ於テ認メタル部分ヲ選取裁量シテ之ヲ利用致シ度シト存ズル処右差支無之ヤ

二、右種目ノ内第五陸海軍人及其被扶養者ニ対スル恩給金ハ曩ニ御送附ニ及ビタル仏國法律ニ依リ御計算御電報相成

一〇 对独平和条約ノ賠償条項實施ニ関スル件 六六八

度ク又第七勳員セラレタル者又ハ軍務ニ服シタル者ノ家族及扶養者ニ対スル給与額ニ関シテハ本邦ニハ直接此条項ニ該當スル者ナキガ如キモ若シ出征ニ基ク軍人ニ対スル増給ヲ右ニ該當スル者ト認ムル法令上ノ根拠アル場合ニハ曩ニ御送附ニ及ビタル仏國法律ニ依リ御計算御電報相成度シ

三、擊沈船舶価額等ノ問題ハ条約中之ニ関スル明文ナク賠償委員會ノ決定ニ依ル次第ナルモ往電講第五四五号第一八

条ノ規定ハ多少ノ重キヲナスモノト認メラル從ツテ貴電講第三二二一号ノ計算ハ最早利用スル能ハザルモノト覚悟ス

ルヲ要スルニ付各船舶喪失又ハ損害ノ時以後ニ於ケル合理的期間内ノ価格ニ依リ評価シ更ニ改刪シテ御電報相成度シ

四、貴電講第三二二一号ニ関シ擊沈セラレザリシナラバ得可カリシ利益ハ往電講第一一六三号ノ三ノ理由アルヲ以テ賠償委員會ノ會議ニ於テ有利ナル發展ヲ為スニ非ザレハ計上スル能ハザルモノト御承知相成度シ

五、貴電講第三二〇号擊沈日本船舶損害中ヨリ帝國ノ支出保証金及保險金ヲ控除スルハ他方國家ノ損害ヲ独逸ニ請求

シ得ル場合ノ方法ナルヲ以テ之ヲ控除セザルコトニ致ス可ク但シ外国政府又ハ保險会社ノ支出シタル保險金ハ之ヲ控除シアラザル処外国政府ニ対シテハ右保險金ニ相当スル金額ヲ今後交付セラシ御意嚮ナリヤ尚又保險会社ニ対シテハ如何ナル見地ヲ取ラシ御意嚮ナリヤ保險金ニ相当スル金額ヲ保險会社ニ下附スルモノトスレバ被保險者ノ支払ヒタル保險金返還ノ問題ヲ生ゼザルヤ御考究ヲ煩ス

六、貴電講第三二二二號擊沈又ハ毀損ノ船舶内積載ノ日本人所有貨物損害、貴電講第三二二九號敵船積荷損害ハ孰レモ換算ニ依リ計上セラシ居ル処貴電講第六一六號ノ三ニ依レバ且下各被害者ヲシテ一々申告セシメ居ララルガ如クニモ見ユ実情回電ヲ請フ

七、貴電講第三一九號ニ援用セル大藏大臣發森財務官宛巴里特第一五號中八阪丸積載金貨十萬磅ノ損害ハ擊沈又ハ毀損ノ船舶内積載日本人所有貨物損害ト重複スル計算トナラザルヤ

八、以上諸項中海上損害ニ関スル部分ニ対シテハ他ノ御調査ニ先立チ別ニ成ルベク早ク御電訓ヲ請フ

九、要スルニ賠償委員會ノ性質ニ顧ミ又會議進行ノ形勢ニ

二、恩給金及補償金等ヲ一時金ニ換算スル方法如何各個人ノ残存生存年数ヲ一々調査スルコト到底不可能ナル処平均幾年ト見做スベキカ又換算スベキ利率如何

三、七ノ平均率 (average scale) トハ如何ナル計算方法ニ依ル数字ナリヤ

四、恩給及其他ノ給与額ヲ計算スルニハ率ノミ仏国法ニ依ルノ義ナリヤ若シ率ノミトスレバ仏国法ニハ当該率ナキ場合アル等種々ノ困難又ハ不公平ヲ生ズベシ依テ率ノミトセズ全然仏国法ニ依ルコトトシ本邦ニ於テハ給与シ居ラザルモ仏国法ニ依レバ給与シ得ル額ハ之ヲ要給シ得ルモノト解シ得ザルヤ

五、家族手当又ハ孤兒寡婦恩給廢疾恩給等ヲ計算スルニ當リ個々ノ死傷者ニ付一々其ノ家族及被扶養者ノ数ヲ調査スルハ甚ダ困難ナル処家族又ハ被扶養者平均幾人ト看做シテ計算スベキヤ例ヘバ一人トスベキヤ又ハ二人トスベキヤ尚貴電第一三四號ニ関シテハ且下詮議中ニ付追テ何分ノ義回電スベシ

註 本電ニ就イテハ後出八月八日珍田大使發外務大臣宛第六九三號(七二九文書) 参照

依リテハ一々御電訓ヲ仰グ能ハザル場合ヲ生ズ可キニ付其際ハ貴電講第三一九號ノ趣旨ヲ体シ聯合与国ノ要求トノ權衡上与国トノ協調ニ留意シ適宜裁量ヲ以テスルコトアル可シト御承知アラシコトヲ希望ス

在英大使へ転電セリ

- 註1 外務大臣發松井大使宛講第三一九號乃至講第三三三號ハ日  
本外交文書大正八年第三册上卷四八三乃至四九〇文書
- 2 松井大使發外務大臣宛講第五四五號ハ右上卷ノ四七九文書
- 3 松井大使發外務大臣宛講第一一六三號ハ右上卷ノ四九二文書
- 4 外務大臣發松井大使宛講第六一六號ハ右上卷ノ四九四文書

六六九 二月十日 内田外務大臣ヨリ  
在仏国松井大使宛(電報)

对独平和条約賠償条項第一附屬書ノ五及七ニ  
関シ取調方訓令ノ件

第一一二號

对独平和条約賠償条項第一附屬書ノ五及七ニ関シ左記ノ点然ルヘキ方法ニ依リ御取調ノ上回電アリタシ

一、西比利亞出兵ニ依ル損害モ包含セシメテ計算シ可然ト認メラルル処右ニテ差支ナキヤ

六七〇 三月二十日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸支払ノ賠償金全額決定ニ付提議シ得ル期間延長ニ関シ英國外相ヨリ申越ノ件  
第二三三號 (三月二十七日接受)

賠償委員ヲシテ往電第一八二號末段(八)期限延長ヲ正式ニ独逸ニ通告スルノ措置ニ出デシメンガ為英國委員ニ訓令セントスルニ付帝國政府ニ於テモ同様ノ訓令ヲ日本委員ニ發セラシコトヲ希望スル旨「カーゾン」卿ヨリ二十日接到ノ書簡ニテ申入レ来レリ本件ハ森財務官ニ通知済在仏大使へ転電セリ

註 珍田大使ヨリノ第一八二號左ノ通  
最高會議ハ歐洲ニ於ケル目下ノ經濟的窮狀改善ノ為左ノ如キ  
勸告ヲ為スコトヲ決議ス  
(一乃至七省略)

八、列國ハ独逸ガ支払フベキ賠償金全額ノ決定ニ就キ提議ヲ為シ得ル權利有効期間四ヶ月ヲ更ニ延長スルコトヲ約ス

六七一 三月二十三日 閣議決定

对独平和条約ノ賠償条項ニ依リ我損害ノ賠償  
要求事務処理方ノ件

今般对独平和条約ノ實施ニ依リ同条約ノ規定スル國際賠償

委員会成立シ已ニ数回ノ会合ヲ催スニ至リタル処本邦ニ於テモ同条約第八編賠償条項ニ依リ賠償ヲ要求スヘキ本邦損害額ヲ至急決定シ右要求ヲ支持スヘキ相当ノ材料ヲ提出スルノ要アリ然ルニ右要償損害額中ニハ被害者ノ申告ニ俟タザレバ正確ナル査定ヲ為シ難キモノアルト同時ニ右申告ヲ俟タズ政府ノ手ニ於テ査定シ得ルモノアリ依ッテ政府ノ手ニテ査定シ得ルモノハ各主管官庁ニ於テ外務省ト協議ノ上之ヲ査定スルコトトシ又被害者ノ申告ニ俟ツヘキモノニ関

(記註外欄)

シテハ至急外務省ニ適當ノ機関ヲ設置シ該機関ニ於テ各主管官庁ト協議ノ上之ヲ査定スルコトト致度ク即チ賠償条項第一附属書ノ四、五、六及七ノ損害ハ陸軍海軍兩省ノ主管ニ属スルヲ以テ右兩省ニ於テ外務省ト協議ノ上之ヲ査定ニ当ルコトトシ其他ノ部分即チ同附属書ノ一、二、三、八、九及十ノ損害ハ単行ノ命令ヲ發布シテ被害者ヲシテ一定期間ニ損害ノ申告ヲナサシメ前記特設機関ニ於テ各關係官庁ト協議ノ上之ヲ査定ニ当リ其結果ヲ具シテ賠償委員会ニ提出スルコトト致度シ又賠償トシテ受領スヘキ物品(船舶及染料ノ如キ)及金錢(有価証券ヲ含ム)ノ処理方法ハ船舶ニ付テハ通信省、染

出ノ次第アリタルニ付何分ノ御詮議相成様致シ度シ英國政府ノ照会文郵送ス

六七三 四月五日 在仏國松井大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

賠償委員会ノ対独条約第二六〇条ニ掲グル權利又ハ利益ヲ保有スベキ旨ヲ独逸ニ通牒スル 書翰案ノ討議ニ付報告並山東鐵道關係ニ付請 訓ノ件

(四月七日接受)

第五九五号 賠償実施第二六号

一、賠償委員会三月二十二日ノ會議ニ於テ対独条約第二六〇条ニ掲グル權利又ハ利益ヲ保有ス可キ旨ヲ独逸ニ通牒スル書翰案ヲ討議ス其ノ要旨ハ一九二〇年二月二十三日ノ會議ニ於テ賠償委員会ノ為シタル決議ヲ実行スル為賠償委員会ハ此ノ通告ノ日ニ於テ効力ヲ發生スル左記ノ決定ヲ独逸政府ニ通告ス

賠償委員会ハ対独条約第二六〇条ニ掲グル權利又ハ利益ヲ直接又ハ間接ニ喪失ス可カラズト決定ス是ヲ以テ独逸政府並ニ独逸国民ハ之等ノ權利又ハ利益ヲ讓渡シ担保トスルコ

料ニ付テハ農商務省、金錢有価証券ニ付テハ大藏省ト協議ノ上外務省之ヲ決定シ賠償委員会ニ於ケル帝國委員ニ必要ナル訓令ヲ与フヘク而シテ右船舶ノ廻航、染料ノ引取等ニ要スル費用ハ必要ニ応シ國庫ヨリ之ヲ支弁スルコトトシ細目ハ各關係省ニ於テ決定スルコトト致度

(欄外註記)

「平和条約事務局設置ノ上ハ本機関ハ同局ノ一部ニ置ク事トナリ之カ為ニ更ニ特設機関ヲ置クノ主旨ニ非ズ」

六七二 三月二十六日 在英國珍田大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

独逸人ノ英國外ニテ所有セル各國公債ノ利札 又ハ籤當リ公債等ノ英國ニ於ケル換金防止方 二付英國政府申出ノ件

第二六九号

(四月二日接受)

戰時中英國外ニ於テ独逸人ノ所有セル各國公債ノ利札ヲ英國ニ送付シテ現金ニ引替ヘ若クハ籤當リノ各國公債ヲ英國ニ於テ償還將又独逸人ニシテ各國ノ証券類ヲ英國ニ於テ処分スル向アル処右ハ何レモ独逸ノ負担スル賠償及証券引渡シノ義務ト両立セザル次第ニ付日本政府ニ於テモ日本ニ関スル限り至急之ガ防止方法ヲ講ゼラルル様英國政府ヨリ申

トヲ得ズ又之ニ對シテ管理以上ノ行為ヲナスコトヲ得ズ若シ之ヲナシタル時ハ賠償委員会ニ對シ何等ノ効力無カル可シ對独条約批准ノ日ヨリ本通告ノ日迄ノ間ニ行ハレタル讓渡ニ関シテ賠償委員会ハ一切ノ留保ヲナス独逸政府ハ賠償委員会ニ對シ速ニ本通告ノ日並ニ對独条約批准ノ時ニ於ケル當該權利及利益ノ表ヲ提出ス可シ賠償委員会ハ通告書受領ヲ承認シ前述ノ二表ヲ何時交付シ得可キカラ通知スルコトヲ独逸政府ニ求ム

第二、二月二十三日ノ賠償委員会ニハ本邦委員召集ヲ受ケズ三月二十二日ノ會議ニ於テモ本件ノ為ニ召集ヲ受ケタルニアラザリシモ偶々独逸船舶引渡問題ノ討議後引続キ本件ノ討議ニ入りタルヲ以テ本邦副委員ハ退席セザリシニ英國委員ハ白耳義委員ノ出席ヲ求メタリ然ルニ伊國委員ハ對独条約第八編附属書二ノ第二項ヲ引用シ白耳義委員ノ出席スベキ場合ニアラズ日本委員ノ出席スベキ場合ナリトノ意見ヲ述ベタリ英國委員ハ之ニ答ヘテ第二六〇条ノ場合ハ日本ノ利益ニ關係アル場合ニノミ日本委員ニ決議権アリ本件ハ第二六〇条全般ノ關係ニテ特ニ日本ノ利益ニ關係アル場合ニアラザルヲ以テ白國委員ニ決議権アリト述ベ伊國委員之

ニ同意シタルモ尚日本委員ヲシテ決議權ナシニ出席セシムベシト述ベ英國委員又反対セズ結果白国委員議決權ヲ有シ日本委員之ヲ有セズ同時ニ出席セリ

第三、問題ノ討議ニ入ルヤ伊国委員ハ各同盟及聯合國政府ニ対シ第二六〇条ニ該当スル權利又ハ利益ニシテ同条第一項末段ニ依ル讓渡ヲ各国政府ガ希望スルモノヲ速ニ賠償委員會ニ通知スベキ旨ヲ通告シテハ如何ト提議シタルニ英國委員ハ第二六〇条第一項前段ハ条約実施後一ケ年ノ期間ヲ規定セルヲ以テ此ノ期間ヲ短縮スルハ面白カラズ又短縮スルハ事實上不可能ナラント述ベ結局独逸政府ニ対シ通告書ノミハ速ニ發送スルコトニ決定シ文案ニ多少ノ修正ヲ加フル為決議ハ之ヲ次回ニ延期シタリ

第四、前記独逸政府通告書發送ノ結果右通告書末段ニ依リ独逸政府ノ提出スベキ両表中ニ山東鐵道株式會社及赤道以北南洋諸島ニ行ハルル公益事業又ハ利益ニ関シ利益及權利ヲ包含スル場合ニ於テハ本邦委員ニ於テ如何ナル処置ヲ執ルベキヤ今日ヨリ予メ御訓電ヲ請フ殊ニ山東鐵道ニ関シテハ第二六〇条冒頭ト第一五六条ト關係上全ク第二六〇条ノ適用ノ範圍外ナリトノ説ヲ立テ得ザルニアラズ但シ其ノ説

独逸經濟生活ノ回復ノ見地ヨリスレハ此ノ選擇權ヲ行使スルモノトスレハ出来得ル限り速ニ之ヲ行ヒ第二六〇条ニ依リ委員會ノ要求セサル權利及利益ハ之ヲ開放シ独逸ヲシテ食料及原料ノ買入ノ為外國ヨリ借金ヲナシ得シムルコト重要ナルニ願ミ委員會ハ出来得ル限り速ニ本条第二項ニ依リ要求スル報告ヲ提出スルコトヲ独逸政府ニ提議シ且讓渡ヲ要求セサルコトニ決スヘキ權利及利益ヲ出来得ル限り速ニ独逸政府ニ通知スルノ希望ヲ表明シタリ

委員會ノ要求ハ恐ラクハ或ル同盟國及聯合國政府カ取得ヲ希望スヘキ權利及利益ニ限局セラルヘシ隨テ貴國政府カ取得ヲ希望スル右權利及利益ノ表ヲ五月一日迄ニ提出スルコトヲ求ム

右ノ表ヲ受取リタルトキハ委員會ハ異議無ケレハ特定權利及利益ノ引渡ヲ独逸政府ニ要求スヘシ  
其ノ價格ハ第二六〇条ノ定ムル如ク賠償勘定ニ於テ独逸ノ貸方ニ計上シ且(委員會カ現金支払ヲ要求セサル範圍内ニ於テ)之ヲ取得スル國ニ対シ賠償勘定ニ於テ貸方ニ計上セラルヘシ然レトモ右ノ金額ハ各場合ニ於テ關係國ニ対スル賠償勘定ノ現金支払ト同一ニ取扱ハルヘク而シテ若シ第二

ヲ賠償委員會ニ於テ貫徹スルノ能否ハ疑問ナルモ右ノ態度ヲ以テ進行スベキヤ否ヤ予メ御決定ヲ請フ  
在英大使へ転電セリ

六七四 四月六日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对独条約第二六〇条ニ掲グル權利及利益ニ関シ賠償委員會ヨリ日本政府ノ希望ヲ表トシテ提出方申越セルニ付請訓ノ件

第六〇九号 (四月八日接受)

賠実第二七号

第一、对独条約第二六〇条ニ掲クル權利及利益ニ関シ(賠実第二六号)賠償委員會ハ三月廿九日附ヲ以テ本邦委員ニ対シ書翰ヲ寄セ日本政府カ希望スル右權利及利益ノ表ヲ五月一日迄ニ提出スヘキコトヲ求メタリ就テハ本件ニ付今後本邦委員ノ取ルヘキ方針ニ関シ此際政府ノ御訓電ヲ請フ第二、前記書翰ノ要旨左ノ如シ  
賠償委員會ハ对独条約第二六〇条ニ依リ委員會ニ与ヘラレタル選擇權行使ノ問題ニ関シ委員會ニ起リタル議論ヲ貴國政府ニ傳達セラレンコトヲ求ム

三七条ニ依ル最初ノ決済ノ際決済ノ日ニ至ルマテ關係國ノ受領總額(當該權利利益ノ價格ヲ含メル)カ分配ノ關係ニ於テ同國ニ対シ支払フヘキ金額ヲ超過スルトキハ右超過金額ヲ現金ニテ賠償委員會ニ支払フヘシ  
尚超過セサル場合ニ於テ現金ヲ必要トスルトキハ現金支払ヲ要求スル權利ヲ留保ス而シテ之ヲ受取リタルトキハ賠償勘定ノ借方ハ勿論消滅ス  
本書翰ハ英仏伊日白ノ委員及米國ノ非公式代表者ノミニ發送スルモ賠償委員會ハ其ノ適當ト認ムヘキ他ノ方法ニテ問題トナレル權利及利益ヲ要求シ処分スル全幅ノ權利ヲ留保ス 在英大使へ転電セリ

六七五 四月九日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

山東鐵道中二個人利益アル場合ノ措置ニ関シ

回訓ノ件

第二九八号(至急)

貴電第五九五号第四ニ関シ  
山東鐵道及嶺山ハ御承知ノ通り聯合國ニ於テハ之ヲ以テ公有財産ト認メタルモ若シ独逸ヨリ同鐵道中二個人ノ利益ア

ルコトヲ証明シ来リタル場合ニハ之ヲ補償スルコトトナリ居レル次第ニテ独逸ヨリ右ノ通り反証ヲ提出シ来ラサル限リハ何等補償ノ問題ヲ生スルコトナシ從テ第二百六十条ノ問題ハ他日独逸ヨリ右ノ通り反証ヲ提出シ来リタル場合ニ初メテ同条ヲ適用スヘキヤ否ヤヲ決定スヘキモノニシテ独逸ヨリ何等反証申出ナキニ拘ラス賠償委員会ニ於テ同条ノ適用ヲ問題トスヘキ筋合ニアラス將又同鉄道カ私有タルコトヲ承認スルトモ第二百六十条第一項ノ適用ナキコトハ明白ニシテ唯独逸人ノ株券処分ニ付同条第二項カ準用セララルコトアルヘキノミ就テハ賠償委員会ニ於テ山東鐵道会社株券ニ付我方ヨリ進テ第二百六十条ノ問題ヲ提起スルコトハ之ヲ見合ハサルルハ勿論若シ他国側ヨリ問題生シタルトキハ前頭ノ趣旨ヲ篤ト説明セラルル様致度シ尚他日独逸ヨリ直接帝國政府ニ又ハ賠償委員会ニ反証提出シ来リタル場合ニハ何レノ条項ニヨリ処分スヘキヤ平和条約中ニハ明確ニ之ニ該当スル規定ヲ欠キ必スシモ第二百六十条ヲ適用スヘキモノトハ確定シ居レル次第ニハアラス殊ニ賠償ノ金額及方法ニ至テハ山東鐵道会社法人ヲ相手トスヘキヤ株主ヲ対象トスヘキヤニ付問題生スヘク一般ニ之等山東鐵道

問題ニ付テハ当方ニ於テモ折角考究ヲ尽シタル上追テ何分ノ義申進スヘシ御含迄又赤道以北南洋諸島ノ件ハ別ニ電報スヘシ 右在英大使ニ転電アリタシ

六七六 四月二十三日

在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

山東鐵道及鉞山ニ対スル対独条約第二六〇条ノ適用問題ニ関シ予メ独逸ト交渉ヲ遂ゲ置ク必要アル旨稟申ノ件

第七二二号

(四月二十六日接受)

賠償実施第二九号

(至急)

貴電第二九八号ニ関シ

第一、対独条約第二六〇条ニ関スル賠償委員会ノ討議ハ全ク日本委員ハ召集ニ接セズ往電第五九五号(賠実第二六号)本使所報三月廿二日ノ會議ハ同電第二ニ述ブル如ク偶々海上問題ニ引続キ討議セラレタル為本邦委員傍聴スルヲ得タルノミ其後又本問題ノ討議アリタルモ一回モ召集ニ接セズ從ツテ往電賠実二六号第一末段ノ表ヲ独逸政府ガ提出シタル場合ニ於テ其中ニ山東鐵道鉞山ニ関スル權利ヲ包含

スルヤ否ヤハ当方ヨリ進ンデ問ヲ発スルニアラザレバ知り得ザル現況ニアリ

第二、若シ右表中ニ前記權利ヲ包含セル場合ニハ賠償委員会ニ対シ右權利ニ対シテハ対独条約第二六〇条ノ適用無キ旨篤ト説明ス可キモ独逸ガ同時ニ反証ヲモ拵ゲ来リタル場合ニハ或ハ賠償委員会ハ「プロトコル」第二項等ヲ引用シテ独リ金額査定ノミナラズ広ク独逸人ノ利益審査ヲナス権能ヲ主張スルヤモ計リ難ク此ノ場合ニハ果シテ賠償委員会ニ斯ノ如キ権能アリヤヲ争フノ途アルモ斯ノ如キ一般解釈問題ニ関シテハ日本委員ガ票決権ヲ有スルヤ問題ニシテ帝國ニ不利益ナル事情ヲ生ズル虞アリ就テハ右様ノ事態發生スル前ニ反証ノ審査及賠償金額及方法ニ付テ我政府ト独逸トノ間ニ交渉ヲ遂ゲ置カン方然ル可シト存ズ尤モ前頭ノ如ク独逸ト交渉シ置クトモ他日「プロトコル」ニ依リ賠償勘定トシテ或ル金額ヲ独逸ノ貸方ニ計上スル際ニ當リテハ賠償委員会ハ前記ノ如キ権限ノ解釈ヲ主張スルコトアルヤモ計リ難キコトハ御含ミ置キアリ度シ

第三、若シ右ト御同意見ナルニ於テハ至急独逸ト交渉ヲ開始セラレタク特ニ往電賠実第二六号第一号末段表中ニハ独

逸ヲシテ山東鐵道及鉞山ニ関スル權利ヲ列挙セシメザル様適當ノ御措置相成り度シ

在英大使へ転電セリ

六七七 四月二十九日

内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

対独条約第二六〇条ノ適用ニ関シ津浦鐵道北段及湖広鐵道ニ対スル独逸人ノ權利利益ノ取扱方ニ付訓令ノ件

第三五八号

貴電第六〇九号(賠実第二七号)ニ関シ山東鐵道及附帶事業ノ問題ニ付テハ不取敢往電第二九八号ヲ以テ申進シ置キタル処支那ニ於ケル独逸人ノ權利利益ニシテ第二百六十条ノ適用アリト認メラルル重要ノモノハ結局津浦鐵道北段及湖広鐵道ニ対スルモノ之ナリ然ルニ右ノ内津浦鐵道北段ニ付テハ客年本省発在英大使宛往電第二九号等ニテ御承知ノ通り日英間ニ往復ノ次第アリ又湖広鐵道ニ付テハ客年五月十一日巴里ニ於ケル銀行団會議ニ於テ新借款團成立ノ上ハ他団体ト均等ノ持分ヲ日本銀行団ニ与フヘキ旨決議アリ何レモ日本ニ取リテ重要ノ關係ヲ有スル次第ニテ之等独逸人

ノ權利利益カ賠償委員会ノ議題ニ上ルトキハ日本委員ニ於テ表決ノ數ニ加ハルノ權利ヲ有スルコト勿論ナルカ元來支那カ平和条約ニ調印セサル問題ハ暫ク措キ右第二百六十条中ニ「支那」ナル文句挿入ニ対シテハ當時支那委員ニ於テ強硬ニ反對シタル行懸アルノミナラス客年往電第二八六号ノ通り支那側ニテハ前記二鉄道契約ハ支那ノ対独宣戰ノ日ヨリ廢棄セラレタルモノナルコトヲ主張シ居レルニ顧ミ賠償委員会ヨリ此ノ種獨逸人權利利益ノ讓渡ヲ獨逸政府ニ要求スルニ対シテハ支那側ニ於テ必スヤ強硬ニ反對スヘキコト疑ナク且日支兩國目下ノ關係ニ顧ミ日本ヨリ進テ右二鐵道ニ対スル獨逸人ノ權利利益讓渡ヲ賠償委員会ニ公然 Suggest スルカ如キハ甚タ機微ナル考慮ヲ要スルニ付貴官ハ森財務官ニ旨ヲ含メ同財務官ヨリ夫トナク英國側委員ノ注意ヲ促シ右獨逸人ノ權利利益ハ如何ニスル意嚮ナルヤヲ確メシメラレ若シ英國側ニ於テ本件獨逸人權利利益ハ第二百六十条ニ從ヒ賠償委員会ニ讓渡セシムル意嚮ナキニ於テハ我方ヨリ特ニ英國側ヲ説得シテ迄モ右様ノ措置ニ出ツルノ要ナク若シ又右ノ通り讓渡セシムルノ意嚮ナルニ於テハ英國側ト歩調ヲ一ニセラレ差支ナシ尤モ之カ為メ津浦鐵道

北段ニ対スル從來日英間了解ノ次第及湖広鐵道ニ関スル巴里會議ノ決議カ何等変更セラルヘキモノニアラサルハ言ヲ俟タス將又右ノ通り賠償委員会ニ讓渡セシムルコトトナル場合ニ於テハ之ヲ以テ先ツ支那カ獨逸ヨリ受ケタル損害ヲ補償スルコトトナルヘキ処支那ノ要償額ハ素ヨリ少額ト推想セラルルニ付之ニ超過セル分ハ支那政府ヨリ賠償委員会ニ提供シ一般ニ賠償ノ資ニ供セラルルコトトナルヘシ然ルニ右ニ付テハ支那政府ノ支払フヘキ分ヲ還元シタル一定額ヲ恐ラク遠カラス成立ヲ見ルニ至ルヘキ新借款團ヲシテ支那ノ代リニ賠償委員会ニ提供セシメ支那政府ハ將來新借款團ニ年々支払フコトトシ湖広鐵道ハ勿論津浦鐵道北段ニ対スル優先権ハ之ヲ新借款團ニ「ブール」スルコトニ協定ヲ了スルコト一策カト思考セラルルニ付必要ノ際ハ森ヲシテ右ノ趣旨ニテ英國委員ト談合セシメラレタシ

六七八 四月二十九日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

对独条約第二六〇条ノ適用ニ関シ中国改革借款及一八九〇年代ノ英独公債ノ獨逸側持分ノ

措置ニ付訓令ノ件

第三五九号

獨逸人ノ支那政府ニ対スル債權ニシテ重要ナルモノハ往電第三五八号津浦鐵道及湖広鐵道兩借款ノ外支那改革借款獨逸側持分約五千万円及千八百九十六年及千八百九十八年ノ英独公債(日清戰爭償金ノ資ニ充ツル為メ英独兩國資本家ニ於テ各均等ニ引受ケタルモノニテ總額三千二百万磅ニシテ已ニ一部ノ償還ヲ見タルモ今日ニ於テ残存額尚約二千三百万磅アリ)獨逸側持分ノナリ然ルニ右獨逸側持分ノ如キ種類ノ債權ニ関シテハ平和条約中ニ之カ処分ヲ定メタル明確ノ規定ヲ欠ク処大正八年本省發在米大使宛往電第二三九号支那政府ニ申入ノ際同政府ニ対シ同政府ニ於テ改革借款契約ニ関シ獨逸銀行團ニ屬スル一切ノ權利及利益ハ平和成立ト共ニ復活セシムルコトナク且爾余ノ団体力適當ノ時期ニ於テ右權利利益ヲ処分セムトスルコトアルヘキ場合ノ為メ保留スヘキ旨ヲ確認セムコトヲ求メタル趣旨ニ顧ミルモ英仏等ニ於テハ恐ラク賠償ノ資ニ充ツル為メ賠償委員会ニ提供セシメムコトヲ希望スルモノナルベキヤニ推察セラルル処之ニ反シ支那側ニ在リテハ獨逸側トノ此ノ種契約ハ対

獨宣戰ノ結果其ノ廢棄ヲ主張シ居レル關係殊ニ改革借款ニ付テハ大正八年本省發在米大使宛往電第四五二号ノ通り支那銀行團ヲシテ結局右權利利益ヲ引受ケシメムコトヲ主張シ居レルニ顧ミ賠償委員会ニ提供スルカ如キコトハ容易ニ贊同セサルヘシト思考セラルル処右ノ内英独借款ニ付テハ英國側ニ於テ特ニ關係アル次第ニ付英國側意見ニシテ当方推察ノ通りナルニ於テハ固ヨリ之ニ贊同セラレ差支ナキモ唯支那ノ對獨宣戰ノ結果此ノ種支獨間約定カ当然無効ニ歸シタルモノナリト云フカ如キ支那側主張ノ趣旨加味セラレサル様注意ヲ要ス次ニ改革借款ニ付テハ新借款團問題トモ關聯考究ヲ要スル次第ニテ同問題今後ノ發展ニ応シ何分ノ儀申進スルコトアルヘキモ此ノ種獨逸人ノ利益ヲ聯合側ノ手ニ収ムルコトトナル場合ニハ如何ナル方法ニヨルヘキヤ攻究ヲ要スル次第ナルニ就テハ森財務官ヲシテ不取敢以上ノ趣旨ヲ含ミ英國側ニ於テハ右英独借款及改革借款獨逸側持分ハ如何ニ措置セムトスル意嚮ナルヤヲ確メラレ結果回電アリタシ

右在英大使ニ轉電アリタシ

六七九 五月六日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛 (電報)

山東鉄道及鉱山ノ公私有認定問題ニ関シ回訓  
ノ件

附記 大正八年六月二十四日在仏國松井大使宛内田外  
務大臣宛電報講第一四三九号及別電講第一四四  
〇号

第三八七号

貴電第七二二号 (賠償実施第二九号) ニ関シ

(一)山東鉄道及鉱山カ万一本件一覽表中ニ掲記セラルルニ於  
テハ平和条約第二百六十条ニ基ク日本國ノ利害ニ關係アル  
問題タルコト言フ俟タサルノミナラス客年貴電講第一四三  
九号ニ依ルモ右鉄道鉱山カ賠償委員会ノ議題ニ上ルトキハ  
(註) 日本代表者ニ於テ出席スルコトトナリ居レル次第ニ顧ミ若  
シ本件一覽表中ニ鉄道及鉱山ノ掲記アリタルトキハ賠償委  
員会ヨリ日本委員ニ其ノ旨通知アルコト当然ノ義ト思考ス  
尤モ貴官ニ於テ必要ト認メラルルニ於テハ森ヲシテ賠償委  
員会ニ対シ若シ本件一覽表中何等日本ト利害關係アル事項  
アラハ早速日本委員ニ通知ヲ得度旨為念申入レ置カシメラ  
ンタシ

実ナルトキハ議定書第二項ニ從ヒ公正ニ措置スヘク右ニ付  
テハ第二百六十条若ハ他ノ条項ヲ準用スルコトトナルヘキ  
モノナリ就テハ森委員ヲシテ右ノ趣旨ニヨリ措置セシムル  
コトト致度ニ付篤ト同委員ニ申含メ置カレントシ  
右在英大使ニ転電アリタシ

註 大正八年六月二十四日松井大使宛内田外務大臣宛電報講第一  
四三九号ニ付テハ左掲ノ附記參看

(附記)

大正八年六月二十四日在仏國松井大使宛内田外務大臣宛電報講  
第一四三九号及別電講第一四四〇号

講第一四三九号

往電講第一四〇九号所報二十一日午後首相會議 (牧野全權

出席) ニ於テ山東省鉄道並鉱山ニ関スル対独回答案ニ就キ

討議ノ際若シ将来賠償委員会ニ於テ本問題ノ議題ニ上ルコ

トアラバ其都度必ズ日本政府代表者出席ヲ求メラルヘキ旨

ノ言質ヲ得タルガ右ニ関シ二十三日附ヲ以テ議和會議書記

局ヨリ公然其ノ通知ト共ニ右ノ旨賠償委員会委員長 (仏國

大藏大臣) へ通告濟ノ趣通牒シ来レリ委細ハ別電首相會議

書記官 Sir Maurice Hankey ムリ會議書記官長 Dutasta

氏宛書面写 (当方へモ送附シ来ル) ニテ御承知アリタシ

(二)客年貴電講第一六五八号ニ依レハ審査委員会ニ於テモ独  
逸ヨリ山東鉄道問題ニ付反証ヲ提出シ来リタルトキハ日本  
カ之ヲ受領審査スルモノナルコトノ了解アリトノ趣ニテ御  
來示ノ如ク賠償委員会カ其ノ權限ヲ右公私有問題ノ審査ニ  
迄及ホスハ右ノ了解ト反スルモノナリ又平和条約ノ規定及  
平和會議ニ於ケル經過ニ徴スルニ歐洲内ニ於ケル独逸ノ公  
有財産ハ私有財産同様原則トシテ有償主義ヲ採リ歐洲外ノ  
分ニ付テハ私有財産ト取扱ヲ異ニシ無償主義ヲ採リ居レル  
モノノ如ク加之委任統治ノ場合ニハ第二百二十条後段ノ如ク  
當該地方ノ裁判所ノ判決ヲ以テ公私有ヲ確定スルコトトナ  
リ居レルニ付賠償委員会カ公私有問題ヲ審査スルノ必要アリ  
トトセハ其ノ重ナル場合ハ結局山東鉄道及鉱山ニ関スル場  
合ニ外ナラス殊ニ御來示ノ如ク議定書第二項ヲ引用スルカ  
如キ場合ニハ単ニ一般解釈問題トノミ見做スヲ得サルヘク  
從テ本件ノ場合ニ日本委員カ票決權ヲ有セサルカ如キコト  
ハ到底贊同スルヲ得サル所ナリ

(三)以上ノ次第ニ顧ミ此際我方ヨリ進テ独逸側ニ公私有問題  
ヲ提起スルコトナク他日其ノ反証ヲ提出シ来リタル場合ニ  
於テ初メテ我方ニ於テ之ヲ審査シ若シ独逸ノ反証ニシテ確

註 松井大使宛内田外務大臣宛電報講第一四〇九号ニ付テハ日本  
外交文書大正八年第三册上卷五五二文書參看

別電講第一四四〇号

In the course of a discussion at the council of the  
Principal Allied and Associated Powers this afternoon  
on the draft reply to the German note, prepared by  
the Drafting Committee, the question arose as to the  
representation of the Japanese Government on the  
Reparation Commission.

It was agreed that, whenever the Reparation Commis-  
sion discussed the question of the German railways  
and mines in Shantung, the Japanese Government should  
have a representation on the Commission.

I suggest that Your Excellency should make a formal  
communication of the decision to the Japanese Govern-  
ment and that a copy should be communicated to the  
Ministry of Finance, in order that the record of this  
decision may not be lost sight of when the question  
arises.

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 六八〇

八七二

六八〇 五月七日 閣議決定

対独平和条約ニ基ク損害申告方ニ関スル閣議

案ノ件

附屬書 外務省令案

附記 閣議案説明書

対独平和条約第八編賠償条項ニ基ク本邦損害額ヲ賠償委員  
会ノ議ニ附スル為メ之ヲ査定方ニ関シ曩ニ閣議決定ノ次第  
アリタル処右決定ニ基キ左記ノ通外務省令ヲ發布シ同時ニ  
朝鮮、台湾、関東州、樺太及青島ニ於テモ夫々同様ノ命令  
ヲ發布シテ被害者ヲシテ外務大臣ニ宛テ其ノ損害ヲ申告セ  
シメ之ヲ査定スルコトニ致度シ

尚右外務省令ニハ外務大臣ノ外通信大臣、農商務大臣及大  
蔵大臣署名スルコトト致度シ

(欄外註記)

「大正九年五月七日閣議決定(内田外相印)」

(附屬書)

対独平和条約ニ基ク損害申告方ニ関スル外務省令案

外務省令第 号

第一条 同盟及聯合國ト独逸國トノ平和条約

第八編(賠償)第一款第一附屬書第一号第二号第三号第

害ノ立証方法等ハ追テ賠償委員会ニ於テ定ムヘキ所ニシテ  
現今ニ於テハ未定ナルノミナラス要償損害ノ範圍ヲ定ムル  
前記賠償条項第一附屬書規定ノ範圍ニ関シテモ賠償委員会  
ノ解釈ニ俟タサレハ充分明ニスルヲ得サル点アリ然ルニ同  
盟及聯合國側ニ於テハ五月末「ブラッセル」ニ會議ヲ開キ  
賠償問題ヲ議決セントシ且過般同盟及聯合國側ヨリ独逸ニ  
交付セル文書中ニ独逸方未タ賠償査定期間短縮ニ関スル提  
案ヲ為ササルコトヲ指摘セル点モアリ尙本邦損害額ノ調査  
ハ此際至急ヲ要スルモノト認メラルヲ以テ前記未定ノ点  
等ハ確定次第夫々措置スルコトトシ此際勅令ノ如キ重キ形  
式ニ依ラス省令ニ依リ從テ朝鮮、台湾、関東州、樺太及青  
島ニ於テハ夫々省令ト内容ヲ同シクスル命令ニ依リ被害者  
ヲシテ損害ヲ申告セシメ之ヲ査定スルコトトシ關係各省係  
官内協議ノ上別紙省令案ヲ作成セリ

本令ニ依リ損害ノ申告ハ賠償委員会ニ提出スル為メノ損害  
額査定ノ資料トスルニ過キサルモノナルヲ以テ未タ賠償ト  
シテ得タル物件ヲ被害者ニ分与方等ニ関スル問題ニ触ルル  
モノニアラス此点ハ誤解ナカラシムル為メ新聞紙等ニ依リ  
周知セシムル様措置スヘク賠償トシテ得タル物件殊ニ船舶

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 六八一

八号第九号又ハ第十号ニ該当スル損害ヲ受ケタル帝國臣  
民(帝國法人ヲ含ム)ハ本令ニ依リ其ノ損害ヲ外務大臣  
ニ申告スヘシ

第二条 前条ノ申告ハ別記様式ニ依リ大正九年七月十日迄

ニ申告者ノ居住地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

第三条 申告者ハ三通ヲ作成シ且損害ヲ証スル書類三通ヲ

添附スヘシ

第四条 地方長官前条ノ申告書ヲ受理シタルトキハ調査ノ

上意見ヲ附シ遲滞ナク之ヲ外務大臣ニ進達スヘシ

第五条 虚偽ノ申告ヲ為シタル者ハ七十円以下ノ罰金若ハ

科料ニ処ス

第六条 本令中地方長官トアルハ外国ニ在リテハ在外公館

長トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

註 別記損害申告様式ヲ省略ス

(附記)

対独平和条約ニ基ク損害申告方ニ関スル閣議案説明書

対独平和条約第八編賠償条項規定ノ損害額算出ノ標準及損

ニ付キテハ之ヲ被害者等ニ分与スヘキヤ否ヤハ列國ノ意纏  
ヲモ參照シテ慎重ニ審議スヘク又該物件ヲ被害者ニ分与ス  
ル場合ニ於テハ其ノ分与方法等モ同様追テ審議スヘシ  
本件ニ關係アル省ハ外務省ノ外陸軍、海軍、農商務、大  
蔵、通信及内閣(殖民地關係)ナルモ殖民地青島及南洋委  
任統治地ニ関シテハ別ニ命令ヲ發シ措置スルコトナルヲ以  
テ本令ニ署名スルハ四大臣トシ本閣議案ノ署名ヲ以テ本省  
令ニ署名セラレタルモノト看做シ直チニ發表ノ手續ヲ取り  
タシ

六八一 五月十一日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

津浦鐵道北段湖廣鐵道ニ対シ独逸人ノ有スル

權利内容及津浦鐵道北段ニ関スル日英間ノ了

解ニ付問合ノ件

別電

五月十二日松井大使發内田外務大臣宛電報第八

一二号

対独条約第二二六〇条ノ適用ニ関スル賠償委員会

ヨリノ來翰原文

第八二二号

(賠償実施第三六号)

八七三

貴電第三五八号及第三五九号ニ関シ

一、賠償実施第二七号所報賠償委員会ノ書翰ニ依レハ支那ニ於ケル或種公共事業又ハ特許事業ニ関スル独逸人ノ權利、利益ニ付对独条約第二百六十条ヲ適用セシムル場合ニハ之カ適用ヲ賠償委員会ニ要求シタル国ニ於テ右權利、利益ヲ取得シ(賠償委員会ハ單ニ中繼キトナルニ過キス)取得國カ其ノ價格ヲ賠償委員会ニ支払フヘク換言スレハ賠償勦定ニ於テ同國ノ借方ニ計上スルコトナル次第ハ前記ノ往電ニテ御了承ノ儀ト存スルモ貴電第三五八号御来示ノ趣ニテハ賠償委員会来翰ノ趣旨未タ充分貫徹シ居ラサル様ニモ見受ケラルルニ付為念右来翰原文電報ス(別電第八二二号) 一、对独条約第二百六十条ハ支那ニ於ケル public utility undertaking 又ハ其ノ他「コンセシヨ」ニ関スル權利、利益ニ就キテノニ適用アルモノナルヲ以テ貴電第三五九号御来示ノ支那改革借款及英、独公債独逸側持分ニモ同条ヲ適用シ得ルヤ願ル疑問ニ屬スヘク猶貴電第三五八号津浦鐵道北段及湖広鐵道ニ付独逸及独逸人ノ有スル權利ノ内容詳細御電示マリ度ヲ津浦鐵道北段ニ関スル独逸ノ利權ニ付テハ大正六年三月在支林公使ヲ英國代理公使ヲノ間ニ於

ケル文書往復ノ次第(講和ニ關係アル支那問題ニ関スル諸文書第二十三) 竝ニ大正八年在英大使ト英國政府トノ間ニ交渉アリタル以外ニテ別ニ日英間ニ独逸ノ權利ニ付何等カ了解成立シ居ル次第ナリヤ当方ニテハ判明シ兼スルニ付之レ又併セテ御電示ヲ請フ

在英大使ヘ転電セリ

(別電)

五月十二日松井大使發内田外務大臣宛電報第八二二二号

对独条約第二六〇条ノ適用ニ関スル賠償委員会ヨリノ来翰原文第八二二二号

The Reparation Commission had the honour to request that you will bring to the notice of your Government that the discussions which have taken place in the Commission on the subject of the exercise of the option given to the Commission by Article 260 of the Treaty of Versailles; under this Article, the Commission has a right to demand, within one year of the coming into force of the Treaty, that the German Government "become possessed of any rights and interests of German nationals in any public utility undertaking or in any

concession operating in Russia, China, Turkey, Austria, Hungary, and Bulgaria, or in the possessions or dependencies of these States or in any territory formerly belonging to Germany or her Allies, to be ceded by Germany or her Allies to any Power or to be administered by a Mandatory under the present Treaty."

In view of the importance, from the point of view of the re-establishment of German economic life, of securing that, this option, in so far as it may be decided to exercise it, should be exercised with as little delay as possible, and any rights and interests not required by the Commission under Article 260 set free in order to enable Germany to provide herself with foreign credits for the purchase of food and raw materials, the Commission proposes to invite the German Government to submit the return required by the second Paragraph of the Article with as little delay as possible, and has expressed its willingness to inform the German Government, at the earliest possible date, of any rights or

interests, the cession of which it may decide not to demand.

The demand of the Commission will be probably limited to such rights and interests as particular Allied and Associated Governments may themselves desire to acquire and, in order to facilitate the proposed arrangements, I am to request that you will move your Government to furnish you, not later than 1st May next, with a list of any such rights and interests specified.

The value thereof, as determined under Article 260, will be credited to Germany in reparation account and (in so far as actual payment in cash is not required by the Commission) it will be debited in that account to the Power acquiring them. It must, however, be clearly understood that the amounts arrived at will in each case be treated as the equivalent of a cash payment on reparation account to the Powers concerned, and that if, upon the first settlement under Article 237, the aggregate receipts of the Power concerned up to the

date of settlement (including the amount above referred to) exceed the amount due to that Power in respect of the distribution, the amount of such excess will be repaid to the Commission in cash.

The Commission further reserves the right to claim payment in cash, in any time its general cash requirements should make it necessary, in which event the debt in the reparation account would of course be cancelled upon receipt of the cash payment.

The present letter is being addressed only to the delegates of Great Britain, France, Italy, Japan and Belgium, and to the unofficial representation of the United States of America, without prejudice whatever to the full powers of the Reparation Commission to demand and to dispose of any of the rights and interests in question in any other manner it may see fit.

Matsui

六八二 五月十二日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国ニ於ケル独逸側ノ權利ニ関シ森財務官ニ  
於テ英國側ノ意向ヲ尋ル様電報ノ件

第八二九号 (五月十四日接受)

本使発在英大使宛電報貴大臣御参考迄ニ転電ス  
第四七一号 (Urgent)

(賠実第三五号)

森財務官ノ

本省来电第三五八号及第三五九号ニ関シ

開場ハ英國賠償委員ト内談シタルニ英國委員ハ条約二六〇条ニ掲グル權利利益ノ希望申出方ニ関スル賠償委員会ノ書翰ニヨリ既ニ期限到来セルニモ拘ラズ英國ハ未ダ何等ノ返答ヲナサズ又何時返答ヲナシ得可キヤ自分ニハ判明セズ依ッテ如何ナル權利ノ希望ヲ表示スルヤ全ク不明ナリ支那ニ於ケル独逸側ノ權利ニ付テハ英國ハ日本ト關係スル所多キヲ以テ自分ハ本件ニ関シテハ森氏が英國商務省ト内談セラ  
ルルノ可ナルヲ友誼的ニ「サゼスト」スト  
察スル処英國賠償委員ニ於テモ本件ノ如キ問題ハ未ダ十分

研究シ居ラザルモノノ如ク又英國政府トテモ日本政府同様本件ニ関スル平和条約ノ適用ニ関シ未ダ的確ノ見解立チ居ラザルコトカト想像セラレ差当リ日本側トシテハ時々英國側ト意見ヲ交換シ其所見ヲ日本政府ニ報告シテ政府決定ノ材料ヲ供スルノ外ナキカト存ゼラル依ッテ貴官ハ本省来电第三五八並ニ三五九号ノ趣旨ヲ諒シ英國側ノ意嚮ヲ尋ネ其結果至急電報アリタシ尚津浦鉄道湖広鉄道ニ関スル關係書類ハ貴地大使館ニ付御調査ノ方却ッテ便宜ト思考セラレ且本件ハ日本ニトリテ最重要ナル問題ニ付珍田大使トモ篤ト御相談アリタシ

外務大臣へ転電セリ

六八三 五月十二日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

対独条約財政条項ノ解釈及施行ニ関シ賠償委

員会へノ委任ノ可否ニ付請訓ノ件

第八三〇号 (五月十四日接受)

賠実第三四号

一、対独条約第九編財政条項ノ解釈及施行ニ関シ四月十九日賠償委員会ハ日本ヲ除ク他ノ主タル同盟及聯合國及白国  
一〇 対独平和条約ノ賠償委員実施ニ関スル件 六八三

政府ノ委任アリタルニ依リ賠償委員会自ラ之ヲ受諾シ其ノ衝ニ当ルベキ旨決議セリ

二、尚賠償委員会ハ日本政府ニ於テモ該委任ヲ希望スベキヤヲ日本委員ニ問合スベキ旨決議シ該決議ヲ通知シ来レリ  
三、惟フニ賠償委員会ニ於ケル日本ノ權利ニハ制限アルヲ以テ委任ヲナシタル場合ニ於テハ本件ニ付他ノ委任國ノ如ク出席且投票ノ機會無シサレバトテ日本ノ出席權及投票權ヲ承認セシムル等其ノ他ノ条件ヲ附シテ之ヲ委任スルハ賠償委員会ノ根本的組織ヲ變更スルコトナリ之ヲ嚴格ニ論議スレバ賠償委員会ノ改造並条約ノ改正ニ相当シ之ヲ主張スルコト多大ノ困難アルノミナラズ之ニ關聯シテ列國ノ感情ヲ害スルコト無キヲ保セズ已ニ他ノ諸國モ之ガ委任ヲナシ賠償委員会ガ之ヲ受諾シタル以上独リ日本ノミ之ト異ル態度ニ出ヅルハ面白カラザルヲ以テ主義トシテハ矢張り日本モ其ノ委任ヲナス外ナキモノト思考ス尤モ財政条項ヲ通覽スルニ實質上直接ニ深ク日本ノ利害ニ関スル条項ハ之ヲ発見セズ素ヨリ占領軍ノ費用優先支払(第二五一条第二三五条)ノ如ク間接ニ日本ノ賠償關係ニ影響ヲ及ボスモノアリ又第二五九条ノ如ク「主タル同盟及聯合國」ノ文字ア

ル場合ニハ一層日本ノ権利ヲ主張スルヲ得ベケレ共強ヒテ賠償委員会ノ根本的組織ヲ変更シテ迄モ之ヲ主張スル実益無カルベキヲ以テ前段ノ委任ヲナスニ際シ日本ノ利害ニ関スル事項ニ就イテハ賠償委員会ハ其ノ実行ニ先チ予メ日本ニ相談ヲナス程度ノ諒解ヲ求メ置ク旨ヲ附加シテ之ヲ委任シテハ如何ト思考ス至急何分ノ御回訓ヲ請フ  
在英大使へ転電セリ

六八四 五月十二日 在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償委員会ニ於ケル対独条約第二六〇条問題

討議ノ経過報告ノ件

第八三一号 (五月十四日接受)

賠実第三七号

賠実第二七号ニ関シ其後入手セル賠償委員会議事録ニ依リ同委員会ニ於テ対独条約第二六〇条問題討議ノ経過ニ付知り得タル点取敢ヘズ電報ス尚本件ニ就テハ委員会ノ態度其他必要ノ諸点取調ノ上追テ申進スベシ

第一、三月二十二日ノ會議ニ於テ聯合各国政府ガ取得ヲ希望スル権利ヲ賠償委員会ヨリ問合スベシト提議シタルハ米

国委員ナリ然ルニ四月ニ至リ米国委員ハ覺書ヲ委員会ニ提出シタリ其ノ要旨ニ曰ク米国政府ハ対独条約第二六〇条ハ賠償ノ目的ノ為ニ一切ノ利害關係國ノ共同代理者トシテ賠償委員会ガ同条所定ノ権利及利益ノ引渡ヲ受クルコトヲ規定スルモノナリト解ス從ツテ同条ニ從ツテ引渡サレタル權利及利益ヨリ或一國ガ特別ナル利益ヲ取得スルノ權能ナシト解ス若シ賠償委員会ガ右ノ權利及利益ヲ取得シタルトキハ委員会ハ出来得ル限り多額ノ金額ヲ賠償ノ為ニ適用シ得ル様之ヲ処分スルニ努メザルベカラズ最高額ハ恐ラク公売ニ由リテ之ヲ得ベシ尚米国政府ハ第二六〇条ニ依リ支那ニアル權利及利益ヲ独逸ヨリ要求スルコト望マシカラズト思考ス若シ支那ガ条約ノ当事者ニシテ第二九七条ニ依リ与ヘラレタル權利ヲ行使スルコトヲ希望セバ第二百六十条ニ依リ支那ニアル独逸ノ權利及利益ヲ有効ニ取得スルコト不可能ナルベシ將又參戰國ノ一トシテ且對独条約ニ依リ拘束セラレザル國家トシテ支那ハ若シ希望スレバ恐ラク其ノ法權内ニアル財産權ニ對シ主權ヲ行使シ依ツテ以テ第二六〇条竝在支那独逸權利及利益ノ有効ナル引渡ヲ防止スルノ地位ニアリ

第二、四月九日ノ會議ニ於テ英國委員ハ前記米國委員覺書ノ前段ニ関シテ曰ク米國政府ノ同意ヲ得テ既ニ為シタル行為ハ(各國政府ノ希望スル權利及利益ヲ問合セタルモノト察セラル)各國政府ノ申出ヲ考慮スル義務ヲ賠償委員会ニ負ハシムルニ似タリ余ハ之等ノ申出ヲ承諾スル義務アリト

(脱)ザルモ之ニ付考慮ヲ加フル義務アリト信ズト然ルニ米國委員ハ答ヘテ曰ク余ハ本國政府ヨリ極メテ確平タル訓令ヲ受ケタルヲ以テ此ノ点ニ就テハ留保ヲナサント欲スト述ベ米國委員覺書前段即チ在支那独逸權利及利益ニ関シ議長ハ本件ハ法律問題以上條約ノ解釈問題ヲ提起スト述ベ法律部ニ附託シテ考究及報告ヲ求ムルコトニ決定シタリ

第三、独逸政府ニ送付ス可キ書翰ハ四月九日ノ會議ニ於テ確定シタリ其要旨ニ曰ク

賠償委員会ハ独逸政府ニ要求スルニ委員会ヲシテ平和條約二六〇条ニ依リ其ノ有スル選擇權ヲ不必要ナル遅延ナクシテ行使シ得ル為出来得ル限り速ニ同条所定權利及利益ノ表ヲ提出スルコトヲ以テス委員会ヲシテ出来得ル限り速ニ本件ニ関スル決定ヲナサシムルハ独逸政府ノ利益ナリ何トナレバ選擇權ノ行使セラレ又ハ放棄セラルル迄ハ独逸政府モ

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 六八五

又其人民モ前述權利及利益ヲ直接又ハ間接ニ外國人ノ利益ニ於テ離脱シ又ハ之ニ質權抵當權ヲ設定シ又ハ管理ニ関スル行為以外ノ行為ヲナスコト能ハザレバナリ委員会ハ右ノ表ヲ受ケ取りタル後出来得ル限り速ニ讓渡ヲ要求セズト決シタル權利及利益ヲ独逸政府ニ通告ス可シ

第四、四月廿一日ノ會議ニ於テ伊太利委員ハ第二六〇条ノ適用ヲ伊國政府ガ賠償委員会ニ要求ス可キ公共事業及特許事業ニ関スル權利及利益ノ表ノ作成ニ関シ政府ハ既ニ之ニ着手シタレドモ五月一日前ニ終了シ得ルヤ明カナラズ然レドモ出来得ル限り速ニ右ノ表ヲ委員会ニ提出スル為伊國政府ハ一切ノ努力ヲナスベシト述ベタリ

六八五 五月十六日 在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

米國委員提出覺書ノ在中國独逸權利利益問題

ニ関スル賠償委員会法律部意見書要領報告ノ件

第八四九号 (五月十七日接受)

賠実第三九号

往電賠案第三七号所載米國委員覺書ニ對シ賠償委員會法律部ハ意見書ヲ作成シ之ヲ委員會書記局ニ提出シタル趣ニテ本邦委員ノ需ニ依リ書記局ヨリ内報シ来レリ要領左ノ通り米國委員ノ覺書ハ二個ノ問題ヲ包含ス

第一問題

若シ支那ガ对独条約ニ調印ストセバ第二六〇条ノ規定ハ支那ノ関スル限リニ於テハ第二九七条ト両立セザルニ非ザルカ第二九七条ニ依リ同盟及聯合國ノ一トシテ支那ニ与ヘラレタル清算權ハ第二六〇条ニ依リ支那ニ在ル或ル權力、權利及利益ノ移轉ニ関シ賠償委員會ニ与ヘラレタル權力ニ對シ優先スベキモノニ非ザルカ

第二問題

協同交戦國ノ一ニシテ且对独条約ニ拘束セラレザル國トシテ支那ハ其法權内ニ在ル独逸財産ノ第二六〇条ニ依ル有効ナル移轉ヲ防止スベキ地位ニ在ラザルカ

第一問ノ意見

公私有敵財産ヲ清算スル權利ハ第二九七条(b)ニ依リ与ヘラレ然レドモ同項ハ左ノ辭句ヲ以テ始マル

Subject to any contrary stipulations which may be

ルコトヲ規定ス賠償委員會及(脱)ニ同一ノ財産ニ関シ同一ノ權利ヲ行使セント希望スル時ハ如何ナル情態トナルベキカ第二六〇条ニ依リ与ヘラレタル權利ハ第二九七条ニ依リ同盟及聯合國ガ取得スル權利ヲ行使セザル範圍ニ於テノミ之ヲ行使スルコトヲ得即チ是等兩条ハ相互ニ排他的ナリト解釈スベカラズ寧ロ補充的ナリト解釈シ此ノ見地ヨリシテ左ノ見解ハ疑ヲ挾ムノ余地無シ

A、第二六〇条ヲ插入シタル条約作成者ノ目的ハ独逸對案ニ對スル同盟及聯合國ノ回答中明瞭ニ記述セラル曰ク「同盟及聯合國ハ露西亞及曩ニ独逸ノ同盟國タリシ諸國ニアレ一切ノ公益事業及一切ノ特許事業ニ於ケル独逸人ノ權利及利益ノ讓渡ハ保護及賠償ノ目的ノ為ニ極メテ緊要ナリトノ意見ヲ有ス加之同盟及聯合國ハ戰爭中独逸ガ其ノ同盟國及露西亞ニ對シ有シタル制御權ヲ如何ニ利用シタルカラ會得シ得タリ而シテ之等ノ國ニ於ケル公權ノ一切ノ附与ヲ独逸ヨリ撤去スル權利ヲ有スト思考ス云々」(右ノ回答中ニテハ支那ノ字句無シ然レトモ後ニ第二六〇条中ニ掲ゲラレタリ)之ヲ以テ条約作成者ノ目的ハ特別ナル政治上ノ性質ヲ有シタリ即チ第二六〇条ニ準グル諸國及諸領土ニ於テ独逸

provided for in the present Treaty

之ヲ以テ条約ガ明瞭ニ第二九七条ニ依ル清算權ヨリ敵財産ノ或ル種類ヲ除外スル場合又ハ之ニ關聯スル特別ノ規則ヲ規定スル場合ニハ第二九七条ノ原則ハ適用シ得ザルコト明カナリ

第二九七条一般原則ニ反対ナル規定ヲ見ルニ就中第五三条ハ或ル独逸人ノ財産ヲ清算權ヨリ除外シ第四編第二款「支那」第三款「山東」ハ明瞭ニ第二九七条ニ依リ支那ニ与ヘラレタル清算權ヲ無効ナラシメ又ハ制限ス(第五六条)(一三〇条)(一三四条)此ヲ以テ考慮スベキ問題ハ第二六〇条ノ定ムル原則ハ第二九七条ノ原則ニ對スル反対規定ヲ為スモノト思考シ得ルヤ否ニアリ

法律部ハ全会一致此ノ問題ニ對シ否定的回答ヲ為ス前掲各条項ハ皆第二九七条ノ与ヘタル一般權利ニ對スル明瞭ナル反対ヲ包含スル反対規定ナリ然レトモ第二六〇条ノ第二九七条ニ對スル關係ハ然ラズ第一ニ注意スベキハ之等ノ二ヶ条ハ賠償委員會又ハ同盟及聯合國ニ對シ何等ノ義務ヲ負擔セシムルモノニ非ザルコト是ナリ第二九七条ニ依リ同盟及聯合國ハ權利ヲ保留シ第二六〇条ハ賠償委員會ガ要求シ得

ヨリ一切ノ公權ノ附与ヲ撤去スルニアリキ土耳其境地利及洪牙利及勃爾牙利ガ問題ナル時ハ何等特殊ノ困難無シ然レトモ問題トナレル國及領土ガ今論ジツツアル場合ノ如ク同盟及聯合國中ノ一ニ屬スル國又ハ領土ナル時ハ右ノ目的ハ賠償委員會ノ仲介無クシテ之ヲ解決スルコトヲ得即チ同盟及聯合國ガ第二五二条及第二九七条ニ依リ与ヘラレタル權力ヲ行使スレバ足レリ之ヲ以テ其ノ財産ヲ所有セル國ニ優先權ヲ与フルコト論理的ナリ

然レドモ条約ハ同盟及聯合國中ノ或者ガ独逸人ノ保有スル特許事業及公共事業ニ関シ權利ヲ行使セザルコトアル可キヲ考慮シタリ斯ノ如キ場合ニ条約ハ第二六〇条ニ依リ賠償委員會ニ与フルニ条約實施後一ヶ年内ニ独逸ガ之等ノ資産ヲ賠償委員會ニ讓渡スベキコトヲ要求スル權利ヲ以テス之ヲ以テ若シ条約實施後一ヶ年内ニ關係同盟及聯合國ガ独逸人ノ保有スル特許事業又ハ公共事業ノ徵收ノ為ニ手段ヲ執ラザル時ハ賠償委員會ハ自己ノ為ニ右事業ノ讓渡ヲ要求スル權利ヲ有ス

B、第二九七条ニ規定スル權利ニ第二六〇条ニ規定スル權利ヨリモ優先權ヲ与フ可キ一ノ他ノ理由アリ此ノ理由ハ國

家が其ノ領土ニ於テ又其ノ領土ニ對シテ有スル主權ヲ根拠トス支那ノ領土ニ在ル資産ガ問題ナル時殊ニ其ノ資産ガ官憲ノ特許ノ結果ナル時ハ支那國政府ハ其ノ主權ニ基キ其ノ資産ノ踏襲及恢復ノ為ニ手段ヲ執ル優先權ヲ有スルコト明白ナリ一國際組織ニ与ヘラレタル同様ノ權利ハ主權ヲ有スル國家ガ默視スルニ非ザレバ之ヲ行使スルコト能ハズ

C、加之第二六〇条ハ露西亞支那奧地利洪牙利及土耳其ニ在ル特許事業及公共事業ノミナラズ曩ニ獨逸又ハ其ノ同盟國ニ屬シ何レカノ國ニ割讓セラレ又ハ本條約ニ依リ委託統治ヲ受クル領土ニ於ケルモノニモ關係ス条約起草者ノ意思ガ例ヘバ仏蘭西又ハ白耳義ニ割讓セラルル領土ノ關係ニ於テ明白ヨリモ賠償委員會ニ優先權ヲ与フルニアリシコトヲ認ムルコト困難ナリ此等諸國ハ此ノ關係ニ於テ有スルコト疑ノ余地ナシ同一ノ解決ハ支那ニモ適用ナカル可カラズ

D、第二九七条ノ他ノ項モ亦此ノ結論ヲ助ク同条項中(不明)ノ非常戰時手段ハ終局的ナルコトヲ規定シ其ノ手段ハ關係國ガ其ノ領土ニ存在スル敵財産權利及利益ヲ清算シ販売シ又ハ押収スルコトヲ包含ス

此ノ規則ヲ支那ニ適用スルニ當リ第一三三條ハ一九一七年八月十四日以後同國ニ在ル獨逸財産權利及利益ノ清算押収

又ハ管理ヨリ生ズル一切ノ請求權ヲ獨逸ガ拋棄スルコトヲ規定ス之ヲ以テ若シ支那ガ条約實施前ニ又ハ其ノ批准後ニ第二六〇条ニ掲グル獨逸財産ノ清算ノ為ニ手段ヲ執ル時ハ第一三三條ハ支那ノ行為ヲ正当ナラシム然シテ賠償委員會ニ對スル關係ニ於テモ又然リ之ヲ以テ支那ニ存在スル獨逸ノ財産ニ付賠償委員會ガ第二六〇条ニ依リ与ヘラレタル權利ヲ行使シ得ルハ只支那ガ本條約實施(一九二〇年一月十日)後一ケ年以内ニ右ノ財産ヲ清算シ又ハ押収スル手段ヲ執ラザル範圍ニ於テノミナルコト明カナリ

第二問ノ意見

第二ノ問題ニ對シテハ法律部ハ肯定的ニ回答スベシト思考ス

支那ガ獨逸ト戰爭状態ニアリタル際ヨリ條約ヲ批准セザル間ハ疑モナク支那ハ其ノ主權ニ基キ其ノ法權ニ乘タル獨逸財産ノ第二六〇条ニ對スル有効ナル移轉ヲ防止シ得ルコト確實ナリ之主權ヲ有スル何レノ國家ニモ屬スル權利ナリ

若シ例ヘバ獨逸國人ノ經營スル支那ノ領土ニ在ル特許事業又ハ公共事業ガ問題トナルトキハ支那政府ハ疑モナク其ノ押収又ハ清算ノ為ニ適當ト思惟スル手段ヲ執ル權利ヲ有ス而シテ其ノ結果第二六〇条ニ依ル有価証券又ハ特許事業若

クハ企業ノ有効ナル移轉ヲ妨グル權利ヲ有ス

然レ共法律部ハ獨逸政府又ハ獨逸國人ニ屬スル第二六〇条所掲ノ公共事業及特許事業ニ関スル權利及利益ハ支那ノ会社ニアラザル会社ノ株式ノ形ニ於テ存在スルトキハ支那ガ其ノ主權ヲ行使シテ右株式ノ移轉ヲ妨グル權利ヲ有スルヤ否ヤ疑アルコトヲ指摘セント欲ス法律部ハ尚賠償委員會ガ或場合例ヘバ其ノ權利ヲ行使スルコトナクシテ一箇年ノ期間ノ満了ヲ妨グル為獨逸ニ関スル予備手段トシテ第二六〇条ガ同委員會ニ与フル權利ヲ利用スルヲ得ベキコトヲ附加セザルベカラズト思惟ス

英國伊太利へ転電セリ

六八六 五月十七日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

英仏兩國首相獨逸ノ賠償問題等ニ付協議ノ上

コミュニケ発表ノ件

第四四三号 (五月二十日接受)

英仏両首相兩國大蔵大臣及財政顧問ヲ帶同シテ D'Hythe (Folkeston 近傍) ニ会合シ十五十六日ニ亙リ協議ヲ重ネタルガ十六日左ノ要旨ノ Communiqué ヲ発表セリ

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 六八六 六八七

英仏兩國政府ハ一方戰爭ニ基ク損害賠償ヲ急速実行セシムル為必要資源ヲ直チニ有効ニ利用セシムルト共ニ他方獨逸ヲシテ其ノ債務ヲ急速履行セシメ依テ以テ其ノ財政上ノ自立ヲ得セシムルコトノ必要ナルヲ認ム又世界ノ經濟的難局ヲ救ヒ且平和ノ新紀元ヲ劃センガ為戰爭ニ依ル一切ノ國際債務問題解決方針ヲ示シ且聯合國間ノ債務關係ヲ敵國ノ賠償仕払ニ応ジテ決済スルコトヲ保証スルノ決定ニ到達スルノ必要ナルヲ認ム依テ英仏兩國専門委員ニ左ノ事項ヲ托ス

一、同盟國ガ容認シ得ルモノニシテ獨逸ノ仕払能力ト兩立シ得ル獨逸債務最小限度ノ總額ヲ決定スルコト

二、獨逸債務ト仕払及 Capitalisation ノ方法ヲ定ムルコト

三、獨逸ノ仕払額ヲ同盟國間如何ニ配分スベキヤノ条件ヲ定ムルコト

尚新聞報ニ依レバ「スパー」會議ハ獨逸總選挙ノ終了ヲ待チ六月二十一日開催セラルベク講和条約就中獨逸軍備制限ハ右会期前ト雖モ嚴重之ヲ實施スルコトニ一致セル趣ナリ

六八七 五月十八日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題等ニ関スル英仏首相ノフォークスト

八八三

ン会談ニ付巴厘ニ於テ発表セラレタル情報報

告ノ件

第八五六号

(五月十九日接受)

英仏首相「フォークストン」会談ニ就テハ当地ニテ発表セラレタル経過情報大要左ノ通り

一、十五日午前ノ会議ニテ「スパー」会議日取延期ノ件協議セラル伊太利政変ノ結果同国ヨリ「スパー」会議延期ノ請求アリ一面ニハ独逸政府ノ選挙ニ対スル掛引ノ關係上同会延期ヲ希望スル旨非公式ニ申入アリタルヤニテ仏国政府モ六月二十一日迄会議期日ヲ延期スルコトニ同意シタリ(比律悉ノ財政會議モ從テ右期日後ニ延期セラルル由)但シ対独条約中不履行ノ点ハ本會議ノ延期ニ關係ナク独逸ヲシテ実行セシムルコト又「スパー」會議ニテ条約ノ修正変更ヲ討論スルヲ許サザルト共ニ独逸ノ軍備制限ハ嚴重ニ履行セシムルコトニ意見一致シタリ

二、賠償問題ニ就テハ「サンレモ」ニテ主義ノ決定アリタル通り独逸ニ対シ一定ノ金額ノ仕払ヲ「スパー」ニテ要求スルコトニ双方異存ナキモ仏国側ヨリハ其ノ条件トシテ独逸ノ賠償金ニ対スル先取特權ヲ主張セリ即チ占領軍維持ノ

為ニスル経費仕払ヲ第一トシ之ニ次デ仏国及白耳義ノ荒廢地復旧ニ関スル経費トシテ先ヅ以テ一定額ヲ先取スル權利ヲ要求シタリ然ルニ英國側ニ異議アリ其儘散会セリ

三、十五日午後財政専門委員ヲ招致シテ其ノ意見ヲ聴取ス「ロイド、ジョージ」ハ占領軍ノ費用ノミニテモ年額三十(脱)馬克ニ達ス独逸ノ現状ヨリスレバ此ノ上多数ノ資金ヲ仕払ハシムルコト当分困難ナルベシ又仏白兩國ノ事情ハ之ヲ諒トスルモ英國ニテモ Dominion ノ如キハ兵卒及遺族ヘノ年金ハ賠償金額ヲ以テ充當スルコトトナシ居レルガ之等ノ年金ハ性質上荒廢地人民ニ対スル賠償ヨリ後廻トナシ得ベシトハ思ハレズ旁仏国原案通りノ賠償額及先取特權ノ二問題トモ直チニ承諾シ難キ旨ヲ主張シタリ

四、茲ニ於テ仏国ハ左ノ対案ヲ提出セリ  
独逸ハ向フ三十三箇年ニ亘リ賠償金額千二百億馬克ヲ仕払ヒ其ノ一部ハ独逸復旧ノ為聯合國及中立国ヨリ独逸ニ供与スル credit ヲ以テ仕払ニ當テ得ルコト仏国ハ又独逸ノ賠償金ヲ即時ニ利用スル必要ニ迫ラレ居ルニ付右最小金額ヲ引當ニ独逸及聯合國(中立国モ場合ニ依リ参加セシム)連帶ノ國際公債ヲ発行スルコト

政専門委員ニ回附シテ研究セシメ追テ開カルベキ「オスタンド」ノ協議會ニ報告セシムルコトナレリ但シ客年十二月決定シタル通り賠償総額ノ五割五分ヲ仏国ニテ受ケ取り其ノ二割五分ヲ英國ニ於テ受領スル点ハ確定議トシテ何等變更セラレズ

六、英仏間ノ石炭供給ニ関スル協議ハ大体左ノ通結着セリ從前ノ價格ハ一噸七拾五志ナリシ処昨年拾一月以來炭價ノ騰貴シタル為現ニ時価トノ間ニ三拾五志位ノ開アリ英國側ハ此ノ点ニ於テ契約ノ變更ヲ主張シタルモ仏国側ノ固執ニ依リ依然七拾五志ニ据置クコトトセリ但シ英國ハ旧來輸出炭ノ四割五分ヲ仏国ニ割當テタルガ最近輸出額ヲ半減スル議アルニ付從前通りノ石炭量ヲ仏国ニ供給スル能ハザル事情アリ此ノ点ハ仏国ニテ同意ヲ表シタリト云ヒ因ニ仏国當局ノ声明ニ依レバ Sire 地方ヨリノ石炭供給漸次増加シ來タレルト米國ヨリノ輸入炭毎月三拾万乃至(不明)拾万噸アルニ依リ何トカ填合ヲ着ケ得ベシトノコトナリ

七、聯合國相互ノ貸借ニ付テハ独逸ノ賠償支払ニ準ジ年々ノ還償額ヲ定メ且独逸ヨリ賠償ノ支払ヲ受ケザル時ハ聯合國間ノ支払モ之ヲ停止スルコトヲ得ル様取極ムルコトニ大

仏国提案ノ基礎ハ戦争ニ基ク損害額千五百二十億法年金五百八十億法ニシテ合計二千百億ニ達ス然ルニ金一馬克ノ相場ハ現在相場ハ現在三法強ニ相当スルヲ以テ二千百億法ハ金六百六十億馬克トナル計算ナリ(六百六十億馬克ハ千二百億馬克ノ五割五分ニ相当シ仏国ガ総賠償額ノ五割五分ヲ受取り得ル關係上此ノ数字ヲ算出セルモノナリ)

五、英國ハ先取特權ニ就テハ講和會議ノ際既ニ問題トナリ擬議ノ末「クレマンソー」ヨリ撤回シタル案ナレバ再ビ仏國ヨリ提案セラルベキ筋合ニアラズト答ヘ且賠償額ヲ千億馬克三十箇年賦ニシ利子ヲ附セザルコトトナシ度キ旨ヲ提案セリ英國案ニ依レバ仏國ガ受ケ取ルベキ額ハ五百五十億馬克ニ相当シ之ヲ直チニ市場ニ売出ストキハ僅ニ二百八十億馬克ノ手取トナル計算ニシテ仏國案トノ間ニ多額ノ開キヲ生ズ尤モ英國ハ國際公債ノ発行ヲ容易ニスル為五箇年間甲種公債ノ発行ヲ禁止スベキ案ヲ提議シタリ仏國ハ特權ノ請求ヲ放棄スル代リニ現在英國ガ仏國ニ貸出セル経費ヲ独逸ノ負担ニ振替ヘンコトヲ求メ英國ハ一応英米ノ資本家ニ諮問シタル上ナラデハ確答シ難キコトヲ答ヘタリ如斯賠償仕払方法及賠償総額ニ對シテハ兩國ノ意見纏マラズ更ニ財

一〇 对独平和条約ノ賠償条項實施ニ関スル件 六八八 六八九

八八六

体一致セリ右会见ハ拾六日午前終了シ Millierand ハ同日夕刻巴里ニ帰着セリ  
在欧大使へ転電セリ

六八八 五月十八日 在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

英仏首相ノフォークストン会谈ノ結果ニ付発  
表セラレタル共同宣言書報告ノ件

第八五七号

(五月十九日接受)

「フォークストン」ニ於ケル英仏首相相会議ノ結果ニ付発表  
セラレタル十六日附共同宣言書左ノ通り

英仏両政府ハ一方戦争ヨリ生ゼル損害ノ賠償ヲ最モ短期間  
ニ確定シ之ガ為必要ナル資源ヲ成ル可ク速ニ利用スルコト  
一般ノ利益ナリト認メ又他方独逸ガ速ニ其ノ義務ヲ遂行シ  
得ル為財政上ノ独立ヲ恢復シ得ルニ至ランコトヲ希望ス故  
ニ兩國政府ハ又世界ノ大勢ニ重大ナル影響ヲ与フル經濟上  
ノ困難ヲ一掃シ確實ニ平和状態ニ入ル為ニハ戦争ヨリ生ジ  
タル各國ノ負担ニ関スル規定ヲ設ケ且聯合國ノ損害及中央  
諸帝國ノ賠償ノ清算ノ為非常ノ手段ヲ執ルコト肝要ナリト  
思惟ス仍テ右ノ為兩國専門委員ハ左ノ事項ヲ調査シテ各々

其政府ニ報告ス可シ

A、独逸ノ債務額最少限度ヲ定ムルコト(該金額ハ聯合國  
ノ承認シ得可キモノナルト同時ニ独逸ノ支払能力ヲモ顧慮  
セザル可カラズ)

B、前掲ノ目的ニ添フ為賠償ノ支払及賠償金ノ最モ適當ナ  
ル利用方法(Mobilisation)ヲ決定スルコト

C、既ニ聯合國ノ一部ニ於テ協定セラレタル方針ニ從ヒ又  
ハ必要ニ応ジテ之ニ修正ヲ加ヘテ独逸ノ支払フ賠償金分配  
ノ条件ヲ定ムルコト

六八九 五月十九日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

中国ニ於ケル独逸側ノ權利ニ関スル英國側ノ

意向ヲ森財務官ヨリ松井大使へ回報ノ件

第四五〇号

(五月二十一日接受)

本使発在仏大使宛電報貴大臣御参考迄ニ転電ス  
第六五〇号  
森ヨリ松井大使へ

貴電第四七一号(賠案第三五号)ニ関シ珍田大使トモ協議  
ノ上小官五月十八日英國賠償關係事務ヲ担任セル英國大蔵

省当局ヲ訪問シ聞取リタル所左ノ通り

一、英國政府ハ今日ノ処平和条約第二六〇条ニ基キ賠償委  
員会ヲ介シ津浦鉄道及湖広鉄道ニ於ケル独逸人ノ權利利  
益ノ讓渡ヲ独逸ニ請求スル意向ナシ

二、支那改革借款及英独公債独逸側持分ハ第二六〇条ノ範  
囲ニ属スルモノト認メズ(以上) (十九日届六)

六九〇 五月二十日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

在中国独逸權利利益問題ニ対スル賠償委員会

法律部意見ニ関シ森財務官ヨリ所見電報ノ件

第四五三号

(五月二十一日接受)

在英大使発在仏大使宛第六五三号  
森ヨリ闕場へ

貴電賠案第四〇号ニ対シ左ノ通り回答ス

一、賠案第三八号所報法律部意見ガ賠償委員会ノ採用スル  
所トナルモ賠償委員会ノ地位殊ニ条約解釈上ノ権限ノ範圍  
ニ照ラシ山東条項其他本邦ニ關係アル問題ニ不利ノ影響ア  
ルベシトハ信ゼズ該意見ニ対シ第二六〇条又ハ第二九七条  
ノ範圍ニ限定セラルベキ旨ノ制限ヲ附スルモ其実益上得ル  
所ナカルベシ且制限主張ノ理由トシテ山東条項等引用ノ已

一〇 对独平和条約ノ賠償条項實施ニ関スル件 六九〇

ムナキニ到ラバ却テ不得策ナルベシ又法律部意見ノ結果ト

シテ賠償委員会ガ第二六〇条執行ニ関シ一切支那關係問題  
ヲ除外スルコトトナラバ山東条項ノ執行上却テ好都合トナ  
ルヤモ計リ難シ

二、本件ニ関シ本邦委員ガ表決権ヲ有ストノ主張ハ法理上  
困難ト察セラル蓋シ具体的ニ本邦ノ利害ニ關係アル問題ノ  
審議ト云フヨリモ寧ろ一般的ニ第二六〇条ノ解釋問題ト認  
ムベキ理由アルニ依ル(尤モ第二六〇条ノ解釋權ノ帰属ニ  
付テハ尚疑問アルベシ)且右(一)ニ顧ミ強テ表決権ヲ争フノ  
実益ヲ見ズ但シ若シ委員会ヨリ出席ヲ要求シ来タラバ貴官  
出席セラレタシ

三、松井大使電報賠案第三五号ニ対スル小官ノ返電ニ依リ  
明ナルガ如ク津浦鉄道及湖広鉄道ニ於ケル独逸人ノ權利利  
益ハ英國政府ニ於テハ要求ノ意向無シ就テハ外務大臣發電  
第三五八号ニ照ラシ本邦政府ニ於テモ右權利利益ノ讓渡ヲ  
要求セザルモノト察セラル旁本件表決権ヲ争フノ必要ナシ  
ト認ム

四、尚右当方意見ノ理由詳細ニ付テハ(不明)森第五八号  
ノ通りニ珍田大使ニモ異存ナシ外務大臣へ転電セリ

八八七

六九一 五月二十二日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对独条約賠償条項第一附属書第五及第七ノ我

方要求額回示方稟請ノ件

第四五九号 (五月二十四日接受)

来ル「スパイ」會議ニ於テハ独逸ノ賠償総額ヲ決定シ併セテ聯合國間分配ノ割合ヲ定ムルニ至ルヤモ計リ難キ形勢ナルニ付本使ニ於テモ此ノ際对独条約ニ基キ本邦ノ要償セントスル賠償額ヲ承知シ置クノ要アリ尤モ大正八年松井大使宛實電講第三一九号乃至第三三三三号ニ依リ大部分ノ損害費目ニ付テハ鈔クモ概數ヲ知り得ルノ地位ニアルモ唯賠償条項第一附属書第五ノ恩給金及第七ノ給与額ニ付テハ未ダ何等ノ御通報ニ接シ居ラズ是等ノ種目ハ列國ノ要償上重要ノ地位ヲ占ムルモノト認メラルルニ付日本政府ニ於テモ調査未完了ナラバ概數又ハ見込額ナリトモ至急当方心得迄ニ御回示相成り度ク尚本件ニ付テハ閣下宛松井大使發電報第一三四号ノ二ヲ以テ上申ノ次第アル処前記種目第七給与額ニ付テハ必ズシモ本邦ニ是ニ該當スベキ法令上ノ根拠無クトモ仏國法律ニ規定スル所ヲ取りテ要償スルノ解釈上ノ余地

ヲ以テ右開催ノ上ハ external preoccupation ノ為妨ゲラレ又ハ延引セラレザランコト緊要ナリトス是ヲ以テ聯合國政府ハ該會議ヲ六月二十一日迄延期スルコト至當ト認メ右ニ對シ独逸政府ノ同意ヲ希望ス云々  
(往電第六一号对独四国声明同様今回モ我國ノ除外セラレタルコト注意ヲ要ス)  
各大使ニ転電セリ

六九三 五月二十五日 在独國出淵臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸政府スパイ會議延期ニ同意ノ件

第八九号 (五月二十八日接受)

往電第八八号ニ関シ  
二十四日付ヲ以テ独逸宰相ヨリ「スパイ」會議延期ノ件同意ノ旨回答ニ接シタル趣英國代理大使ヨリ通報シ来レリ  
各大使ニ転電ス

六九四 五月二十八日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

賠償総額ノ英仏其他同盟及聯合國ヘノ分配ニ

関シ問合ノ件

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 六九三 六九四 六九五

無キヤ御考究ヲ煩ハシ度尤モ此ノ点ニ付テハ賠償委員會ニ於テハ未ダ何等議ニ上リ居ラザルコト御含置アリタシ  
在仏大使へ転電セリ

六九二 五月二十三日 在独國出淵臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

スパイ會議ノ開催延期方ヲ白仏英伊ノ四国政

府ヨリ独逸政府へ申入ノ件

第八八号 (五月二十五日接受)

英國代理大使ハ五月二十二日附書面ヲ以テ白仏英伊四国政府ノ名ニ於テ「スパイ」會議ヲ六月二十一日ニ延期シタキ旨独逸國宰相ニ申入レタル趣「ウォルフ」通信ニ依リ伝ヘラレタルニ付直チニ電話ヲ以テ同代理大使ニ尋ネタルニ其事実ヲ確認シ右書面写ヲ内送シ来レリ其要領左ノ通  
本國政府ノ訓令ニ依リ白仏英伊四国政府ノ合意ニ成ル次ノ「メッセイジ」ヲ伝達スルノ光榮ヲ有ス

六月十日ヲ以テ独逸ニ於テ総選挙ノ行ハルルコトハ聯合國政府ノ注意ヲ喚起セリ「スパイ」會議ノ主要ナル目的ハ聯合國ノ首腦者ニ於テ独逸政府ノ責任アル首腦者ト共ニ独逸ノ条約不履行ニ関スル重大問題ヲ審議スルニアル

第四四四号

貴電第八五六号ニ関シ貴地發表ノ情報トシテ同号ノ三ノ末段ニ客年十二月決定シタル賠償総額ノ五割五分ハ仏國其ノ二割五分ハ英國ニテ受領スル点ハ確定議トシテ何等変更セラレズ云々トアル処右決定ハ果シテ事実ナリヤ若シ事実トセバ其ノ決定ノ方法並ニ右決定ノ際本邦及他ノ同盟及聯合國ノ分ハ如何ニ取扱ハレシヤ等至急御取調ノ上結果回電アリタシ

在英大使へ転電アリタシ

註 松井大使發内田外務大臣宛電報第八五六号ノ三ノ末段ハ同電中ノ「五」ノ項ノ末段ニ該當ス

六九五 五月三十一日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸賠償金ノ分配問題ニ関シ仏國外相ノ説明

新聞ノ報道等回報ノ件

第九二五号 (六月二日接受)

貴電第四四四号ニ関シ

一、独逸賠償金ニ関シ「フォークストン」會談後英仏間ニ分配ノ割合既ニ決定セラレタルヤノ報道アリタルニ付二十

五日日本使「ミルラン」ニ面会ノ序ヲ以テ「フォークストーン」  
 会談ノ内容ニ付承知シ得バ幸ナリト切出シタル処外相ハ独  
 逸ノ賠償問題ニ付テハ何等決定セラレズ凡テ専門委員ノ研  
 究ニ委ネアリト答ヘタルヲ以テ本使ハ新聞ノ報スル所ニ依  
 レバ仏国ハ幾割英國ハ幾何ト極リタル様ナルガ日本モ英仏  
 ノ如キ巨大ノ損害ハナキモ相当ノ損害アリテ独逸ヨリ賠償  
 ヲ受クベキモノト信ジ居レリ何レ是等ノコトニ就キテハ  
 「スパー」ニテ決定セラルベシ各國トモ何レモ協議ヲ受ク  
 ベキコトト思考シ居レル旨ヲ述ベタルニ「ミルラン」ハ全  
 ク其ノ通ナリ今日ノ処何等決定シ居ラズト答ヘタリ  
 二、最近賠償問題ハ仏国下院ニ於テ討議セラレタル際ニモ  
 「ミルラン」ハ本件ニ就キ何等決定セラレタルコトナキ旨  
 ヲ繰返シタルモ新聞雜誌等ニ現レタル議論ハ殆ド仏国五割  
 五分英國二割五分ト云フ分配ノ基礎ヲ既定ノ事実トシテ論  
 ジ居ルガ如キ又外務省筋ニ接近セル新聞記者ノ云フ所モ右  
 ノ分配率ノ決定ヲ想像セシムルモノアリ旁々本件ノ成行一  
 層探索ノ上電報スベシ  
 三、最近当地ノ新聞ガ Foreign press service ノ記事ヲ抜  
 萃シタル一節ニハ賠償金ノ振り当てニ付一層明快ナル数字

第九二六号

(六月二日接受)

本使在英大使宛電報第五三七号  
 本官発大臣宛電報第九二五号ニ関シ Foreign Press Service  
 ノ性質ハ当方ニテ明カナラザルモ同号末段(三)ノ記事ハ政府  
 筋ヨリ出デタル報道カトモ想像セラルル処若シ本件ノ記事  
 ニシテ根拠アリトセバ本邦ノ受取ル可キ賠償ニ大影響ヲ及  
 ボス儀ニ付右記事ノ出処御確メノ上何分ノ御回示煩シ度シ  
 或ハ「スパー」會議ニ於テ本件討議ニ先立チ一応本使及閣  
 下ヨリ仏英兩國政府ニ対シ賠償問題ノ決定ニ関シテハ日本  
 ニモ相談アル可キモノト信ズル旨ヲ申入ルル必要アリト思  
 考ス

六九七 六月一日

在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

対独共同申入ノ際日本ノ参加ヲ求メザリシ事

情ニ付カーゾン外相ノ説明報告ノ件

第四八四号

(六月三日接受)

在独代理大使宛閣下宛電報第六一号及第八八号ニ関シ五月  
 三十一日往電第四八三号会见ノ際対独申入ノ事自体ニ対シ  
 テハ敢テ異議アル次第ニアラザルモ此ノ種申入ニ当リテハ  
 一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 六九七

(ヲ掲ゲタルガ)其ノ大要左ノ通り  
 総額千二百億馬克ノ賠償金ヨリ仏国六百六十億英國三百億  
 其ノ他ノ聯合國二百四十億ヲ請取ルモノトス然ルニ聯合國  
 ハ英米仏ヨリ借リ入レタル金額ハ合計三百八十五億馬克ニ  
 シテ右ノ内露國ニ対スル貸出百四十五億馬克ヲ控除スル時  
 ハ聯合國ニ対スル貸出金ハ独逸ヨリ受取ル可キ賠償金ヲ以  
 テ埋合セ得ル計算トナル英仏ハ自國ヨリ貸出シタル金額ヲ  
 回収スルト同時ニ米國ニ対スル債務ヲ支払フ必要アリ斯ク  
 シテ米國ハ三百七十億馬克ヲ受取リ英仏ハ夫々三百五十五  
 億四百七十五億馬克ヲ賠償金中ヨリ受領シ得ル訳ナリ云々  
 四、前記ノ計算ハ専ラ英仏伊白羅馬尼亞希臘塞爾比亞ノミ  
 ヲ賠償權者ト数ヘタルモノニシテ日本ノ名ヲ掲ゲズ右記事  
 ハ如何ナル筋ヨリ出デタルモノナリヤ当地ニテハ確カナラ  
 ザルニ付在英大使ニ問合セ中  
 在歐米各大使領事ヘ電報セリ

六九六 五月三十一日

在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償金分配ニ関スルF・P・S記事ノ出処確

メ方 在英大使ニ依頼シタル件

日本ハ当然協議ニ与リ参加ヲ誘ハルベキ管ナルニ拘ラズ特  
 ニ除外セラレタルハ了解ニ苦シム所ナル旨ヲ述ベタル処  
 「カーゾン」卿ハ当然ノ抗議ニシテ此ノ種ノ場合ニ対シ從  
 來自分ハ常ニ注意ヲ怠ラザリシ積リナルガ本問題前者ハ左  
 ノ事情ノ下ニ行ハレタルヲ記憶ス即チ「サン、レモ」會議  
 當時「キルマナック」卿ヨリ警告ノ必要ヲ具シテ請訓シ來  
 タリ最高會議ノ議ニ附スル暇モ無ク更ニ同卿ヨリ形勢ノ逼  
 迫ヲ報ジ至急回訓方督促シ來タレルヲ以テ英國政府ハ同卿  
 ノ裁量ニ一任スル旨回電シタルモノニシテ各國協議ノ結果  
 ニアラズ又後者ニ付テハ由來此ノ種ノ申入ハ最高會議々長  
 ノ名ニ於テ為シ居レルモ「サン、レモ」會議解散後ノ事ナ  
 リシヲ以テ次回會議地所在國タル白耳義政府ニ其ノ斡旋方  
 ヲ一任シタル事情ナルニ付日本ヲ除外シタリトセバ夫ハ全  
 ク白耳義ガ自ラ大國ニアラザルガ為五大國ノ關係ヲ審カニ  
 セザルニ基ク手落ニシテ決シテ故意ニ日本ヲ排斥シタルモ  
 ノニアラズト思考スト答ヘタリ前者ノ件ニ関シ在独代理大  
 使宛閣下宛第六一号「キルマナック」卿ノ言ハ同代理大使  
 ノ希望ニ基キ本使ニ於テ援用ヲ差控ヘタリ  
 在歐米各大使ヘ電報セリ(一日後五、三〇)

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 六九八 六九九

八九二

六九八 六月一日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

スパイ會議ノ延期問題及日本ノ同會議予備會  
議参加ニ付カーゾン外相ノ談話報告ノ件

第四八五号

(六月三日接受)

往電第四八四号會談ノ際「スパイ」會議ニ関スル其後ノ成  
行ヲ尋ネタル処「カーゾン」卿ハ同會議開催期ハ一応六月  
二十一日ニ延期シタルモ其後伊國政變ノ結果「ニッチ」氏  
ヨリ六月中ニ離國六回ケ敷故ヲ以テ七月拾一日迄再延期ヲ  
申越セリ然レドモ英國政府ハ此上延期スルヲ欲セズ又仏國  
政府ハ同國輿論ノ關係モアリ一層延期ヲ難シトスルコトト  
察セラル依テ一方英國政府ノ希望トシテ「ニッチ」氏ニ於  
テ差練リ不延期ニ決定アリタキ旨申送ルト同時ニ在英仏國  
大使ヲ通ジテ仏國政府ヨリモ「ニッチ」氏ニ対シ同様申入  
レ方慫慂シ置ケリ然レドモ不得已延期ノコトト相成ルヤモ  
計リ難シト述ベタリ  
尚本使ノ問ニ答ヘ隨員ノ点ニ就テハ往電第四二三号ト同様  
ノ言ヲ繰返シ又「スパイ」會議予備會議ニ付テハ多分倫敦  
ノコトト相成ルベシト答ヘタルニ付然ラバ当然ニ本使モ參  
加ノ招請ヲ受クベキコトト思考スル旨ヲ述ベタル処同卿右

望スル所ナリト答ヘタリ

七〇〇 六月七日

内田外務大臣ヨリ  
在英國珍田大使宛(電報)

对独条約賠償条項第一附属書第五及第七ノ我  
方要求額回示ノ件

第二六〇号

貴電第四五九号ニ関シ

海軍ニ関スル分左ノ如シ

一、第一附属書第五号ニ依ル恩給補償金貳千六百二万五千  
七百五拾法

(二六、〇二五、七五〇)

二、同第七号ニ依ル家族手当金貳億五千四拾壹万壹千貳百  
四拾法

(二五〇、四一一、二四〇)

合計貳億七千六百四拾參万六千九百九拾法

(二七六、四三六、九九〇)

右ノ内西比利方面ノミニ対スル分

一、前記第五号ニ依ル恩給補償金四拾五万六千參百貳拾法  
(四五六、三三〇)

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七〇〇

八九三

予備會議ハ細目ニ亙レル純然タル専門家ノ會議タルベキモ  
ノト思考スルモ如何ナル都合ト相成ルベキヤ未ダ確言スル  
コトヲ得ズ此点ヲ明カニシタル上ニテ更ニ御相談スベシト  
語レリ

在歐米各大使ヘ転電セリ(一日午後七、〇〇)

六九九 六月四日

在伊國堀田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对独共同通告ニ関スル日本除外問題ニ付伊國

外務次官釈明ノ件

第六八号

(六月五日接受)

六月三日外務次官ニ面會ノ節在英大使宛電第二二〇号ノ  
件ニ付説明ヲ求メ且在独代理大使兼閣下宛電報第八八号ノ  
件ニ付テモ日本カ除外セラレ居ルコトヲ指摘シタル処同次  
官ハ前者ノ共同通告ハ事情急速ヲ要シタル為日本政府ニ予  
メ相談スル暇ナカリシ為カト考フ後者ノ件ニ付テハ何故右  
ノ如キ手落ちアリタルヤ承知セズ兎モ角兩件トモ伊國ガ主  
動的地位ニ立テルモノニアラズ謂ハバ他國ノ提案ニ賛同セ  
ルモノナルヲ以テ其辺ノ事情ハ諒トセラレタシ今後同様ノ  
場合ニ日本政府トノ協調ヲ保ツベキハ伊國政府ノ素ヨリ希

二、同第七号ニ依ル家族手当金參百五拾八万八千六百四拾  
六法

(三、五八八、六四六)

合計四百四万四千九百六拾六法

(四、〇四四、九六六)

右計算方法左ノ如シ

一、第一附属書第五号ニ依ル分

(甲) 死者ニ対スル分

(イ) 人員ハ實際ノ員数

(ロ) 寡婦孤兒ノ恩給額ハ仏國法癩疾恩給額表軍人カ戦死セ  
ルカ又ハ公務死亡セルカニ依リ特別率又ハ普通率ノ欄ニ  
依リ尚孤兒平均一人年額三百法ノ増加額ヲ見積レリ

(ハ) 恩給年額ヲ一時金ニ換算スル為メ年金額ヲ十五倍ス

(ニ) 癩疾恩給

(イ) (甲) ニ同シ

(ロ) 癩疾ノ程度タル百分比率ハ日本恩給法傷痍等差列中第  
一、二項症ハ百パーセント第三、四項症ハ八十パーセン  
ト第五、六項症ハ六十パーセントニ対スル仏國法ノ額ヲ  
取り其ノ割増額ハ夫々千法七百法及四百法ヲ之ニ加算ス

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七〇〇

別ニ子女平均一人ヲ有スルモノトシ癡疾程度百分比率ニ  
応シ夫々三百法二百四十法百八十法ヲ加算ス

(ハ)恩給年額ヲ一時金ニ換算スル為メ年金額ヲ二十倍ス

二、第一附属書第七号ニ依ル分

(イ)人員ハ海軍省年報ニ依リ准士官以下戦役勤務者員数ニ  
依ル

(ロ)期間ハ大正三年八月二十三日以降同八年七月三十一日

迄トス死者ニ対スル死亡後一年復員者ニ対スル遞減率ニ

依ル六ヶ月間延期等ノ日数ヲ省略ス

(ハ)毎年ノ平均率ハ仏国法ニ依リ夫々改正ノ年月日ニ從ヒ

日額ヲ改正シ基本額ニ平均子女一人及尊屬一人ヲ有スル

モノトシテ算出ス

陸軍ニ関スル分左ノ如シ

A、青島戦關係

一、第一附属書第五号ニ依ル恩給補償金

貳千五百五拾八万參千參百拾法

(二五、五八三、三一〇)

二、同第七号ニ依ル家族手当金

七千五百五拾壹万四百九拾參法七五參

(七一、五一〇、四九三法・七五)

合計九千七百九万參千八百參法七五參

(九七、〇九三、八〇三法・七五)

B、西比利戦關係

一、第五号ニ依ル恩給補償金

參千八百五拾壹万六拾法

(三八、五一〇、〇六〇)

二、第七号ニ依ル家族手当金

參億四千參百參拾六万九千參百參拾貳法壹九參

(三四三、三六九、三三二法・一九)

合計參億八千八百八拾七万九千參百九拾貳法壹九參

(三八一、八七九、三九二法・一九)

西比利戦關係ハ青島戦關係ノモノト同一要領ニ依リ算出セ

リ

右計算方法ハ大体海軍ノ分ト同シ

尚詳細郵報ス

右在仏大使ニ伝達アリタシ

七〇一 六月十日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償委員会出席權、議事録配布問題及財政条

項委任等ニ関スル件

第九八四号

(六月十二日接受)

(賠案第四三号)

貴電第四一七号ニ関シ

一、賠償委員会ニ於ケル出席權ハ頗ル厳格ニ勵行セラレ居  
ルコトハ往電第一五九号(賠案第一号)第一九八号(賠案  
第七号)ヲ以テ報告シタルガ如シ又塞爾比亞ガ条約第八編

賠償委員会ニ関スル規定中特ニ其ノ出席權禁止ノ明文ナキ  
ヲ理由トシテ出席要求ノ覚書ヲ提出シタルニ対シ賠償委員  
会ハ其ノ法律部ノ意見ヲ徴シタルニ法律部ハ全会一致ヲ以

テ反对ノ意見ヲ提出シ五月十四日日本件ニ関スル賠償委員会  
本會議ニ於テ米仏伊各委員等皆法律部ノ意見ニ賛成ノ説ヲ  
述ベ遂ニ全会一致ヲ以テ条約第八編附属書第二ノ二ニ依

リ条約ヲ修正スルニ非ザレバ塞爾比亞ノ要求ヲ容ルルコト  
ヲ得ズト決定セリ出席權ハ独リ本會議ニ止ラズ白耳義及塞  
爾比亞ヨリ賠償委員会船舶部ニ代表者ヲ出席セシメ度キ覺

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七〇一

書ヲ提出シタルモ賠償委員会ハ四月八日ノ本會議ニ於テ之  
ヲ否決セリ

二、議事録配布ノ件ニ付キテハ一月二十八日ノ賠償委員会  
ニ於テ本邦委員ヨリ質問ヲ發シタルニ伊國委員ハ總テ議事  
録ハ會議ニ参加スル權能アル委員ニノミ之ヲ配布スベキモ

ノナリト述ベ從テ白耳義ノ議決權ナキ問題ノ議事録ハ白耳  
義委員ニ配布セズシテ日本委員ニ配布スベキモノナリト主  
張シ遂ニ英仏両委員主任トナリテ之ニ関スル議事規則ヲ作

リタルガ結局會議ニ参加スル權能アル委員ハ之ガ配布ヲ受  
クルコトニ決定セリ

三、出席權及書類配布共ニ頗ル嚴重ナルハ賠償委員会ノ状  
勢ナリ特ニ伊國委員ニ甚ダシキハ往電第四三〇号(賠案第  
十三号)第七ヲ以テ報告シタル事情ニ依ルモノト推測セラ

ル

四、本件委任ヲ日本政府ニ問合スニ至リシ理由ニ付議事録  
ヲ調査スルニ議長ハ書記局ノ提議ニ基キ財政条項ノ委任ヲ  
同盟及聯合國政府ニ問合ス可キヤヲ諮リタルニ伊國委員ハ  
其ノ必要ナキヲ主張シタルニ英國委員ハ条約第二五九条ノ  
文言ヨリ日本ノ同意ヲ必要トスル説ニ賛成シタルヲ以テ伊

國委員モ只日本ニノミニ限ルヲ条件ニ米國委員ノ賛成ヲ以テ五國以外ニハ日本ニノミ問合ヲ發スルニ至リタル次第ナリ

五、斯ノ如キ形勢ナルニ依リ本邦ガ賠償委員會ニ財政条項ノ委任ヲナスニ対シ出席傍聴ノ要求ヲナスモ貫徹到底困難ナルヲ以テ此ノ際委任ヲナスト同時ニ日本ノ利害ニ関スル事項ニ付テハ賠償委員會ハ其ノ実行ニ先チ予メ本邦ニ相談ヲナスノ留保ヲ為シ併セテ利害ガ日本ニ關係スルヤ否ヤヲ判断スルハ困難ナル場合アルヲ以テ第九編ニ關スル議事録其ノ他ノ文書ノ送附ヲ希望スル旨送致シ置ケリ

尤モ往電第五七〇号(賠案第二十二号)六(四)ノ決定ニ基キ日本ノ利害關係アル場合ハ「アッセソー」トシテ出席ノ権利アルハ申ス迄モナク賠償委員會ノ文書ヲ入手スルニ付テモ非公式ニ夫々方法ヲ執リ居ルコトハ御含迄ニ申添フ在英大使へ転電セリ

七〇二 六月十八日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸ノ賠償総額及各国分配率等ノ問題ヲ議ス  
ベキスパ―最高會議ニ処スベキ方針回示方稟

ヲ以テ賠償問題ニ対スル本邦ノ地位ニ顧ミ結局大勢ニ順応スルノ外ナカルベシト信ズ

第二、聯合國間分配ノ割合ニ就テハ本邦トシテ最モ有利ナル割当ヲ受クルニ努力スベキハ言ヲ俟タズ之ガ為本邦ノ提出スル損害種目及計數ニ付テハ從來政府ヨリ電訓アリタル所ニ基キ適宜最モ有利ノ方法ヲ取ル考ニ付此点臨機ノ処置当方ニ御委任アリタシ

第三、分配ノ割合ニ関シ仏國五拾五「パーセント」英國二拾五「パーセント」ト云フハ英仏間ノ率ヲ定メタルニ過ギズトハ英國當局ノ弁明スル所ナルモ其協定當時ニ於ケル根拠ハ第一独逸ノ支払フ総額ヲ百ト見タル率ナリト察セラル然レドモ伊太利ハ初メ十「パーセント」ヲ割当テラレタルモ不平ニテ増率方英仏ト交渉中ナリトモ伝ヘラレ又英國専門家ノ森委員ニ語レル所ニ拠レバ伊太利ノ受クル率ハ未決定ナルモ塞爾比亞ハ六「パーセント」ヲ承諾シ白耳義ハ七「パーセント」トシテ交渉中ニシテ斯クノ如クシテ各国ト協定シタル率ヲ合計スル場合其率ノ合計ハ百二十トナルカ百二十五トナルカ未定ノ問題ナリトノコトナリ併シテ米國ハ船舶及經濟条項ニ依リ処分スル財産ヲ以テ満足シ其他ノ

請ノ件

第五二六号 至急

(六月二十日接受)

「スパ―」最高會議ニ於テハ独逸ノ賠償総額並ニ各国分配率等賠償ノ根本問題ヲ議スベク目下英仏ハ之カ準備トシテ専門家ヲ會合シ攻究セシメツツアリト雖其内情未ダ十分明確ナラズ果シテ如何ナル具体的提案ヲ生ズベキヤ予測シ難シ而シテ本會議若クハ同盟間ノ予備會議ガ英仏等ヨリ提案アルニ当リ本邦態度決定ノ為多クノ猶予ヲ求ムルコトハ会期ノ短キ事実ト本邦ノ要償權ノ範圍及賠償委員會ニ於ケル本邦ノ地位等ニ照シ困難ナル事情ナシトセズ或ハ政府ニ請訓ノ違ナキヤモ保シ難シ就テハ予測シ得ベキ種々ノ解決方法ニ付今ヨリ攻究ヲ遂ゲラレ政府ノ大体方針大至急(遅クモ本月末日迄ニ)御回電アリタシ尚本問題ニ対スル当方ノ所見及特ニ御攻究ヲ煩ハス必要アリト認ムル点松井大使及森委員トモ協議ノ上左ノ通上申ス

第一、独逸ノ賠償債務総額ノ決定ハ必然ノ結果トシテ聯合國ガ賠償条項第一附屬書ニ依リ請求シ得ベキ総額ノ一部ヲ放棄スルコトトナルベキモ此ノ決定ハ歐洲經濟界恢復ニ欠クベカラザル要件トシテ聯合各国ニ於テモ熱望スル所ナル

請求ヲ放棄スルヤニ伝ヘラルルモ葡萄牙ハ既ニ請求ヲ提出セル由ニテ其他本邦ノ要求ヲモ考慮ノ中ニ加フルトキハ率ノ合計百ヲ超過スベク百分率ニ依リテ計算スルトキハ各国ノ受クル率ノ計數ハ右ニ掲ゲタル所ト多少異ナル結果ヲ来スベキモ列國ノ大勢ハ前記ノ計數ヲ以テ察知シ得ベシ

第四、本邦ノ受クル率ニ付テハ独逸ノ支払総額列國請求額共ニ未定ナル今日素ヨリ予測シ難キモ独逸ノ支払フ総額ヲ若シ千二百億馬克ト決定スルトセハ「パーセント」ノ割当ヲ受クレバ本邦ノ請求ハ全幅ノ満足ヲ受クル計算ナリ蓋シ船舶損害ニ休戦當時ノ價格ヲ取り予想利得ヲ加ヘ又恩給及給与金中西比利亚ノ部分ヲ包含スルモ総額六億円ニ達セザルヲ以テナリ若シ船舶損害ニ被害當時ノ價格ヲ取り予想利得其他ヲ削除シ恩給及給与金ヨリ西比利亚ノ部分ヲ除外スルコトトセバ請求総額三億円ニ達セザルヲ以テ二分ノ一「パーセント」ノ割当ヲ受クレバ足ルコトトナル

第五、若シ各国請求ノ概括的査定ニ当リ費目削減ノ問題起リ例ヘバ恩給給与金等ハ比較的国家ノ損害ニ近キヲ以テ全部削除スベシトノ議起ラバ之ニ反対ス可キ論拠薄弱ノ觀ヲ免ラズト雖本種目ガ我我要償額ニ莫大ノ影響ヲ来ス可キ事

実ニ願ミ特ニ御訓令ヲ仰ギ度シ又船舶ニ付テハ被害當時ノ価額ヲ採リ其ノ予想利得ハ間接ノ損害ナル故除外ス可シトノ議ニ対シテハ同意シテ可ナルハ從來ノ貴電ニ徴シテ明カナリト雖對露關係ノ損害ヲ除外ス可シトノ議起リタル場合ニハ貴電第二六〇号ノ恩給及給与金中西比利亞ノ部分ノ關係上政府ハ飽ク迄之ニ反対スル御考ナリヤ若シ然リトセバ主張ノ根拠御回示相成度シ

第六、若シ各政府ノ提出セル計數ヲ信用シ査定ヲ加ヘズシテ其ノ儘分配割合ノ基礎ニ採用ス可シトノ議起ラバ如何大體論トシテ賛成ノ外ナル可キモ若シ各政府ガ巨額ノ計數ヲ提出スルコトアラバ本邦ノ受クル割合ハ或ハ二分ノ一「パーセント」ニモ達セザルコトナキヲ保セズ又英仏等ノ専門家ノ調査セル所ニ基キ本邦ノ率ニ付テモ予メ内定シタル所ヲ提出シテ本邦ノ承認ヲ求メタル場合ニハ如何、甚ダシク不公平ナル割当ニハ元ヨリ反対スル考ナルモ多少ノ讓歩ハ致シ方ナル可シト認ムルヲ以テ讓歩ノ最低限度ニ關シ御意見御回示相成度シ右ノ点ニ對シ如何ナル方法ニテ決定スルヲ問ハズ本邦ハ少クとも金額幾何迄ノ支払ヲ受クル要アルコト又ハ全体ノ幾「パーセント」ノ割當ヲ受クルヲ

現物特別取扱ノ主張ヨリ除外スルモ一策ナル可キカ  
第八、前記第四ノ受領率ト第十ノ現物特別取扱トノ値ヲ比較考慮スルニ後者即チ現物保留ニ全力ヲ尽スコト得策ナリト思考ス然ラズンハ受領率ノ少ナル本邦トシテハ本年又ハ来年ニ現物ニテ受領セルモノノ價格ノ大部分ヲ現金ニテ吐キ出サザルヲ得ザルコトトナル可シ（山東議定書ニモ特ニ日本ノ賠償ニ充當ストノ条件ナキ以上山東鐵道及嶺山ニ付テモ其ノ私有タルコトノ証明セラルル場合ニハ同様ノ結果ヲ招致スル恐アリ）之ニ反シ現物保留ノ原則樹立セバ本邦ハ全請求額ノ三分ノ一乃至六分ノ一ヲ一兩年間に支払ハルコトトナリ數十ヶ年ノ年賦支払ヲ受クルニ比シ利子ノ点ヨリ見ルモ極メテ有利ナリ

第九、故ニ場合ニ依リテハ現物特別取扱ノ原則ヲ少クモ本邦ニ適用セシムルコトヲ主張スル代償トシテ現金受領割合ニ於テ特別ニ讓歩シ又ハ現金ノ受領年度ニ於テ讓歩スルコトモ一策ニアラザルベキカ（例ヘバ支払期ヲ異ニスル數種ノ公債ヲ独逸ニ發行セシムル場合本邦ハ支払期ノ遅キ公債ヲ取ルガ如シ）

第十、其他特殊ナル解決方法トシテ本邦ハ條約上獲得スル

要スト云フガ如シ

第七、又分配率ノ外本邦ニ取り特ニ痛痒ヲ感ズル問題ハ賠償勘定ト受領現物ノ價格トノ關係ナリ若シ賠償条項ニシテ他條約ノ規定ニ依リ受領スル現物（本邦ニ就テ云ヘバ船舶、染料並私有タルコトノ証明セラルル場合ニ於ケル山東鐵道、嶺山等及「ヤップ」上海間海底電線ノ如シ）ハ現金ノ分配トハ異ナレル取扱ヲ為シ各受領國ノ賠償債權ノ満足ニ充當スル為當該受領國ニ保留シ如何ナル場合（受領總額ガ賠償債權總額ヲ超過スル場合ヲ除ク）ト雖其ノ價格ノ全部又ハ一部ヲ賠償勘定ニ現金ニテ吐キ出スコトナキ旨ノ原則ヲ認メシムルヲ得バ本邦ニ取り最モ有利ナリ蓋シ第二三七條第二項ノ解釈ニ付テハ疑問ナキニ非ザルモ現物ノ受領モ該年度ノ現金ノ受領ト同視ストアルヲ以テ該年度ノ一般の受領率ヲ超過スル部分ハ現金ニテ吐キ出サシムル趣旨ト見ザル可カラズ森委員ノ聞ク所ニ依レバ英國政府ノ如キモ此意味ニ解シ且英仏間ニ於テハ此ノ意味ニ於テ協定成立セリトノコトナリ故ニ此ノ協定ニ反スル右ノ原則ヲ認メシムルコト困難ナリトハ信ズルモ極力之ヲ主張ス可キヤ政府ノ御決心如何但シ染料ニ就イテハ根拠稍々異ナルヲ以テ受領

現物（經濟条項第三款及第四款ニ依リ独逸國ノ受領勘定トナルベキ最終殘額ヲ含マバ好都合ナルベシ）ヲ以テ満足シ其價格ニ超過スル部分ノ請求ヲ一切放棄シ將來ノ現金支払ニハ無關係ノ地位ニ立ツコトヲ提議スルモ一策ニハアラザルベキカ政府ノ所見如何

第十一、以上ハ予見シ得ベキ解決方法ノ例示ニ過ギズ本使ハ素ヨリ極力本邦權利ノ擁護ニ努力スベキモ全幅ノ満足ヲ期シ難シト認ム蓋シ今ヤ聯合列國ハ中欧帝國經濟ノ崩潰並ニ其ノ必然ノ結果トシテ全歐ヲ侵蝕スヘキ慘害ヲ恐レ一日モ早ク安定ノ地位ヲ確立センコトヲ切望スルノ余リ遂ニ賠償問題ニ関シ最モ重大ナル利害關係ヲ有スル英仏兩國ニ於テモ卒先シテ其主張ニ互讓節制ヲ加ヘ以テ各民間ノ協調ヲ成立セシメント決心シタルニ際シ本邦獨リ財政上ノ利益ヲ固執スルニ於テハ此ノ協調ヲ妨グルノ結果ヲ生ズルノ虞ナキ能ハズ故ニ此ノ會議ニ於ケル本使ノ立場ハ頗ル困難ヲ感ズル処右各項ニ對スル逐一ノ御意向及其大方針共ニ大至急御訓電アリタシ（十八日）

在仏大使ニ転電セリ

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七〇三 七〇四

九〇〇

七〇三 六月十八日 在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償委員会ガ山東鉄道及鉱山ニ関シ独逸國民  
ノ有スル利益ノ評価ヲ財政部ニ担任セシムル  
コトヲ決議シタル件

第一〇二〇号 (六月二十日接受)

賠実第四八号

賠償委員会ハ六月二日ノ會議ニ於テ各種參加事務ノ担任ヲ  
各部門間ニ分配スルノ決議ヲ為セルガ右ノ中財政部ノ担任  
スヘキ參加事務中ニ左ノ數項アリ

第一項乃至第四項略ス

第五項 Eventual valuation of the portion of interest  
owned by Germans in the railways and mines mentioned  
in Article 156 (Article 156 and protocol 2)

第六項略ス

第七項 Eventual valuation of the rights and interests  
transferred in virtue of Article 260.

第八項以下略ス

右決議ノ際本邦委員ハ招集ヲ受ケズ後ニ至リ他ノ關係ニテ

属書ニ依リ独逸國ノ貸方ニ計上セントスル政府ノ見込額  
四、經濟条項第三款及第四款ニ依リ独逸ガ本邦ヨリ受取勘  
定トナル最終残額アラバ其ノ見込額  
在仏大使ヘ転電セリ

七〇五 六月二十四日 内田外務大臣ヨリ  
在仏国松井大使宛(電報)

山東鉄道及鉱山ニ付独逸國民ノ有スル利益ノ  
評価ニ関スル賠償委員会ノ決議取消方訓令ノ  
件

第五一〇号

貴電第一〇二〇号ニ関シ

山東鉄道及鉱山ニ付テハ客年貴電講第一四三九号<sup>(註)</sup>ノ通り其  
ノ賠償委員会ノ議題ニ上ルトキハ日本代表者ニ於テ出席ス  
ルコトトナリ居レル次第ニ付右貴電御来示ノ如キ賠償委員  
会ノ措置ハ甚タ其ノ意ヲ得ザル不当ノコトト云ハザルベカ  
ラズ加之山東鉄道及鉱山ニ付テハ独逸ヨリ反証ヲ提出シ来  
ラザル限りハ少クトモ私人ノ權利ヲ含ムコトヲ証明シ来ラ  
ザル限り何等補償問題ヲ生ズルコトナキハ御承知ノ通りニ  
テ賠償委員会ガ独逸ヨリ何等申出ナキニ拘ハラズ仮リニモ

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七〇五 七〇六

入手シタル書類ニテ之ヲ発見シタル次第ナルガ右ニ関スル  
当方ノ意見ハ森財務官ト打合セノ上追而電報スヘシ  
英独ヘ転電セリ

七〇四 六月二十三日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償割当協議員會議及SPAー會議ニ関シ必要  
ニ付我出征兵員及死傷者數等回示方稟請ノ件  
第五三九号(大至急) (六月二十五日接受)

巴里ニ於ケル賠償割当協議員會議及「SPAー」會議ニ関シ  
承知致シタキニ付左ノ諸点大至急松井大使宛御回答相成リ  
タシ

一、貴電第二六〇号ノ恩給及給与金算出ノ基礎タル出征兵  
員數及死傷者數ヲ海軍ト陸軍、西比利亞ト西比利亞外、休  
戰前ト休戰後ニ分類シ御通知相成リタシ(各項特ニ至急ヲ  
要ス)

二、山東鉄道及鉱山ノ私有タルコトノ証明セラレタル場合  
議定書第二ニ依リ賠償勘定ニ於ケル独逸ノ貸方ニ記入セン  
トスル政府ノ見込額

三、本邦ノ取得セントスル海底電線ニ對シ賠償条項第七附

スル措置ヲ執ルコトハ之亦甚ダ了解ニ苦ム所ナリ就テハ右  
貴電第一〇二〇号末段ノ次第ハアルモ前頭ノコトハ当然自  
明ノ事理ニ付貴官ハ森ニ申合メ速ニ賠償委員会ニ對シ抗議  
ヲ提出シ其ノ反省ヲ促シ本件決議第五項ヲ削除セシメラル  
ル様御配慮アリタシ  
右英独ニ転電アリタシ

註 講第一四三九号ニ就イテハ前出六七九文書ノ附記參看

七〇六 六月二十四日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償委員会ガ財政部ノ任務中ニ山東鉄道及鉱  
山ノ評価ヲ掲ゲタルニ對スル措置ニ付請訓ノ  
件

第五四七号 (六月二十六日接受)

賠実第四九号

第一、往電賠実第四八号<sup>(註)</sup>ニ関シ賠償委員会ガ財政部ノ任務  
中ニ山東鉄道及鉱山ノ評価ヲ掲ゲタルニ對シテ本邦委員ハ  
此際抗議ヲ提出スベキヤ若シ提出スベキモノトセバ山東鉄  
道及鉱山ニ付テハ公私有問題ノ決定ヲ見ル迄ハ評価ノ問題  
ヲ生ズベキニアラズトノ理由ヲ以テスベキカ或ハ山東鉄道

九〇一

及鉱山ニ付独逸國民ガ權利利益ヲ有スルヤ否ヤノ判定並ニ利益アリト判定シタル場合ニ於ケル其評價ハ共ニ帝國政府ノ為スベキ所ナリトノ理由ヲ以テスベキヤ

第二、松井大使宛實電二九八号（賠案第二六号ニ対スル回電）及第三八七号（賠案第二九号ニ対スル回電）ニ依レバ政府ノ御方針ハ我方ヨリ進ンデ独逸側ニ公私有問題ヲ提起スルコトナク他日独逸ヨリ反証ヲ提出シ来レル場合ニ於テ初メテ我方ニ於テ之ヲ審査スルコトニ確定シ居レルガ如シ然ルニ独逸政府ハ既ニ山東鉄道株主ニ対シ補償金ノ支払ヲ開始セル由ナリ之独逸政府ハ自ラ公私有ノ判定權及評價權ヲ有スト解シ居ルガ為トモ思ハル独逸政府ガ其國民ニ対スル補償ヲ完了シ或ハ賠償委員會ガ評價ヲ完了シ以テ本邦ニ通告シ来リタル場合ニ初メテ前記ノ如キ本邦ノ權限ヲ主張シ抗議ヲ提出スルハ稍々手遅レノ感アリテ其主張貫徹ニ一層ノ困難ヲ感ズルコトナキヤヲ恐ル

第三、山東条項議定書及独逸ノ對案ニ対スル回答書等ヲ通覽スルニ公私有判定權及評價權ノ帰屬ハ必ズシモ明確ナラズ其權独逸政府ニアリトノ主張ノ如キハ勿論之ヲ破砕スベキモ本邦之ヲ独占ストノ主張モ貫徹必ズシモ容易ナラズ若

七〇七 六月二十四日 在英国珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

独逸賠償ノ聯合國間分配率ヲ協定スベキ協議  
員會議ニ於テ我方ノ執ルベキ態度ニ付請訓ノ  
件

第五四八号 （六月二十六日接受）

第一、独逸ヨリ受領スル賠償ノ聯合國間分配率ヲ協定スル為協議員會議ヲ巴里ニ開クニ決定セルコトハ往電第五四六号所報ノ如シ依テ森協議員ハ會議事項整理ノ為六月二拾二日一旦帰英セルモ二拾四日英国協議員ト同道巴里ニ赴ク筈ナリ

協議員會議ガ果シテ満足ナル結果ヲ齎シ得ルヤ否ヤ「ブローローニユ」會議ニ於ケル各國主張ノ懸隔多大ナルコト殊ニ伊太利ノ主張ノ強硬ナル事実ニ照シ疑無キ能ハズト雖モ此ノ分配問題ハ賠償問題ノ骨子ニシテ是ガ解決ヲ見ルニ非ザレバ对独逸ノ問題即チ独逸ノ債務額決定ノ問題（往電第五三八号参照）モ逆行崩潰ニ至ル虞アルヲ以テ「スパー」會議前是非共解決セザルベカラザル情勢ニアリ故ニ各國互讓妥協ニ依リ満足ナル決定ヲ見ルニ努力スルモノト想像セラ

シ最高會議又ハ賠償委員會ニ於テ反對説出デタル場合ニハ飽ク迄我主張ヲ固持スベキヤ或ハ我政府ト独逸トノ指定ニ委シ又ハ本邦委員モ表決權ヲ有ストノ了解ノ下ニ賠償委員會ノ任務ニ移ス等ノ妥協手段ヲ取ルベキヤ

第四、賠償金中現物特別取扱ノ原則ヲ一般ニ認メシムルコト困難ナル場合ニモ山東鉄道及鉱山ニ付イテハ極力特例ヲシムルニ努力スベキハ往電第五四五号所報ノ如シ但シ万一右特例ノ主張モ亦容認セラレザルニ於テハ或ハ其代價ヲ現金ニテ一時ニ吐キ出サザルヲ得ザルコトトナルベシ斯ノ如キ財政上ノ不便ヲ避ケ又ハ輕減スル手段トシテ山東鉄道賠償問題ノ解決ヲ遅延セシムルコトモ一策カト思ハル蓋シ數年ヲ経過セバ占領軍ノ費用等優先權アル債務ハ弁済ヲ完了シ又ハ其額減少スルト共ニ本邦ノ受クル分配額モ多少ノ累積ヲ見ルニ至ルベケレバナリ

以上諸項ニ付其利害得失ヲ御考究ノ上本邦委員ノ取ルベキ方針ニ付大至急松井大使宛御訓電アリタシ  
在仏大使ハ電報セリ

註 前出七〇三文書

ル殊ニ英国ハ諸國ノ間ニ斡旋シ或ハ自ラ仏國ヲ訪ヒテ從來ノ協定率ニ多少ノ修正ヲ加ヘ以テ協定ニ参加セザリシ諸國ノ權利ヲ尊重スルノ態度ヲ取ルト共ニ難關タル伊太利ノ主張緩和ニ努力スルモノト想像セラレ

第二、右ノ如キ形勢ニ當リ本邦委員ハ協議員會議ニ於テ如何ナル態度ヲ取ルベキヤ當方大体ノ方針トシテハ幸ヒ森協議員ハ英国協議員ト昵懇ノ間柄ナルニ依リ先ヅ英国側ト十分ノ協調ヲ遂ゲ以テ本邦權利ノ擁護ニ努力スル考ナリ但本邦ハ幾何ノ率ノ割當ヲ受クベキヤノ具体的問題ニ至リテハ本邦評議員ハ交渉上極メテ困難ナル地位ニアリ蓋シ若シ協議員會ガ各國ノ請求計數ヲ審査スルコトナク違觀ニ依リ分配率ヲ決定スル場合ニハ「ブローローニユ」會議ニ於テ英伊伊白諸國ガ其主張維持ノ理由トシテ出征員數、死傷數、國債等ヲ挙ゲ自國ノ犠牲ノ大ナルヲ説キタル事実ニ照セバ協議員會モ此ノ違觀調ニ依リニアラズヤト想像セラル本邦ハ大戰ニ於ケル犠牲之等諸國ニ比シ僅少ナルノミナラズ却ッテ國富ヲ増加セリトノ印象諸國ニ遍キ今日有利ナル割當ヲ受クルハ至難ト云ハザルベカラズ又各國提出ノ損害種目及計數ニ付テ或ル程度ノ査定ヲ加ヘ之ヲ基礎トシテ割當ヲ定ムル

場合ニ於テモ亦多大ノ結果ヲ期待シ難シ蓋シ本邦損害計數ハ六億円ヲ超過シ難キコト往電第五二六号第四所報ノ如シ之ヲ諸国ノ提出セントスル巨額ノ計數ニ比スレバ其割合極メテ少ナルコト殆ド疑ナキヲ以テナリ

第三、右ノ事情ナルニ依リ森委員ハ「ブローニユ」ニ於テ英国賠償委員ノ本邦請求額ニ関スル質問ニ対シテモ目下外務省令ニ依リ個人ノ損害申告中ナルヲ理由トシ明答ヲ避ケタリ然レドモ協議員會議ノ開カルルニ及ンデハ何等カノ計數ヲ提出スルノ止ムナキニ至ルベシ此ノ場合ハ往電第五二六号第二所報ノ如ク従来貴電ノ回示セラレタル所ニ依リ適宜有利ノ方法ヲ取ル考ナリ

但本邦トシテハ計數ノ比較ニ依ル方法ヨリモ寧ロ達観論ニ依ル割当ヲ有利ナルモノト認ム

第四、「ブローニユ」最高會議ノ模様及森委員ノ英国専門家トノ談話ニ徴スルニ従来英仏諸国ガ分配率ノ協定ニ関シ本邦ヘ交渉スル所ナカリシハ本邦ノ權利ヲ無視セルガ為ニハアラズシテ本邦請求ノ範圍局限セラレ居ルヲ以テ交渉容易ナルヲ予想セルガ為ナリト思ハル而シテ英国賠償委員ノ口吻ヨリ察スルニ本邦ニ対シテハ仏國ノ五十五、英國ノ

二十五ニ対シ約一ヲ割當ツル意志アルニアラズヤト思ハル若シ然ラバ之本邦ニトリ殆ド満足ナル率ト思ハル蓋シ独逸賠償年金合計(脱)馬克以上ヲ受領スルコトトナルガ故ニ本邦ノ請求ヲ満足スルニ十分ナルノミナラズ英國ト比較シ其二十五分ノ一ヲ受クルコトハ本邦ニ取り最有利ナル率ト云ハザルベカラズ蓋シ船舶其他ノ物的損害ニ付テ云フモ恩給其他ノ額ヨリ見ルモ本邦ハ到底英國ノ二十五分ノ一二達セザル事情ニアレバナリ故ニ本邦協議員ハ機ニ応ジ成ル可ク有利ノ割当ヲ受クルニ努力スルハ論ヲ俟タズト雖モ結局一「パーセント」ヲ受クルヲ主眼トシテ交渉シ差支ナキカ次ニ若シ各國ガ本邦ニ一「パーセント」ヲ与フルコトヲ肯ゼズ例ヘバ二分ノ一「パーセント」等ヲ割當テント主張スルニ於テハ本邦協議員ハ之ニ反対スル意嚮ナル処若シ各國ノ損害計數ヲ比較セバ本邦ノ率ハ或ハ二分ノ一「パーセント」位ニナルヤモ計リ難シ然ル場合ニモ飽ク迄一「パーセント」ヲ固執スベキヤ止ムヲ得ザル場合二分ノ一「パーセント」迄ハ讓歩シ差支ナカルベキカ至急御訓電相成タシ第五、分配率ノ外現物特別取扱問題ノ本邦ニトリ重要ナルコトハ往電第五二六号第七及第八所報ノ如シ然ルニ「ブー

ローニユ」會議ニ於テハ此問題ヲ提議スル機會絶無ナリシノミナラズ往電第五四九号所報ノ事實等ニ照シ今後ノ交渉ニ当リ現物特別取扱ノ主張ヲ貫徹スルコトハ到底不可能ナリト予想セラルルニ依リ予メ御承知相成タシ尤モ往電第五二六号第九又ハ第十ノ如キ妥協手段ヲ以テセバ多少ノ望ナキニアラザル処政府ハ斯ノ如キ手段ヲ希望セラルルヤ御訓電相成タシ但シ山東鉄道及鉱山ニ付テハ其私有タルコト証明セラレタル場合ト雖モ其条約上ノ地位並沿革及即時換価シ難キ固定財産ナリトノ理由(往電第五四九号参照)ヲ以テ極力其價格ヲ本邦ノ賠償勘定ニ充當方主張スル考ナリ

第六、以上諸点ニ関シテハ大至急松井大使宛御訓電相成タシ尤モ協議員會ハ七月二十日ノ「ブラッセル」會議前ニ何等カノ成案ニ到達スルノ任務ヲ有ス故ニ各國協議員ハ政府ヨリ或範圍ノ權限ノ委任ヲ条件トシテ具體的協定ニ達スルモノト見ザルベカラズ然ルニ若シ右諸点ニ對スル政府訓電入手セザルノ故ヲ以テ森協議員ガ協議會ニ於テ具體的ノ交渉ニ参加スルヲ得ザルガ如キ本使モ亦「ブラッセル」會議ニ於テ責任アル言明ヲ為シ得ザルガ如キコトアリテハ独リ此聯合國間ノ重要問題ノ解決ニ支障ヲ与フルノミナラズ本

邦ニモ極メテ不利ナル結果ヲ及ボス惧アルニ依リ訓電ノ間ニ合ハザル場合止ムナケレバ上述ノ趣旨ニ依リ臨機ノ措置ヲ講ズル考ニ付御了承相成タシ  
在仏大使ヘ転電セリ

註 珍田大使宛内田外務大臣宛電報第五四六号ニ依レバ六月二十二日ノ「ブローニユ」最高會議ニ於テ賠償分配率ニ関シ各國ヨリ交渉委員ヲ任命スルコトトナリ英、「サー、ジョン、ブラッドベリー」仏、「デ・ホピア」白「Colonel Theunis」伊、「ベルトリニ」日、森ニ決定シ尚塞爾比亞ニ對シテモ交渉委員選任方ヲ申入ルルコトナレリ

七〇八 六月二十五日

壇原臨時平和事務局長ヨリ  
山梨陸軍 枋内海軍、田中農商務、  
神野大藏、秦通信各次官宛

対独平和条約ニ基ク損害賠償ニ関スル件

附屬書 珍田大使來電ニ對スル回電案

和一機密合送第三〇七号

本件ニ関シ本月廿四日當省ニ於テ關係省主任官協議ノ次第有之候処其ノ結果ニ基キ本月二十二日附和一機密合送第二九八号往信添附ノ在英珍田大使來電<sup>(註)</sup>ニ對シ別紙写ノ通回電案作製致候ニ付何分ノ御意見至急御回示相成度追テ本件ハ至急ヲ要スル儀ニ付一応最近ノ閣議ニ提出シ其審議ヲ得度

ト存候ニ付右御含置相成度此段申進候也

註 往信添附ノ珍田大使来電トアルハ前出珍田大使来電第五二二  
号(七〇二文書)ナリ

(附属書)

珍田大使来電ニ対スル回電案

第一ハ貴見ノ通大勢ニ順応セラレ差支ナシ  
第二ニ付テハ本邦ノ提出スル損害種目及計数ニ関シテハ今  
後モ当方ニ於テ調査セル概算ハ出来次第之ヲ電報スヘキモ  
貴官ニ於テ必要ニ応シ臨機可然措置相成タシ  
尚右ニ關聯シ船舶ノ分配ニ付テハ日英協定及英米協定ノ趣  
旨ニ基キ分配ヲ受クル件ニハ何等変更ヲ加ヘザルコトヲ致  
度シ

第五ニ付テハ対露關係ノ分ハ往電第五〇六号ノ通ニテ列国  
ニ於テ之ヲ要求セザレハ西比利亞關係ノ分ハ要求スルニ及  
ハサル考ナリ又恩給、補償金ニ付テハ既ニ平和条約ニ於テ  
モ明ニ規定シアルノミナラス之ヲ削除スルハ貴見ノ通本邦  
要償額ニ莫大ノ影響アルコトナルヲ以テ平和条約規定ノ通  
実行ヲ希望スル次第ナルモ本邦独リ之ヲ主張シ列国トノ協  
調ヲ害スルカ如キ場合ニ立チ到ラハ是亦大勢ニ順応スルコ

トナル場合又ハ其ノ他ノ種目ニ付テモ削除若ハ金額低減ノ  
コトトナル場合ニハ本邦損害額ハ著シク減少スルコトアル  
ヘク而シテ仮リニ我カ要求額認メラルトスルモ今後永キ  
歲月ニ亘リ果シテ能ク独逸ヨリ予定通賠償金ヲ受領スルコ  
トヲ得ヘキヤ否ヤモ或ハ疑問トスヘキ点アリ又各年度ノ本  
邦受領賠償額ノ決定如何ニヨリテハ或年度ニ於テハ多額ノ  
現金ヲ吐キ出スコトトナルヤモ計ラレサル次第ナルモ本邦  
ノ現状ニ於テハ多額ノ現金ヲ吐キ出スコトハ困難ト認メラ  
ルル事情アリ然ルニ他方本邦ノ受領スヘキ現物ノ評価ハ差  
当リ正確ト認ムヘキ計数ヲ得難キモ極メテ大体ノ処別電第  
三(註3)号ノ通約一億余円内外ニ達スヘシトモ認メラル是等

諸關係ヲ考量シ第一案トシテ前記六億一千余万円若クハ右  
ノ中ヨリ予想利得及西比利亞關係ヲ除キタルモノヲ主張ス  
ルコト第二案トシテ二億八千万円ヲ主張シ現物保留ノ原  
則ヲ認メシムルコト(乙)右ヲ認メシムルコトヲ得サル場合ニ

ト已ムヲ得サルモノト認ム

第六ニ付テハ本邦要求額ハ被害船舶ノ価格ヲ休戦當時ノ時  
価ニ依ルコトトシテ予想利得ヲ加フルトキハ総計約六億一千  
余万円ニ達スルモ右船舶ヲ被害當時ノモノトシテ予想利得ヲ  
削リ其ノ他ノ損害ニ査定ヲ加フルトキハ総計約二億八千余  
万円トナルヘシ(右両算出方法別電第(甲)号ノ通)而シテ  
本邦ノ要求額カ大体ニ於テ他国ニ比シ僅少ナルコト此上之  
ヲ削減スルハ我國民ニ面白カラサル感情ヲ与フルノ虞アル  
コト其ノ他本邦ノ戦時中ニ於ケル努力並本邦現時ノ財政状  
態等ニ顧ミ右後者ヲ以テ我讓歩ノ最低限度ト致シ度シ尤モ  
他国トノ振合上削減ヲ至当トセラルル充分ノ事由アラハ臨  
機裁量セラルルコト已ムヲ得サルモノト認ム

第七乃至第九ノ現物保留ノ原則ヲ認メシムル件ハ本邦ニ取  
リ最モ緊要且好都合ト認メラルルニ付充分御主張アリタク  
尚現物保留ノ一形式トシテ現金ヲ出ス代リニ債務証書ヲ賠  
償委員会ニ提出スルコトモ亦一策ナラスヤト認ム又右現物  
保留ノ代償トシテ現金受領割合ニ於テ特別ニ讓歩シ又ハ受  
領年度ニ於テ讓歩スルコトハ已ムヲ得サル義ト認ムルモ唯  
現金受領割合ニ関スル讓歩ニ付テハ成ルヘク他国ノ讓歩ス

於テハ現金ノ代リニ債務証書ヲ提供スルコトトスルコト(丙)  
若シ前記二ツトモ容レラレサル場合ニハ現金ヲ吐キ出スコ  
ト第三案トシテ右両案トモ容レラレサル場合ニハ寧ロ現物  
ヲ以テ満足シ其ノ他ノ請求ヲ一切切棄ツルノ態度ニ出ツル  
コトト致度シ依ッテ貴官ハ會議内外ノ形勢ニ応シ更ニ請訓  
ノ暇ナキ場合ニ於テハ此趣意ニ依リ我國ノ為メ最モ有利ナ  
ル解決ヲ得ル様臨機措置セラレタク尤モ現物以外ヲ切棄ツ  
ルニ当リテハ「ヤップ」關係ノ海底電線ニ付和蘭ノ權利ヲ  
尊重スヘキ既定ノ方針ヲ維持スルコトハ勿論トシテ此機會  
ニ於テ出来得ル限り同線ヲ確實ニ本邦ノ有ニ歸スヘキコト  
ヲ更ニ確ムルノ手段ヲ講セラレタシ

- 註1 後出七一一文書ノ註參看
- 2 別電甲号ニ付テハ右七一一文書ノ別電一參看
- 3 別電乙号ニ付テハ右七一一文書ノ別電二參看

七〇九 六月二十六日 神野大藏次官ヨリ  
神原外務次官宛

対独平和条約ニ基ク損害賠償ニ関シ大藏省意

見回示ノ件

附属書 右大藏省意見

附記 珍田大使宛回電案ニ対スル通信省意見

大正九年六月二十六日

大藏次官 神野勝之助(印)

外務次官 埴原正直殿

对独平和条約ニ基ク損害賠償ニ関スル件

大正九年六月二十五日和一機密合送第三〇七号ヲ以テ御照会相成候对独平和条約ニ基ク損害賠償ニ関スル件ニ付珍田大使宛回電案ニ対シ当省意見別紙ノ通ニ御座候間可然御取計相成度此段及御回答候也

(附屬書)

(別紙)

对独平和条約ニ基ク損害賠償ニ関スル珍田大使宛回電案ニ対スル大藏省意見

珍田大使宛回電案ニ対スル大藏省意見

第一ニ付テハ異議ナシ

第二ニ付テハ第二項即チ船舶ノ分配ニ関スル部分ヲ削除スルコト

第五、第六及第七乃至第九ニ付テハ異議ナシ

第十二ニ付テハ「本邦ノ現状ニ於テハ多額ノ現金ヲ吐キ出スコトハ困難ナリト認メラルル事情アリ云々」以下ヲ左ノ通

最初ノ年賦金額ヲ大ナラシメテ現金吐出ヲ少額ナラシメ尚必要ナル場合ニハ船舶並染料ノ如キモノノ現物獲得ハ之ヲ見合スルコトヲ声明シテ出来得ル限り現金吐出額ヲ減少スルノ外策ナキモノト認ム

(附記)

珍田大使宛回電案ニ対スル通信省意見

通信省

一ハ珍田大使来電意見ノ通取計ヒ差支ナキコト

二ノ聯合國間分配割合ニ関シ船舶ノ現物賠償ニ付テハ曩ニ成立シタル英米及日英協定ノ趣旨ニ基キ各国喪失船舶屯数ト独逸現存船舶屯数トノ按分比例ニ依リ分配ヲ受ケ其他ニ付テハ臨機措置セラレ差支ナキコト

六ノ船舶損害算出ノ基礎ニ付テハ少クトモ各船被害當時ニ於ケル本邦平均市場率ニ抛ラシムルコト尤モ各国船舶トモ一率ニ世界的市場率ニ抛ルコトトナラハ大勢ニ順応スルノ外ナカルヘシ

七乃至十ノ場合ニ於テ船舶ノ損害ニ対スル現物賠償ハ他ノ現物賠償ト其趣ヲ異ニシ平和条約ハ特ニ賠償条項中ニ第三附屬書トシテ屯対屯、級対級ノ原則ヲ掲ケ船舶ノ賠償

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七一〇

「本邦ノ現状ニ於テハ多額ノ現金ヲ吐キ出スコトハ殆ンド絶対ニ不可能ナルコトナリ、然ルニ他方本邦ノ受領スベキ現物ノ評価ハ差当リ正確ト認ムベキ計數ヲ得難キモ極メテ大体ノ処別電第(乙)号ノ通約一億余円内外ニ達スベシト認メラル、是等諸關係ヲ考量シ第一案トシテ要償金額ニ付テハ前記六億一千万円若クハ其ノ中ヨリ予想利得及西伯利亞關係ヲ除キタルモノヲ主張スルモ他國トノ振會上讓歩ノ必要アラバ二億八千万円ヲ主張シ其ノ分配方法ニ付テハ(甲)現物留保ノ原則ヲ認メシムルコト、(乙)右ヲ認メシムルコトヲ得ザル場合ニ於テハ現金ノ代リニ債務証書ヲ提出スルコトトスルコトトシ若シ大勢上右第一案ノ容レラレザルガ如キ状態ナルトキハ第二案トシテ寧ロ別電乙ノ現物全部ヲ以テ満足シ其他ノ請求ヲ一切切棄ツルノ態度ニ出ヅルコトト致度シ、然レドモ若シ兩案共ニ容レラレザル時ニハ第三案トシテ國策上必要ナル現物(私有タルコトノ証明セラレタル場合ノ山東鐵道、鉱山、アンガウル燐鉱及ヤップ海底電線)ニ対シテハ超過部分ニ相当セル現金ヲ吐キ出スコト外ナキモ出来得ル限り

ハ船舶ヲ以テスヘキコトヲ明記セルカ故ニ此条約ノ精神ニ照シ賠償トシテ得タル現物ハ之ヲ留保シ必スシモ其ノ價格ノ全部又ハ一部ヲ賠償勘定ニ現金ニテ払戻スヲ要セサルモノト主張シ得ル理由アリト認ムルヲ以テ之カ主張ノ貫徹ニ努力スルコト尚ヤップ海底線ニ付テモ之カ帝國ニ帰属スルコトトナリタル場合ニ於テハ出来得ル限り前記主張ノ貫徹ニ努力スルコト

前項ノ主張ヲ貫徹シ得ル見込アリトセハ之カ代償トシテ現金受領割合ニ於テ幾分ノ讓歩ヲ為スハ已ムヲ得サルコト

七一〇 六月二十六日 内田外務大臣ヨリ  
在 佐園松井大使宛(電報)

賠償割当協議員會議等ニ關連シ我出征兵員及  
死傷者數回電ノ件

附記 六月二十九日内田外務大臣松井大使宛電報第  
五二五号

第五一七号(至急)

珍田大使来電第五三九号ニ関シ第一号左ノ通不取敢電報ス  
一、第一号出征兵員及死傷者數

(一) 西伯利

休戦前出征シタル数 陸軍一九二、四三七(十九万二千四百三十七) 海軍二、五八〇(二千五百八十)  
 休戦後出征シタル数 陸軍三七、四〇〇(三万七千四百) 海軍四七(四十七)  
 休戦前死傷シタル数 陸軍五九六(五百九十六) 海軍七  
 休戦後死傷シタル者 陸軍七四一(七百四十一) 海軍五  
 (二) 西伯利以外

休戦前出征シタル数 陸軍一〇〇、一九二(十万百九十二) 海軍五二、七八二(五万二千七百八十二)  
 休戦後出征シタル数 陸軍四、一五五(四千五百五十五) 海軍五、四九一(五千四百九十一)  
 休戦前死傷シタル数 陸軍一、一九三(千九百九十三) 海軍 一、〇九九(千九百九十九)  
 休戦後死傷シタル数 陸軍五〇(五十) 海軍五九(五十九)

注意 出征兵員中ニハ現実ニ出征シタル者ノ外仏国陸海軍恩給法ニ依り出征者ト同一ニ取扱ハルヘキ同事務ニ関与セル者ノ数ヲ含ム

独逸賠償ノ本邦要求額

二 同右電報第五二三号

本邦ノ受領スベキ現物ノ評価

第五二二号(至急)

珍田大使へ左ノ通

貴電第五二六号ニ関シ

第一ハ貴見ノ通大勢ニ順応セラレ差支ナシ

第二ニ付テハ本邦ノ提出スル損害種目及計数ニ関シテハ今後モ当方ニ於テ調査セル概算ハ出来次第之ヲ電報スヘキモ貴官ニ於テ必要ニ応シ臨機可然措置相成タシ

第五ニ付テハ対露關係ノ分ハ在仏大使宛往電第五〇六号ノ通ニテ列国ニ於テ之ヲ要求セサレハ西比利亞關係ノ分ハ要

求スルニ及ハサル考ナリ又恩給、補償金ニ付テハ既ニ平和条約ニ於テモ明ニ規定シアルノミナラス之ヲ削除スルハ貴見ノ通本邦要償額ニ莫大ノ影響アルコトナルヲ以テ平和条約規定ノ通行ヲ希望スル次第ナルモ本邦独リ之ヲ主張シ列国トノ協調ヲ害スルカ如キ場合ニ立チ到ラハ是亦大勢ニ順応スルコト已ムヲ得サルモノト認ム

第六ニ付テハ本邦要求額ハ被害船舶ノ價格ヲ休戦当時ノ時価ニ依ルコトトシ予想利得ヲ加フルトキハ総計約六億一千

休戦後出征シタル数ニハ休戦前ニ出征シタル者ニシテ休戦後引續キ滞在セル者ノ数ヲ含マス

在英大使ニ転電アリタシ

(附記)

六月二十九日内田外務大臣宛松井大使宛電報第五二五号

往電第五一七号訂正ノ件

第五二五号(至急)

往電第五一七号中左ノ通訂正ス

一、西比利亞ニ出征シタル数陸軍休戦後五四、四〇〇(五万四千四百)

二、西比利亞ニテ死傷シタル数陸軍休戦前七九六(七百九十六)

休戦後一、〇四一(一千四十一)

在英大使ニ転電アリタシ

~~~~~

七一 六月二十九日

内田外務大臣ヨリ 在仏国松井大使宛(電報)

独逸ノ賠償総額及各国分配率決定等ノ問題ニ

関シ日本政府ノ方針回示ノ件

別電一 六月二十九日内田外務大臣宛在仏国松井大使

宛電報第五二二号

余万円ニ達スルモ右船価ヲ被害当時ノモノトシ予想利得ヲ削リ且其ノ他ノ損害ニ査定ヲ加フルトキハ総計約二億八千余万円トナルヘシ(右両算出方法別電第(甲)号ノ通)而シテ本邦ノ要求額カ大体ニ於テ他国ニ比シ僅少ナルコト、此上之ヲ削減スルハ我國民ニ面白カラサル感情ヲ与フルノ虞アルコト其ノ他本邦ノ戦時中ニ於ケル努力並本邦現時ノ財政状態等ニ顧ミ右後者ヲ以テ我讓歩ノ最低限度ト致シ度シ尤モ他国トノ振会上削減ヲ至当トセラルル充分ノ事由アラハ臨機裁量セラルルコト已ムヲ得サルモノト認ム

第七乃至第九ノ現物保留ノ原則ヲ認メシムル件ハ本邦ニ取り最モ緊要且好都合ト認メラルルニ付充分御主張アリタク尚現物保留ノ一形式トシテ現金ヲ出ス代リニ債務証書ヲ賠償委員会ニ提供スルコトモ亦一策ナラスヤト認ム又右現物保留ノ代償トシテ現金受領割合ニ於テ特別ニ讓歩シ又ハ受領年度ニ於テ讓歩スルコトハ已ムヲ得サル義ト認ムルモ唯現金受領割合ニ関スル讓歩ニ付テハ成ルヘク他国ノ讓歩スル割合ト大ナル相違ナキ様務メラレタシ

第十二付テハ第五ノ恩給、補償金カ万一削除セラルルコトトナル場合又ハ本邦船舶ノ損害評価ニ関シ本邦ノ特別ナル

事情他國ノ認ムル所トナラス他國ト同一ノ評価ニ依ルコトトナル場合又ハ其ノ他ノ種目ニ付テモ削除若クハ金額低減ノコトトナル場合ニハ本邦損害額ハ著シク減少スルコトアルヘク而シテ仮リニ我カ要求額認メラルトスルモ今後永キ歲月ニ亘リ果シテ能ク独逸ヨリ予定通賠償金ヲ受領スルコトヲ得ヘキヤ否ヤモ或ハ疑問トスヘキ点アリ又各年度ノ本邦受領賠償額ノ決定如何ニヨリテハ或年度ニ於テハ多額ノ現金ヲ吐キ出スコトトナルヤモ計ラレサル次第ナルモ本邦ノ現状ニ於テハ多額ノ現金ヲ吐キ出スコトハ殆ント絶對ニ不可能ナルコトナリ然ルニ他方本邦ノ受領スヘキ現物ノ評価ハ差当リ正確ト認ムヘキ計數ヲ得難キモ極メテ大体ノ処別電第(乙)号ノ(一)ノ通約五千万円ト見積ルヲ得ヘク而シテ經濟条項第四款ニ依リ管理セル特殊財産ハ我内地ニ在ルモノニ青島ノモノヲ加ヘテ漸ク日独間ニ過不足ナキニ至ル模様ナルモ外ニ南洋群島ニ於ケル「アンガウル」燐鉱アリ之ヲ我國ニ留保スルトキハ別電第(乙)号ノ(一)ノ(二)總計ノ通約一億円内外ニ達スヘシト認メラル是等諸關係ヲ考量シ第一案トシテ貴電第五四八号ノ第三及第四ノ達觀說ニヨリ「パーセント」又ハ二分ノ一「パーセント」ヲ主張シ其

ノ分配方法トシテ(甲)現物留保ノ原則ヲ認メシムル事(乙)右ヲ認メシムルコトヲ得サル場合ニ於テハ現金ノ代リニ債務證書ヲ提出スルコトトシ右分配方法ノ承認ヲ得ル為必要アルトキハ之ヲ条件トシテ前記六億一千万円ノ内ヨリ予想利得及西比利亞關係ヲ除キタルモノ又ハ二億八千万円ノ程度迄讓歩スルモ差支ナク大勢上右ノ案容レラレサルカ如キ状態ナルトキハ第二案トシテ寧ロ現物全部ニ經濟条項ニヨリ独逸ノ受取勘定トナルヘキ最終残額「アンガウル」燐鉱ヲ含ムヲ加フルヲ条件トシテ之ヲ以テ満足シ其ノ他ノ請求ヲ一切切棄ツルノ態度ニ出ツルコトト致度然レトモ若シ上記ノ諸案共ニ容レラレサルトキハ最後ノ手段トシテ貴電第五四八号ノ第五末段ノ如ク私有タルコトノ証明セラレタル場合ノ山東鐵道及鉱山ニ付テハ勿論其ノ價格ヲ本邦ノ賠償勘定ニ充當方主張セラレ「ヤップ」海底電線ニ付テハ必要ノ場合ニハ將來若シ超過スル金額アラハ之ヲ吐キ出スノ外ナキモ船舶及染料ニ付テハ其金額留保ノ見込ナキ時ハ現物獲得ハ之ヲ見合セ我カ船舶ノ損害ハ賠償金ニヨリ償還ヲ受クヘキコトヲ主張セラレタシ以上ノ趣意ニヨリ貴官ハ會議内外ノ形勢ニ応シ更ニ請訓ノ暇ナキ場合ニ於テハ現金

吐出ヲ避クルノ方針ヲ以テ我國ノ為最モ有利ナル解決ヲ得ル様臨機措置セラレ度ク尤モ第二案ノ場合ニハ「ヤップ」關係ノ海底電線ニ付和蘭ノ權利ヲ尊重スヘキ既定ノ方針ヲ維持スルコトハ勿論トシテ此機会ニ於テ出来得ル限り同線ヲ確實ニ本邦ノ有ニ帰スヘキコトヲ更ニ確ムルノ手段ヲ講セラレタシ

註 六月二十一日内田外務大臣宛松井大使宛電報第五〇六号ヲ省

略セルガ右電報ノ要旨左ノ通  
一西比利亞關係ノ損害ニ関シテハ本邦ト共ニ西比利亞ニ出兵セシ聯合与國ト歩調ヲ一ニスル必要可有之ニ付同与國ノ意嚮及賠償委員會ノ意嚮等御參酌ノ上適宜御裁量相成度御含迄ニ申進ス  
(別電一)  
六月二十九日内田外務大臣宛在仏國松井大使宛電報第五二二号  
独逸賠償ノ本邦要求額  
第五二二号(至急)  
(別電甲号)

| 船舶ニ関スル損害               |             | 船舶ニ関スル損害      |                        |
|------------------------|-------------|---------------|------------------------|
| 喪失船舶價格(イ)              | 一四五、二五七、四六一 | A             |                        |
| 死傷者送還費宿料流失船具貯藏品其他損害(ロ) | 六、三八五、五四七   |               |                        |
| 拿捕船舶損害(ハ)              | 七四、八五二      | B             | (イ)(ロ)ノ三項ヲ削除ノ外<br>Aト同シ |
| 予想利得(ニ)                | 一〇一、一八二、五八六 |               |                        |
| 船舶内無線電信設備損害(ホ)         | 七〇、〇〇〇      | C             | 九四、四七三、三七〇(イ)          |
| 船舶内郵便物損害(ヘ)            | 六〇、〇〇〇      |               |                        |
| 船荷損害(ト)                | 四八、三一六、三二二  | (イ)削除         | (ロ)一〇、〇〇〇              |
| 乗員手荷物損害(チ)             | 一、四四六、〇九〇   |               |                        |
| 敵船積荷損害(リ)              | 一、七一、〇〇〇    | (ニ)三三、七五三、四八五 | (イ)削除                  |
| 其他損害<br>在歐洲交戰國財產損害(ウ)  | 五八九、〇〇〇     |               |                        |
| 其他損害<br>在青島財產損害(エ)     | 二六一、〇〇〇     |               |                        |

| 損害的人                  | 給恩 | 補給 | 賠償 | 額与          |
|-----------------------|----|----|----|-------------|
| 非戦闘員殺傷ニ因ル損害(ア)        |    |    |    | 八、七〇三、六六八   |
| 抑留ニ因ル健康上ノ障害及精神上ノ苦痛(イ) |    |    |    | 一、一六〇、〇〇〇   |
| 抑留中死亡ニ因ル損害(ウ)         |    |    |    | 一一〇、〇〇〇     |
| 西伯利(陸)(ロ)             |    |    |    | 一五二、七五一、七五六 |
| 青島(陸)(ハ)              |    |    |    | 三八、八三七、五二二  |
| 西伯利(海)(ニ)             |    |    |    | 一、六一七、九八六   |
| 其他(海)(ヒ)              |    |    |    | 一〇八、九五六、八一〇 |
| 計                     |    |    |    | 六一七、四九一、五九九 |
| 第一案                   |    |    |    | 三六一、九三九、二七一 |
| 第二案                   |    |    |    | 二八五、九四三、三四三 |

(備考)

船舶ニ関スル損害ハ第一案ニ於テハ休戦当時ノ価格ニシテ第二案ニ於テハ被害当時ノ価格ナリ

別電甲号中新ナル計数ノ基礎左ノ通

一、予想利得ハ在仏大使宛往電第三二一号別電額ニ平均額ヲ基礎トシ大孤山丸、仁川丸、目尾丸ノ分ヲ加ヘタルモノ

二、船舶内無線電信設備一〇、〇〇〇ハ同設備七個中私有ニ係ル一個分ヲ見込ミタルモノ

三、船荷損害(第一案)

(一)戦時海上保険補償法及戦時海上再保険法ニ依リ填補セ

ラレタル船荷ノ損害

補償法ニ依ル補償金額一四、三七〇、九六七円ノ一割二分五厘増ト再保険ニ依ル填補額三、六五四、七四四円トノ和ヲ三割増シタルモノ二五、七六八、七〇五円

(二)保険ニ附シタルモ日本政府ノ再保険ニ附セサリシ積荷ノ損害  
第一ノ損害ノ三分ノ一トシ八、五八九、五六八円ト

ス

(三)無保険積荷損害

第二ノ損害ノ二分ノ一トシ四、二九四、七八四円

(四)外国保険ニ附シタル積荷ノ損害

第一第二第三ノ合計ノ四分ノ一トシ九、六六三、二六四円  
以上合計 四八、三一六、三二二円

四、船荷損害(第二案)

(一)戦時海上補償法及戦時海上再保険法ニ依リ填補セラレタル船荷ノ損害  
補償法ニ依ル補償金額一四、三七〇、九六七円ノ一割二分五厘増ト再保険ニ依ル填補額三、六五四、七四四円トノ合計一九、八二二、〇八一円

(二)再保険ニ附セサル損害

再保険填補額ノ三分ノ一 一、二二八、二四八円

(三)無保険損害

第一第二ノ合計ノ一割 二、一〇四、〇三二円

(四)外国保険ニ附シ日本ノ再保険ニ附セサル損害

第二ノ二分ノ一 六〇九、一二四円  
一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七一

合計 二二、七五三、四八五円

五、在欧洲財産損害

独逸白国在留本邦普通人五八九人ニ対シ一人一、〇〇〇円トシ 五八九、〇〇〇円

六、在青島財産損害

(一)紛失財産 二二二、〇一四円  
(二)破損財産 四九、五四〇円

(別電二)

六月二十九日内田外務大臣発在仏国松井大使宛電報第五三三号  
本邦ノ受領スベキ現物ノ評価

第五二三号(至急)

(別電乙号)

現物ノ見積額ハ差当リ各種ノ情報ニ依リ仮ニ推算シタル計數ニ依ルニ大体左ノ如クナランカ尤モ此ノ見積額ハ勿論政府ニ於テ之ヲ承認シタル次第ニアラサルニ付此ノ点特ニ御注意置相成タシ

(イ)、山東鉄道(若シ私有タルコトニ定マリタル場合)

約三千万円

右見積リハ在独代理大使来電ノ元伯林名譽領事「ヤコ

九一五

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七二二

「ポー」ノ意見ニ依ル

(四) 船舶 約一千百万円

右ハ六万噸引渡ヲ受クルコトト看做シ一噸約百八十円ノ見積リ

(五) 「ヤップ」關係ノ海底電線 約五百万円

千九百十三年十二月末貸借対照表ニ依ル独蘭会社ノ海底電線、土地、建物、機械等ノ見積価格ヲ基礎トシテ計算セルモノ

(二) 染料 約三百万円

本邦第一回ノ要求額ノ約三分ノ一ノ引渡ヲ受クルモノト見積ル

計 約四千九百万円

(一) 「アングアル」燐鉱 約四千五百万円

右ハ該燐鉱ノ総量約三百万噸ト看做シ仮ニ英国カ最近「ナウル」燐鉱ヲ買収シタル価格(新聞報)ニ依リ一噸約十五円ノ見積リ

総計 約九千四百万円

七二二 六月二十九日

在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

採用シ得ベカラズ依テ百分率ニ代フルモノトシテ株数ヲ以テ交渉ノ基礎トシ各国ノ持分ヲ協議スルノ外ナカラシ

(六) 而シテ其総株数ハ多クモ一〇八ヲ超過セシメザルコトニ尽力セシメザル可カラズ

(七) 伊太利ハ如何ニ寛大ニ見ルモ拾株以内ニ落サザルベカラズ蓋シ独逸ト交戦前ノ損害ハ全部対独損害ヨリ除去セントスルコト至当ナリ

(八) 白耳義ハ最高トシテモ八ニ承諾セシムルコトヲ要ス

(九) 之ヲ承諾セシムルニハ一億磅優先仕込約束ノ実行ヲ確定スルヲ要ス此約束ハ今ニモ其効力アルハ勿論ナルガ白耳義ニ対スル株数分配交渉ニハ便利ナル処然レドモ優先ノ実行ニ付テハ何等カノ修正ヲ加ヘザ(脱) 不満ヲ懐クコトヲ虞ル

(十) 葡萄牙ハ四億磅ヲ要求セリ然レ共余ノ知ル所ヲ以テスレバ五千万磅ニ過ギザル可シ而シテ此國ハ日本ヨリモ古キ同盟國ナリ

(十一) 羅馬尼亞ハ分配ノ必要ナシト信ズルモ此國トノ交渉ハ随分面倒ナル可シ

(十二) 新計画ニ於ケル一三四億五千万磅ノ「グロス、トータ

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七二二

九一六

賠償聯合國間配分協議委員会ニ於ケル交渉ノ

趨向ニ対処スベキ本邦側ノ措置ニ関スル件

第一〇六五号 (七月一日接受)

第一、聯合國間賠償配当協議委員森森財務官ハ英国協議員 Sir John Bradbury ト同行大正九年六月廿四日巴里ニ赴ク其途中ニ於ケル談話中英国側ノ意向ヲ察シ得可キモノ左ノ通り

(一) 協議ノ方法ハ協議員全体ノ會議ヲ余リ多ク開クモ無用ナル故ニ先ヅ初回ハ大体意見交換ノ為形式的ニ開ク可キモ其後ニ於テハ英仏兩國協議ノ幹部ト為リテ各國ニ別々ニ交渉スルコト捷徑ナル可シ先ヅ白耳義ヲ以テ始ム可シ協議調ヒタル國ハ直チニ此幹部ニ加入セシムルコト将来ノ交渉ニ便宜ナリ日本ヨリモ若シ数字ヲ提出スルノ用意アラバ日本ノ如キ損害額少ナキ國ハ直チニ協定纏マル故ニ速ニ幹部ニ加入スルコト便宜ナル可シ伊太利モ若シ賢明ナラバ自ら進ンデ加入スベキモノナリ

(二) 「ブローニ」ノ財政専門家會議ニ於ケル大困難及今回ノ聯合國内協議委員会成立ノ事情ニ鑑ミ百分率ヲ以テ進ムコトハ他國ノ配当ヲ予断スルコトトナルヲ以テ最早到底ル」ハ Cash value ニ還元スレバ約四十五億以上五十億以下ナル可シ

(三) 「サン、レモ」ニ於ケル會議ニ於テ「ミルラン」ガ独逸トノ賠償額決定ニ同意シタルハ仏國政府ガ大勢ニ抵抗スルコト能ハザルヲ察シタルガ為ナリトハ雖斯クセザレバ独逸ヨリ償金ヲ得ルコト到底不可能ナル所以ヲ悟リタルガ為ナリ然レドモ此同意ノ結果トシテ勢「ポアンカレ」ヲ賠償委員会ヨリ除クノ必要ヲ感ジタリ之ヲ除クガ為ニハ故意ニ「ポアンカレ」ガ就職スルコト能ハザルガ如キ形ニ於テ其決定ヲ発表セリ夫レト同時ニ又「ポアンカレ」Loucheur 等ノ如キ全額賠償ヲ主張スル政治家ニ対シ予メ防禦ノ途ヲ固メ置カンガ為恰モ賠償金ハ一時ニ取ルガ如キ(脱) ヲ態々示シタル形アリ而シテ今實際ニ於ケル独逸ノ仕込能力ニ照シ弁済ノ方法ヲ講ズルニ当リテハ勿論年賦ノ外ナキコトハ明ナリ又可成計數上ニ於テ巨額ノ外債ヲ与フル形ヲ選ブハ仏國ノ政治上ニ於テ最得策ナリシナラン

(四) 英国理財局長 Blackett ノ説ニ拠レバ独逸ハ初年ニ於テ約二億ノ外債ヲ募集シ得可シトノコトナリ但シ必ズシモ同感ナラズ

九一七

(f)若シ独逸ニ於テ公債ヲ起ス場合ニハ日本ハ応募ノ見込アリヤラ問ヒ英国ニ於テ(脱)セルニ英国ニ於テハ見込ナシト謂ヘリ森財務官ハ日本モ同様ナラント答へ置キタリ

第二、六月二十五日賠償委員会ニ出席シタル際仏国協議員ニ会合ノ順序ヲ問ヒタル処伊国協議員婦國中ナルヲ以テ六月二十八日午後ニ初会ヲ開キ大体意見ヲ交換スベシトノコトナリ然レドモ其ノ後ニ於テハ別ニ總會ヲ開カズ英仏両協議員協議幹部トナリテ各国協議員ニ別個ニ交渉ヲナスコト自然ノ勢ナル可シ

第三、交渉ノ趨向ハ如何ナル径路ヲ執ル可キヤ未ダ予測シ難キモ思フニ仏国ガ其ノ五十五ヲ百分率ナリトシテ固執シ他国トノ交渉ニ困難ヲ感ゼシメ終ニ「ブローニー」ニ於ケル六月二十一日午前ノ會議ハ不調ニ終リ二十二日午前ノ會議ニ於テ英国首相ヨリ英仏兩國ノ配当割合ハ尚考量ノ余地アルモノナルコト換言スレバ百分率ニ非ザルコトヲ声明シ仏国首相異議ナク自ラ今回ノ協議員任命ヲ提議セルニ至レル事実竝ニ尚本電第一(ロ)英国協議員ノ意嚮ニ照シ百分率ヲ以テセズ所謂一國幾株ト云フヲ以テ交渉ノ基礎トナスナラン此ノ大勢動カス可カラズトセバ本邦協議員ニ於テモ

計ノ元金価格ハ四千六百八十七万二千磅ニ相当シ我国損害高ヲ六千三十二万六千磅トセバ本邦ノ損害要求額ヲ満足セシメ得タル割合ハ六割六歩余(脱)額ヲ我国ノ損害総額ト同様ノ基礎ヲ以テ計算シタルモノトセバ本邦ハ英国ニ比シ過当ノ割合ヲ以テ賠償ヲ受クルノ結果ヲ生ズトノ非難ヲ免レズ

第五、然シテ英国損害額ノ内訳ハ確知スルヲ得ザレドモ知リ得タル材料ヲ以テ調査シ之ヲ日本ト対比スルニ

(a)英国ノ船舶ハ重量噸当リ四十磅ナルニ日本ハ休戦當時ノ価格ヲ取り七十磅強ナリ

(b)英国ハ船舶ノ予想利得ヲ計上セズ只船舶ニ対スル利子ノミヲ計算セルニ日本ハ予想利得ヲ計算セリ

(c)其ノ結果船舶損害額ノ撃沈總噸數ニ対スル割合ハ日本ハ英国ノ約二倍ニ相当ス

(d)其ノ他ノ損害項目ニ於ケル計算ノ基礎英国ヨリモ高キモノアリ特ニ separation allowances ニ関シテハ甚ダシキ間隔ヲ見ル

故ニ英国ノ二十五株ニ対シ日本ガ一株ヲ取得スルコトヲ主張スルノ根拠トシテ提出シ得ベキ現在ノ計數ハ先ヅ第一ニ

珍田大使發電第五四八号第四ノ後段一「パーセント」ヲ以テ交渉ノ基礎トスル能ハズ本邦ハ幾株ヲ得レバ可ナルヤヲ考慮セザル可カラズ勿論株數ヲ基礎トスル交渉ニ於テハ最後ニ定マル可キ総株如何ニ依リ利害關係アレドモ総株數ヲ成ル可ク減少センコトハ英仏兩國ノ尤モ努力スベキコト自然ノ道理ナルヲ以テ先ヅ英国協議員ノ見込ノ如ク一〇八株多クモ一〇株ニ上ラザル可ク大數ニハ開カザル可シ殊ニ本邦ニアリテハ金額ノ減少ハ頗ル僅少ナリ

第四、新計画(英仏専門家ノ起案ニシテ「ブローニー」會議ノ承認セルモノ)ニ拠レバ独逸ノ賠償年賦金總額一三四億五千万磅其ノ元金價格(一九二一年一時ニ受取ルモノトシ五分ノ利息ヲ以テ還元シタルモノ)五十億八千四百十萬磅之ヲ一〇八株ニ分テバ其ノ一ハ年賦金總計ニ於テハ一億三千四百万磅元金價格ニ於テハ四千六百八十七万二千磅英帝国二十五株トスレバ年賦金總計三十一億磅元金價格十一億七千八百八十万磅然ルニ英帝国損害總額ハ二十五億磅トスレバ新計画ニ依リ英帝国ガ其ノ損害要求ヲ満足セシメ得タル割合ハ四割六歩余ニ過ギズ

右計画ヲ本邦ニ適用スルニ一株ヲ得ルトスレバ右年賦金總

其ノ計算ノ基礎ニ於テ高キニ過グトノ非難ヲ免レズ次ニ斯ノ如ク高キ基礎ニ於テ積算シタル總額モ亦英国ノ二百五十ニ対シ約六ニ相当シ英国ノ二十五ニ対シ一ヲ主張シ得ベキ計數ニ非ズ

第六、勿論賠償委員会ニ於ケルガ如ク個々ノ損害ニ付一々精細ナル調査ヲナシ各國ノ損害額ヲ確定セントスルガ如キ煩瑣ナル手續ヲ省略センガ為ニ今回ノ如キ分配協定ノ方針ニ改マリシ次第ナレドモ協議員ノ交渉ニ当リテハ少クトモ大体ノ計數及事實ヲ示シ合セ又大体ノ査定及批評ノ交換ヲナスハ避ケ難キ所ナリ故ニ本邦協議員モ早晚之ニ応ズルノ覚悟無カル可カラズ若シ徒ニ何時迄モ不明ナリトシテ計數ヲ示サザレバ各國中最モ後廻シトセラレ終ニ協定ニ与ルコト能ハザルニ至ランニ之ハ最モ不利益ナレバ寧相当ノ時機ニ相当ノ計數ヲ提出シ事實ヲ説明シテ少クモ英仏兩國ノ協定ニ加入スルヲ得策ナリト信ズ

第七、然ルニ一方ニ於テ右現在ノ數字ハ第四及第五末段ノ如ク計算ノ基礎ニ於テ高キニ過グルニモ拘ラズ其總額ニ於テハ一株ヲ主張シ得可キ額ニ達セズ從而此ノ儘之ヲ示スニハ協議員ノ地位非常ニ困難ナリ去リトテ又他ノ一方ニ於テ

英国ハ兎モ角モ他国ノ数字ハ果シテ如何ナル基礎ヲ以テ計算シ来タルヤモ知ル能ハズ若シ他国ノ示ス可キ計數ハ不当ノ標準ヲ以テシタルモノトセバ我國独リ尚一層道理アル基礎ヲ以テ切り下ゲタル計數ヲ示スモ不利益ナリ如斯微妙ナル立場ニアル故此ノ際已ムコトヲ得ズ交渉上第一次ノ階梯トシテ苟モ一応説明ノ附ク可キ限リニ於テ從來ノ数字ニ相当ノ斟酌ヲ加ヘ以テ其ノ総額ヲシテ一株ノ配当ヲ主張シ得ル迄ニ到達セシムルノ外ナキニ至レリ

第八、以上ノ目的ノ為ニハ船舶損害ハ英国トノ比較上最早増加ヲ許サズ其他全然見込ニ属スル項目ハ改算頗ル容易ナレ共其ノ数字頗ル少額ニシテ大數ヲ動カスニ足ラズ主トシテ恩給殊ニ家族手当ニ適宜ノ加算ヲ施シ以テ我國損害総額ヲ八千三百五十六万八千七百磅トシテ提示セントス然レ共他国ノ損害ハ其項目複雑計數巨額ナルヲ以テ交渉ノ席上一見シテ其ノ基礎ノ当否ヲ判断シ難キニ反シ我國ノ損害ハ簡單ニシテ且計數少額ナルヲ以テ他国協議員ノ批評頗ル容易ナルコトハ覚悟セザル可カラズ

第九、珍田大使發電第五三九号ノ一ハ至急入用ニ付御回電ヲ請フ

額ノ百分比例ナリト信ジ居リタル仏国ノ輿論ハ単ニ英仏間ノ比例ニ過ギザルヲ發見シテ失望ノ声ヲ洩シツツアリ

七二四 六月三十日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对独条約財政条項ノ解釈及実行ヲ賠償委員會

ニ委任ニ関シ我方申出ニ対スル同委員會ノ決議報告ノ件

第一〇七四号 (七月三日接受)

賠実第五〇号

第一、往電第九八四号(賠実第四三号)第五ヲ以テ報告シタル財政条項委任ニ関シ賠償委員會ハ六月十八日左ノ決議ヲ為シタリ

賠償委員會ハ对独条約第九編ノ解釈及実行ニ関シ日本政府カ与ヘタル委任ヲ受諾スルコトヲ決議ス

日本政府ノ要求ニ從ヒ日本委員ハ第九編ニ関シ日本ノ利害ニ關係アル決議ノ実行前相談ヲ受クベシ

日本政府ノ第二ノ要求ニ関シ賠償委員會ガ今日迄採用セル手續ハ第九編ヨリ生ズル問題ニ關係アル一切ノ議事録草案又ハ一切ノ文書ヲ悉皆日本委員ニ送付スルコトニ反ス

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七二四

在英大使へ転電セリ

七二三 六月二十九日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償総額ノ分配問題ニ関シ英仏兩國ノ受領分

確定セル旨ノ情報問合せニ対シ回答ノ件

第一〇六七号 (七月一日接受)

貴電第四四四号ニ関シ英仏米三国間ニ賠償金額割當ニ関シ協議アリシハ客年三月二十八日ニシテ更ニ英仏間割當ノ比例ヲ定メタルハ同年十二月十三日「クレマンスー」「ルシユール」ガ倫敦ニ於テ「ロイド」「ジョージ」ト会谈ノ節ナリトノコトナリ

十二月十三日会議ノ議事録ナリトテ

「プチ、パリジアン」ノ發表シタルモノ左ノ通り

Il est convenu que la part des réparations, telle qu'elle sera attribuée à la France et à l'Empire Britannique prise collectivement (accruing collectively) sera divisée entre la France et l'Empire Britannique dans la proportion de 11 à 5.

前記ノ事實公表ト共ニ從來五五對二五ノ數字ヲ以テ賠償總

之等文書ノ送附ハ或ル問題ガ日本ノ利害ニ關係アリヤ否ヤヲ日本委員ヲシテ判断シ得シムル為ニ日本政府ヨリ要求セラレタリ然ルニ一國委員ガ或ル問題ニ利害關係アリト思考スベキヤ否ヤノ決定ヲナスモノハ賠償委員會自身ナリ

然レドモ下ノ事實ニ付日本政府ノ注意ヲ促ス  
(一)与ヘラレタル委任ハ第九編中賠償委員會ノ権限ガ特ニ条約ニ依リ認メラレザル条項ノミニ関ス

(二)此等ノ問題ニ付テハ一切ノ他ノ問題ニ付テト同ジク委員會會議ノ日程ハ日本委員ニ通知スルコト

(三)此等ノ問題ニ付日本委員ガ利害關係アリト信ズル時覺書ヲ以テ其ノ意見ヲ提出スルハ常ニ日本委員ノ自由ナリ右意見ノ委員會ニテ考究セララルル場合ニハ日本委員ハ召集ヲ受クベシ

第二、右決議ノ際本邦委員出席セズ蓋シ會議前本邦副委員ハ書記次長ニ対シ本件討議ノ際日本委員ニ対シ出席ノ要求アルベキヤト質問シタル処次長ハ何等問題ナカルベシ若シ問題起リタル時ハ出席セラレ然ル可シト答ヘタリ而シテ其後何等出席ノ要求ヲ受ケザリキ  
在英大使へ転電セリ

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七一五

九二二

七一五 六月三十日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償配分問題ニ関シ英國協議委員ト会谈ノ模  
様報告ノ件

第一〇七六号 (七月二日接受)

第一、大正九年六月廿八日夜ヨリ廿九日朝ニカケ賠償委員  
会ニ於ケル各国事務所ハ計数提出準備ノ為多忙ノ模様ナリ  
シガ交渉主任タル英仏兩國ノ協議員共別ニ活動ノ模様ナク  
午後ニハ賠償委員会ニ出席シ居レリ依ツテ散会後英國協議  
員ヲ訪問シ往電第一〇七八号(損害計数提出ノ件)覚書英  
文一通ヲ手交シ主任主査ノ経過ヲ尋ネタルニ英國協議会ハ  
左ノ如ク語レリ

(イ)目下ハ全然「デッド・ロック」ノ状態ニアリ蓋シ英仏間協  
定ノ当事者タリシ「ルシヨール」ハ仏国政府ガ「ブロー  
ニユ」會議ニ於テ英仏ノ協定制合ハ百分率ニアラザルコト  
ヲ承認シタルコトヲ攻撃シ仏国政府頗ル困難ヲ感ジ若シ出  
來得ベクンバ百分率ノ主張ニ復帰セントノ希望アリ從ツテ  
仏国協議員ハ交渉ヲ進ムル能ハズ今之ヲ促進スルモ何等ノ  
益ナカルベシ

タルコトハ確ナリ尚「ブローニユ」出發前ノ發電ニ対ス  
ル返電モ不日到着スベク此返電ハ拙者ノ計算ヲ十分ニ確認  
スヘシト信ズト説明セルニ英國協議員ハ其レニシテモ尚英  
國トノ權衡上過分ナラズヤトノ問ニ対シ森協議員ハ英國ト  
ノ比較ニ於テ差異アル部分ハ家族ノ数ニ帰因スベシト答ヘ  
タルニ英國協議員ハ首肯セリ

第三、是ヨリ余談ニ入り英國協議員ハ仏国政府ノ態度今日  
ノ如クナルニ於テハ英國協議員ニ於テモ施スニ策ナク「ブ  
市」へ出發前僅ニ廿四時間内ニ配当案ノ協定ヲ見ルコト覺束  
ナキ意ヲ洩セリ尚念ノ為人ヲ遣ハシ尋ネタルニ仏国協議員  
ノ所在不明ナリ依ツテ英國協議員ハ午後七時半迄事務所ニ  
残り居ルベキ故森協議員モ同様ナランコトヲ勸メタリ然レ  
ドモ当夜ハ何等ノ發展ヲ見ザリシ  
在英大使へ転電セリ

七一六 六月三十日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本ノ損害計数ヲ賠償配分協議仏國委員宛提

出ノ件

第一〇七八号 (七月三日接受)

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七一六

(ロ)計数提出ノコトハ止ムヲ得ズ同意シタレドモ今回ノ目的  
ノ為ニハ事実上何等ノ益ナシ蓋シ各国ノ計数ガ総テ英國及  
日本ノ夫ノ如ク道理アルモノトセバ可ナレドモ穩當ノ基礎  
ヲ以テ計上シタルモノナリヤ否ヤ判断ノ途ナシ総テ承諾  
スルカ若クハ否認スルカニ帰着スベシ

(ハ)白耳義ノ物質損害計算法ヲ見ルニ家屋其他ノ物的損害ハ  
先ヅ戦前ノ價格ヲ取り物価騰貴ノ理由ノ下ニ五倍若クハ七  
倍ヲ乘ジ斯クシテ得タル紙幣價格ヲ金貨馬克ニ換算スルニ  
当リ今日ノ為替相場ヲ以テスル由ナリ

(ニ)日本ノ数字ハ大体ニ於テ道理アリト信ズ唯前日モ述ベタ  
ル如ク「セパレーション、アラウアンス」ノ総額ニ於テ英  
國ト余リニ懸隔アルコト了解ニ苦シム

第二、森委員ハ此総額ハ日本政府ニ於テ条約文ニ基キ仏國  
法ヲ精査シテ其實際動員數ニ適用シテ得タル計数ナルコト  
ハ明カナリ尚其後念ノ為メ各種ノ材料ニヨリ檢算シタルニ  
全然正確ナリトノ結論ニ到着セリ蓋シ総額ノ約半額ハ海軍  
ニ屬シ海軍ハ常ニ動員セラレタルモノナリ陸軍動員數ハ時  
機ニ依リ異レバ計數ハ複雑ナリ之ヲ要スルニ陸海軍ヲ通ジ  
テ廿万以上ハ「セパレーション、アラウアンス」ヲ受ケ得

第一、往電第一〇七七号所報申合ニ基キ六月廿九日仏國協  
議員(賠償委員會議長)ヨリ森委員宛本邦計数提出方正式  
ニ催告シ同時ニ損害種目ノ分類ニ関スル形式ヲ示シ來レル  
ニ依リ同日午後森委員ノ名ヲ以テ左ノ計數ヲ仏國協議員宛  
提出セリ

a、人的損害

(一)非軍人ニシテ戦争行為ノ犠牲トナレルモノ(第一附屬書  
第一号)九、一一四、〇〇〇円

(二)独逸國、聯盟國又ハ非占領地ニ於ケル被害者(第一号及  
第三号)三、〇四〇、〇〇〇円

(三)軍人ニシテ戦争行為ノ犠牲トナレルモノ(第五号)七〇、  
二九四、〇〇〇円

(四)俘虜ニ関スルモノ(第八号) ナシ  
(五)給与金等(第七号)四五四、〇六三、〇〇〇円

計 五三六、五一一、〇〇〇円  
b、物的損害

(一)海上損害等 二七六、五六七、〇〇〇円

(二)其他ノ物的損害 二、八〇五、〇〇〇円

計 二七九、三七二、〇〇〇円

九三三

総計 八一五、八八三、〇〇〇円

(以上各項トモ一馬克四十七錢八厘ニテ換算セル金貨馬克ノ額ヲ並置セリ)

第二、右計数表ノ前文ニ於テ大体往電第一〇七九号第二ノ事情ヲ説明シ且斯ノ如キ事情ナルヲ以テ日本委員ハ今後政府ヨリ報道ヲ受クルニ從ヒ必要ナル訂正変更又ハ追加ヲ為ス一切ノ権利ヲ留保スル旨ヲ附言シ置キタリ  
在英大使へ転電セリ

註 六月三十日松井大使宛内田外務大臣宛電報第一〇七七号ヲ省略セリ右ハ賠償配分協議委員會六月二十八日ノ會議ノ模様ヲ報告セルモノナルガ其ノ第八左ノ通

「第八、仏國委員(部長)之等ノ意見ヲ綜合シテ參會ノ六ヶ國委員ニ對シ二十九日午前中ニ人的損害物の損害ニ區別セル請求計數ヲ議長ノ手元迄提出セラレタシト提議ス」

七一七 六月三十日 在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償配分協議英國委員ヨリ森委員ニ我損害計

數問質ノ件

第一〇七九号 (七月二日接受)

第一、六月廿六日森協議員ハ英國協議員ノ求ニ依リ之ト面

ノ協定案ニ到着センコトヲ希望ス然ラザレバ何時迄モ又何人ノ手ヲ以テモ協定ヲ得ル能ハザルベシト述ベ何レニセヨ損害ノ計數ヲ以テ協定ノ基礎トスル外ナキ故協定案ヲ作ラシメ日本ノ損害數ヲ告ゲンコトヲ請ヘリ

第四、森ハ今自分ニ承知シ居ル概數トシテ往電第一〇七七号第八所報ノ本邦損害總額約八千三百万磅ト告ゲタル処英國委員ハ日本ノ損害總額ヲ約七千万磅ト計算シ居リタレバ著シキ差異ナシ英國ヲ廿五トスル時ハ日本ハ一株ヨリモ一株ノ四分ノ三ニ相当スルモノト附ケタル見当ノ趣ナリ但自分ハ一株ヲ配當シテ差支ナシト信ジ又之ヲ支持スベシ尤モ仏國ハ何ト云フカラ知ラズト述ベ次ニ今後ノ順序トシテ先ヅ損害ノ多數ナルモノ白、伊ノ中何レカラ協定セシメ之ヲ幹部ニ引キ入ルル時ハ交渉中最有力ナリ而シテ其後ニ於テ日本ヲ加入セシムルニ最モ心理的機到着スベシト述ベタリ森ハ日本ノ損害總額ヲ今回ノ對独總要求額ト總株數トニ對比スルニ約二株ヲ取得スルニアラザレバ賠償額ヲ満足セシムルコト能ハズト述ベタルニ英國委員ハ賠償額全幅ノ満足ハ何レノ國モ得ル能ハズ予テ語リシ如ク英國モ其約半ヲ得ルニ過ギズト答ヘ森ハ英國ニシテ犠牲ヲ忍ブ以上ハ日本

一〇 对独平和条約ノ賠償条項實施ニ関スル件 七一七

會シタルニ英國委員ハ協議委員會開會ニ先チ大体打合せ置クコト便宜ナリト認メタル所以ヲ語リタル後本邦損害總額ヲ問ヘリ

第二、森ハ先ヅ前提トシテ各國配當率ノ問題ニ付テハ日本ハ「ブローニユ」會議ニ於テ始メテ相談ニ与リタルコト從ツテ本國政府ヨリ何等訓令ヲ受クルノ余暇ナカリシコト加之日本政府戰爭損害ノ申告受領中ニシテ申告期間ハ七月十日迄ナルヲ以テ正確ナル計數ハ本國政府ト雖モ未ダ知り居ラザル地位ナルコト唯個々ノ項目ニ付断片的ニ報告ニ接シタル概數又ハ見込額ハ之ヲ所持スルモ日本ノ(不明)額ノ提出シ得ベキ計數ヲ有セザルコトヲ述ベ然レドモ元來吾人協議員ノ使命ハ財政専門家トシテ各國間ノ配當率ニ付一応仮ノ協定案ニ到達スルニアリテ其案ハ「ブラッセル」會議ニ於テ全權若クハ政府ニ依リテ(脱)ナリト了解スルヲ以テ此了解ノ下ニ於テ目下ハ諸所ノ計數ノミヲ以テ交渉ニ応ジ得ベシト信ズト答ヘタリ

第三、英國委員ハ協議委員ノ地位ハ形式上ニ於テハ其通ナリ然シ實際各國政府ハ協議員ノ協定シタル配當案ヲ承認スルノ外ナカルベキコトモ明白ナリ依ッテ吾人ハ茲ニ確定的

モ又之ニ応ジテ犠牲ヲ忍バザルベカラズト雖モ一株ヲ以テ最低限度トス一株以下ニ下ルガ如キハ到底忍ブ能ハザル所ナリト述ベ置キタリ

第五、更ニ英國委員ハ内訳ノ大体ヲ承知シ置クノ必要アリトシ自分一個トシテハ異存ナキモ計數内訳ハ何レ他日他國ノ批評ヲ覚悟セザルベカラズ依ッテ内訳中重要ナルモノヲ指示サレタシト求メタルヲ以テ森ハ先ヅ海上損害(貨物ヲ含ム)約二千八百万磅ト告ゲ同時ニ英國ノ計數ヲ問ヒタルニ英國協議員ハ英國ハ貨物ヲ含ミ八億磅ナリト答ヘ別ニ批評ヲ加ヘズ他ニ多額ヲ包容スル項目ヲ問ヒタルヲ以テ恩給七百磅家族手当四千六百万磅ト説明シタルニ英國委員ハ英國ノ恩給(英本國分)一〇億磅家族手当三億磅ト答ヘイ、英國ノ恩給ト家族手当トノ割合ハ日本ノ夫ニ比シ反對トナリ居ルコト  
口、出征軍人ノ數ヨリ見レバ日本ノ家族手当ハ英國ニ比シ過度ニ巨額ナルコトヲ指摘シタリ  
第六、森ハ此計數ハ電報ニテ受領シ其詳細ヲ承知セザレドモ(イ)ニ関シテハ日本ハ其出征軍人ノ總數ニ對シ死傷ノ割合少キガ為ナラン(ロ)ニ関シテハ日本ノ軍人ハ英國ニ比シ家族

多キ事実ノ結果ナルベシト説明シタルニ英国委員ハ(イ)ニ関シテハ英国トノ比較上稍々権衡ヲ得ルカ如キモ(ロ)ハ如何ニモ不権衡ノ如シ仮ニ英国ノ出征軍人ヲ三百万日本十万人トセハ家族手当ハ日本ハ英国ノ三十分ノ一ニ相当スベキニモ拘ラズ三十分ノ四以上ニモ達シ居ルコト研究ヲ要ス或ハ寧ロ英国ノ計算ニ誤アルニアラズヤトテ書記ヲ呼ビ入レ種々質問シタル処結局英国ノ数字ニモ誤ナシトノコトナリ森ハ日本ノ計數ハ仏国法ヲ適用シテ算出シタル結果ナレバ誤ナシト信ズル旨ヲ述ベ他ノ話ニ移レリ

第七、其中参考トナルベキモノ左ノ如シ(イ)仏国ハ出来得ル限リ株數ノ少カラントニ尽力シ総株ヲ一〇一ニ止メタキ希望ヲ有ス(ロ)英国協議員ハ一〇五ニ纏メタシト提案シ(ハ)白耳義ハ十二ヲ提案シ(ニ)英国ハ七ヲ主張シ(イ)伊国ハ二十ヲ主張シ(ロ)英国協議員ハ六位ヲ持チ出サントス(ハ)但シ結局白伊ヲ合シ十五ニ纏メタシ日本希臘羅馬尼葡萄牙其他ニハ総計五ノ範圍ニテ纏メ結局総株數一〇六トナルベキカト思ハル

第八、尚別ニ臨ミ英国委員ハ森ニ注意スルニ六月廿八日協議員全体ノ總會ヲ開クニ先チ仏国協議員ト会谈シ置クノ便宜ナルヲ以テシ尤モ仏国協議員ノ現在ノ立場ニ於テハ直チ

協議ヲ纏ムルコト能ハザル可ク然ラバトテ別ニ施ス可キ策モ無キ故此ノ儘「ブ」府會議ニ報告スルノ外ナカル可キカト語レリ該談話中仏国協議員ヨリ面会ノ申込アリタルヲ以テ英国委員ハ森ニ暫ク待タシコトヲ請フテ之ニ赴キシガ暫クシテ人ヲ以テ晚餐ヲ自宅ニ於テ共ニセシコトヲ求メタリ

第三、英国協議員ハ遅レテ帰宅シ卓上ニテハ簡單ニ自分ハ何事モ為サザル(脱)告ゲ食後別室ニ於テ大要左ノ通語レリ

a、協議ハ進行ノ見込無シ仏国ハ英、仏(脱)合計八六ヲ百ヨリ差引キ残り一四ノ内五ハ小損害國ノ為ニ保留ノ要アルニ依リ伊及白ニ割当ツル分ハ九ニ過ギズトノ意嚮ナルガ如シ如斯ハ到底伊白ヲ満足セシムルコト不可能ナリ

b、七月一日午前九時半伊国委員ヲ招致スルコトニ成リ居ルガ其ノ結果或ハ明日總會ヲ開クカ又ハ開会ニ至ラズシテ「ブ」府ニ赴クコトトナルカ全ク未定ナリ故ニ明朝八十時頃迄ニ來会セラレタシ

右ニ對シ英国委員ハ伊国委員ノ繰言ヲ聞クノ無益ナルヲ極言セルモ仏国協議員ハ其ノ説ニ従ハズ

c、英国委員ノ考フル所ニテハ先ヅ白ヲ抱キ込ミ八位ニテ

ニ日本トノ協定ニ違シ得ベキ管ナケレドモ日本ノ配當ハ一株ヲ超過スルコトナカルベシトノ見當仏国委員ノ頭ニ入ラバ勇氣ヲ付ケ交渉ノ進捗ヲ助クルノ利益アリトノ事ヲ附加セリ依ッテ森委員ハ直チニ仏国協議員ヲ訪ヒタレドモ病氣ニテ帰宅セル由ナリ

在英大使へ転電セリ

~~~~~  
七一八 七月二日 在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償配分協議委員會ノ協議進展セザル狀況ニ  
関スル英国協議員ノ森ニ對スル談話報告ノ件

第一〇八五号 (七月四日接受)

賠償配分協議會六月卅日ノ經過

第一、伊白協議員ハ頻リニ會合ヲ重ネ時々英国協議員ニ交渉シ居ル模様ニシテ英国委員ハ屢々仏国委員ヲ促セルモ仏国委員ガ往電第一〇七六号第一(イ)ノ事情ニテ動カザル為何等ノ發展ヲ見ズ

第二、森委員ハ夕刻英国協議員ト面会シタルニ英委員ハ口ヲ極メテ仏国委員ノ地位ヲ歎ジ此ノ人ヲ相手トシテハ到底

承諾セシメナバ伊ヲ七ニ納得セシムルカ少クトモ非常ノ讓歩トシテ八位ニ纏メ得ル望アリ併シ此ノ手段ニ付協議ノ首腦タル仏ガ動カザルヲ以テ止ムヲ得ズ

第四、英国委員ハ此際仏国ヲ督励スルカ若クハ之ヲ無視シテ進ムノ外ナシト述べ英国協議員森ノ意見ヲ求メタレバ森モ贊成ス同委員ハ更ニ勸告スルニ英国協議員明日「ミラン」ヲ車中ニ要シ優秀ナル通弁ヲ用キテ之ヲ説明セシムルコト最良策ナリト英国協議員ハ明日ノ發展如何ニ依リ斯クスベシト答ヘタリ

第五、前日來竝今日ニ於ケル英国協議員トノ談話ニ徴スルモ英国協議員ガ一株ヲ日本ニ配當スルコトヲ支持スルハ明ニ看取セラルルモ(脱)事情前述ノ如ク困難ナル上伊白又其ノ配當割合ヲ固執スルノ難関アリ一般ノ情勢斯ノ如キ上本邦ノ提出シ得ベキ數字其ノ物ガ單純ナル數理上ニ於テ一株ヨリモ一株ノ四分ノ三ニ近キコトハ往電第一〇七九号第四英国委員ノ述べタル所ニ相違ナシ然シ如何ナル計數ヲ用キルモ是以上ニ膨脹セシムルコトハ成シ得ベキコトニアラズ依ッテ英国ニ於テ如何ニ日本ヲ支持スト雖モ全体ノ協議ヲ纏ムル必要上日本ノ要求ニ對シ削減論有力トナルヤモ知レ

ズ故ニ前述樂觀シ難シ  
在英大使ニ転電セリ

(二日午後十二時)

七一九 七月三日

在英國珍田大使(武府出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ブラッセル最高会議ニ於テ仏英伊白塞諸國ノ

賠償分配率決定ノ件

特別第三号

(七月五日接受)

第一、最高會議ハ七月二日午前ノ會議ニ於テ其午後賠償分配率ノ問題ヲ附議スル旨決議セルモ英仏両首相ハ其ノ開會前内交渉ニ依リ大体ノ了解ニ到達スル目的ヲ以テ熟議ヲ重ね形勢漸次有望トナリタルモ而モ猶最後ノ解決ニ達スルニ至ラザリシヲ以テ同日ノ會議ハ全然延期トナレリ

第二、白耳義委員ハ森委員ニ對シ配当率ノ問題ハ協議委員ノ手ヨリ首相ノ手ニ取り上ゲラレタルガ故ニ首相何ヲ為スヤ知ラザレ共自分ハ最早關係セザルコトヲ言ヒ故テリト告ケタリ

第三、同夜宮中晚餐ニ於テ英國首相本使ニ告ケテ曰ク配当率ノ問題ハ out of court ニテ決定スルノ外途ナシ依テ貴國財政専門家ヲシテ且下該問題折衝ノ中心タル Sir Laming

第一、七月三日午前十一時英國政府代表者 Sir Laming Worthington Evans ヨリ森委員ニ面會ヲ求メ來タレルニ依リ森委員會見ス「サー、ジョン、ブラッドベリー」及英國大藏大臣ノ Hamilton 氏同席ス  
第二、「エヴァンス」ハ賠償分配率問題ニ付各國ノ間ニ幹旋シタル旨ヲ述ベ日本ノ提出計數(松井大使發往電第一〇七八号)ハ各國提出計數中最モ合理的ノモノト認ム此ノ是認ハ日本委員ノ諒トスル所ナル可シ英國ノ損害種目モ大体日本ノ種目ト其ノ態様ヲ一ニスルノミナラズ其ノ計數ノ合理的ナルコト又自ラ信ジテ疑ハズ而シテ一億磅ヲ一株ト見ル従來ノ計算方法ヲ以テスレバ英國ノ二十五株ニ對シ日本ハ十分ノ八株ヲ取ルコトトナル本來英國委員ハ出來得可クンバ日本ニ一株ヲ割當テ度キ希望ナリシモ大勢上計數ヲ無視スル訳ニモ行カズ右希望貫徹不能トナレリ諒察ヲ請フ又英國ハ之等株數ヲ以テ直チニ百分率タラシムル希望ナリシモ之又大勢ノ許サザル所トナレル故ニ「パーセント」トスルコトニ讓歩スル考ナリ從而日本ニ對シテモ約四分ノ三「パーセント」ヲ割當ツルヲ公平至當ト認ム故ニ英國ハ極力此ノ割當ヲ主張スル考ナリ而シ未ダ他國其他ノ意嚮ヲ

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七二〇

Worthington Evans ト接觸ヲ保ツ様セラレタシト本使依テ之ヲ諾シ即時「エヴァンス」氏ニ森委員ヲ紹介シ且何時ニテモ同委員ニ於テ交渉ニ応ズヘキ旨ヲ述ヘ置キタリ  
第四、同シク宮中ニ於テ仏國財務官カ森委員ニ語ル所ニ依レバ首相等相談ノ結果先ツ英仏間ノ對価ヲ定メタル後白塞首相伊國全權ト交々交渉シタル結果稍々解決ニ近キ配当率ニ到著セリ之ニ依レハ英、仏、塞、各讓歩シ仏五十二、英二十二、塞五トシ伊國九、二分ノ一、白塞八トセムトノコトナリ  
而シテ右數字ハ百分比例ナリヤト言ヘルニ然リト答ヘタリ蓋シ仏ニ於テハ斯ク減少スル以上ハ最早讓歩シ得ヘキ最少限ト見ザルベカラザルニ至レリ云々  
在仏大使ヘ転電セリ

七二〇 七月四日 在英國珍田大使(武府出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償分配率ニ関シ森委員、日本二四分ノ三パーセント割當ニ異議ナキ旨及保留現物價格特別取扱ノ承認ヲ得度旨英側ニ回答ノ件

特別第四号 (七月七日接受)

知ラザルガ故ニ万一他ノ諸國ガ夫々自國ノ削減又ハ讓歩ノ事實ヲ引用シテ日本ノ割當ニ付テモ相當ノ削減ヲ要求シ之ガ為全体ノ解決ニ支障ヲ生ズルガ如キコトアリテハ遺憾ナルヲ以テ日本モ大局上多少ノ讓歩ヲ敢行スル趣旨ニ於テ四分ノ三「パーセント」乃至二分ノ一「パーセント」ノ間ニ讓リ合フコトヲ英國ニ委任シ與レ間敷キヤ英國トシテハ四分ノ三「パーセント」割當ニ全力ヲ尽スベキコトハ勿論ナリト申出デタリ

森委員ハ英國ノ提議スル四分ノ三乃至二分ノ一「パーセント」ノ割當ハ當方ノ打算ヨリスルモ松井大使宛電第五二一号ノ趣旨ヨリ見ルモ敢テ反對スルニハ及バザル率ト認メタルモ之ヲ機トシテ往電第五二六号及松井大使宛電第五二一号現物留保ノ問題ヲ交換的ニ解決スルコトノ必要且適切ナルヲ認メタルニ依リ右英國ノ提議ニ答フルニ先チ英國政府ハ現物ノ受領ト共ニ現金ノ支払ノ關係ヲ考量セシヤヲ反問セリ此時「サー、ジョン」ハ此現物ノ問題ハ日本ニ取り重大ノ關係アリ此附帶問題ノ解決ハ本案即チ分配率ノ決定ニ有益ナル影響アルベキコトヲ敷衍説明スル所アリ「エヴァンス」ハ日本ノ受領スル現物ノ種類ヲ質問セルニ

依リ森委員ハ内訳ノ大体ヲ説明シ且山東鉄道ニ付テハ仮令私有タルコト証明セラレタル場合ト雖モ其ノ特殊ノ沿革ニ顧ミ又現金ニ替ヘ難キ固定財産ナルニ照シ其価格ヲ現金ニテ吐キ出スガ如キハ思モ寄ラズ其他ノ現物ニ付テモ其価格ヲ現金ニテ吐キ出スガ如キハ日本政府ノ堪ヘザル所ナル故分配率ノ協定ニ附帯シ十分此点ノ了解ヲ得タシト述ベタリ「エヴァンス」ハ日本ノ受クル現物ノ価格幾何ナルヤヲ問ヘルニ「サー、ジョン」ハ森委員ノ説明ヲモ待タズ少額ナル旨ヲ答ヘタリ

第三、「エヴァンス」ハ右現物ニ関スル森委員ノ説明ヲ諒トシ此点ニ関スル日本ノ主張ヲ「サポート」スルノミナラズ英國亦同様ノ態度ニ出デントス蓋シ一旦受領セル現物ノ価格ニ関シ國庫金ノ支出ヲ議會ニ要求スルガ如キハ頗ル困難ナル事情アルヲ以テナリ故ニ英國ハ条約ノ規定如何ニ不拘受領現物ノ価格ヲ現金ニテ吐出スガ如キコトナカラシムル新協定ヲ聯合國間ニ結ブコトニ努力セントス從ツテ日本ニ付テハ其適用ヲ特ニ山東鉄道等ニ限局スルノ必要ナキニ至ルベシ依ツテ前記分配率ニ関スル提案ニ賛同センコトヲ求メタリ

一、三日午前中英仏両首相ハ白国首相ト交々協議中ナリシガ白国外相ノ午餐會ニ於テ仏国首相ハ英國首相ノ伝言トシテ本使ニ告グルニ英國代表者ノ日本ニ提供ス可キ配当率ハ日本ハ是非同意シテ貫ヒ度シトノ趣旨ヲ以テセリ本使ハ之ニ答ヘテ之レ首相ハ午前中既ニ森委員ト英國代表者トノ間ニ協定纏リタルコトヲ（往電特別第四号）知ラザル前ノコトナラント言ヘルニ仏国首相ハ或ハ然ラントテ安心シタル色アリ

二、他國間ノ交渉ニ関シテハ白国ノ優先実行問題ニ関シ一頓挫ヲ来シ伊国モ未ダ其ノ配当率ニ満足セズ從テ本日午後ノ最高會議モ配当率ヲ議題ニ載セズ依然トシテ國別交渉中ニアリ

三、白国首相ノ晚餐後英國首相ハ特ニ本使ヲ招ギ英國ハ如何ナル場合ニモ日本ヲ支持ス可キ故安心シテ英國ニ一任セラレ度シト述ベタリ本使ハ英國首相ノ話題ハ森委員ト英國代表者トノ協定ノコトニ関シ勿論他ニ対シテハ不安ヲ感ジタルヲ以テ午後ニ於テ仏国首相ノ齋シタル伝言ニ言及シ簡單ニ協定ノ条件ヲ告ゲタルニ英國首相ハ内容ニ触レズ一途ニ唯日本ノ主張ハ必ズ支持ス可キ故英國ニ一任シ度シト繰

第四、森委員ハ更ニ附言シテ曰ク前記現物特別取扱ハ占領軍ノ費用ニ対シテモ適用セシムル趣旨ナルコト即チ占領軍ノ費用ハ条約上ノ特權ナリト雖モ日本ハ此費用ニ当ツル為其受領スル現物ノ価格ヲ吐キ出スコトヲ欲セザル意味ナリト

「エヴァンス」ハ新協定ハ勿論其趣旨ヲ以テ結バルベキモノナリト答ヘタリ

依ツテ森ハ若シ右ノ意味ニ於ケル現物保留ノ原則ガ十分明確ナル承認ヲ得ルニ於テハ日本ノ受クル分配率ハ英國政府ノ好意的「サポート」ニ信賴シ四分ノ三「パーセント」ニ於テ決定スルニ異議ナキ旨答ヘタリ右回答ニ対シ「エヴァンス」ハ日本委員ノ大局ニ貢献セントスル襟度ヲ謝シテ別レタリ

在仏大使へ転電セリ

七二一 七月四日 在英國珍田大使（武府出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

賠償分配当率問題ニ関シ英仏首相等ノ所言報

告ノ件

特別第五号 （七月六日接受）

返セリ其後又英國代表者ト談話ヲ交ヘタルニ英國代表者ハ自ラ森委員ノ午前ニ提供シタル条件即チ現物價格特別取扱ノ件ヲ自國ノ立場ニ適用シテ折衝シ日英共同ニテ此ノ主張ヲ貫徹ス可キコトヲ述ベタリ

四、右晚餐會ニ於テ白国委員ハ森委員ニ告グルニ今日ノ噂ニ依レバ日本ハ最モ紳士的ノ態度ヲ以テ實際ハ最モ良好ナル果実ヲ得タリトノ話ナリト前提シ白国ニ於テモ決シテ格別配当率ノ多キヲ固執スルニ非ザレ共曩ニ昨年四月ニ於テ決定セル白国優先支払ノ約束ヲ英國ガ今更變更セントスルガ故ニ今日ノ頓挫ヲ来タセルコトヲ述ベタリ伊國委員ハ白國ノ優先支払ノ約束ハ条約規定外ノ優遇ニシテ此ノ上ニ配当率ヲ主張スルハ不当ナリト告ゲタリ又英國代表者ハ森委員ニ告グルニ現物代價特別取扱ノ条件ハ英國ト日本ハ同舟ノ人ナリ必ズ貫徹セシム可キ様交渉シ且全体ノ交渉ハ未ダ終結ニ達セザレ共大体経過良好ナリ今夜ヨリ明日ニ掛ケ首相ト共ニ極力進捗ニ努力ス可シ但シ時々不調ノ外觀ヲ呈スルコト申スニ及バズト附加セリ

在仏大使へ転電セリ

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七二二 七三三

九三二

七二二 七月七日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國松井大使宛(電報)

賠償物件ニ関シ現金支払ハ不可能故其措置振  
二付訓令ノ件

第五四三号

貫電第一〇七五号ノ六ニ関シ往電第五二二一号ノ通本邦ノ現  
狀ニテハ現金支払ハ殆ンド絶對ニ不可能ニ付現物特別取扱  
若ハ債務証書トスルコトヲ得ズシテ現金支弁トナルカ如キ  
場合ニ於テハ既ニ出荷済ノ分ハ他ニ方法ナケレバ已ムヲ得  
ザルモ其ノ他ノ分ニ付テハ前記往電ノ趣意ニ依リ之カ為現  
金支払ヲ為サザルコトニ御留意相成度現金支払ヲ要スル場  
合ニハ将来分配ヲ受クルコトヲ全然見合ス様致度為念申進  
ス

在英大使ニ伝達アリタシ

註 六月三十日松井大使宛内田外務大臣宛電報第一〇七五号ヲ省  
略セリ右ハ独逸ヨリ賠償トシテ受領スル染料ニ関スルモノナ  
ルガ同号六左ノ通

「珍田大使宛閣下宛往電第五四二二号ニテ報告シタルガ如ク本  
件ノ如キ受領物件ノ代金ハ一時現金ヲ以テ支弁スルコトト相  
成ルヤモ計リ難キ雲行ナルニ依リ左様御承知置アリタシ」

七二三 七月八日 内田外務大臣ヨリ  
原内閣総理大臣宛

对独平和条約ニ依ル賠償金品ノ分配問題ニ関  
シ同条約第八編ノ解釈決定方請議ノ件

附記

七月八日附壇原外務次官ヨリ高橋内閣書記官長  
宛和一機密送第六九号  
右請議書提出時機ニ関スル件

和一機密送第六八号

对独平和条約第八編賠償条項ノ規定実施ノ結果本邦ニ於テ  
モ差当リ染料ノ引渡ヲ受クルコトナリ且船舶等モ近々引  
渡ヲ受クルコトト相成ルヘク是等賠償金品經理ノ為メ今般  
大蔵省ヨリ特別會計設置方請議ノ運ヒニ到リタル処該金品  
ヲ被害個人ニ分配スヘキヤ否ヤハ個人ノ利害ニ重大ナル関  
係ヲ有スルコトニ有之殊ニ前記船舶染料等ニ関シテハ差当  
リ問題ヲ生ズル義ニ候

右ニ関シ条約ノ規定スル所ヲ見ルニ前記第八編第二百三十  
二条中ニ交戦期間内同盟及聯合國ノ普通人民及其ノ財産ニ  
対シ加ヘラレタル一切ノ損害ニ付補償ヲ要求シ独逸國ハ之  
カ補償ヲ為スヘキコトヲ約スル旨ヲ定メ同編第一附屬書ニ  
於テ其ノ損害ノ種目即チ要償損害ノ範圍ヲ定メ居候モ被害

個人ニ対シ其ノ属スル国家又ハ独逸國ニ対スル損害賠償請

求ノ權利ヲ与ヘタルモノト認ムヘキ点無之寧ロ該編ノ規定  
ハ被害個人ニ対シ右ノ權利ヲ与フルモノニ非ズシテ単ニ独  
逸國ト同盟及聯合國トノ關係ニ於テ同盟及聯合國ノ要求ス  
ル賠償ノ範圍ヲ定メタルモノト解スルヲ正当ト認メラレ候  
英國ニ於テモ同様ノ解釈ヲ取り同國大蔵大臣ハ曩ニ同國議  
會ニ於テ前記第八編ノ規定ニ依ル賠償ノ要求ハ國家力加ヘ  
ラレタル不正ニ対シ英國政府ノ為ス要求ナルヲ以テ独逸ヨ  
リ支払ヲ受ケタル賠償金品ハ國家ノ財産トナリ被害個人ハ  
之ニ対シ寸毫ノ請求權ナキモノナル旨声明ヲ為シ候  
更ニ實際問題トシテ之ヲ觀ルニ前記染料船舶等ハ本邦損害  
要求額ノ一部ニ過ギズ今後該賠償条項ノ規定方如何ナル程  
度ニ於テ実行セラルヘキヤ目下確カナル見込立タス從テ本  
邦損害要求額ノ全部ニ対シテハ如何ナル数量及如何ナル時  
期ニ於テ支払ハルヘキヤモ尚未タ確定セザルノ現状ナルヲ  
以テ本邦受領ノ染料船舶等ヲ個人ニ分配スルノ件ハ未ダ之  
ヲ決定スルノ時期ニ達セズト認メ候

以上ノ理由ニ依リ今回大蔵省ヨリノ特別會計設置ノ請議ニ  
關聯シテ差当タリ前記第八編ノ規定ニ対スル政府ノ解釈ヲ

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七三三

一定スル為メ

一、对独平和条約第八編ノ規定ニ依リ独逸ヨリ受クル賠償  
金品ハ國家ノ取得スル所ニシテ被害個人ハ之ニ対シ該条約  
ノ規定上何等請求權ヲ有スルモノニアラザルコト  
二、該賠償金品ヲ被害個人ニ分配スルト否トハ一ニ国内政  
策ノ問題ニ属スルモノナルヲ以テ之ヲ分配スヘキヤ否ヤ及  
分配スルトセバ其ノ分配ノ標準程度ヲ如何ニスヘキヤノ問  
題ハ将来適當ナル時機ニ於テ審議決定スルコト  
ニ閣議御決定相成度此段及請議候也

(附記)

七月八日壇原外務次官ヨリ高橋内閣書記官長宛和一機密送第六  
九号

对独賠償条項ノ解釈決定方請議書提出時機ニ関スル件

和一機密送第六九号

对独平和条約第八編ノ解釈決定方請議ニ関スル件

本件ニ関シ本月八日附和一機密送第六八号ヲ以テ当省大臣  
ヨリ内閣総理大臣宛閣議請議書提出致候処本件ニ關聯シ追  
テ大蔵省ヨリ賠償金特別會計設置方請議可有之ニ付右ヲ閣  
議ニ附セラルル際同時ニ前記当省ヨリ請議ノ件ヲ閣議ニ附  
セラルル様御配慮相成度此段御依頼申進候也

九三三

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七二四 七二五 七二六  
(欄外註記)  
「別紙閣議請議書ノ番号御記入ノ上該請議書ト同時ニ御発送相成タシ」

七二四 七月十六日 在英國珍田大使(スパ)出張中ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

スパ最高會議終了シ独逸賠償ノ聯合國間分  
配協定等調印ノ件

特別第四二号

(七月十八日接受)

本十六日午後九時スパ會議終了、英、仏、伊、日、白及  
独逸ノ間ニ軍事追加會議録及石炭ニ関スル協定ヲ又英、  
仏、伊、日、白、葡ノ間ニ賠償分配協定ヲ調印シタリ  
會議録第十七以下追テ電報ス

本使明日出発巴里經由帰任ス(十六日午後十時半)

七二五

七月十九日

原内閣総理大臣ヨリ  
内田外務大臣宛

対独平和条約第八編ノ解釈ニ付閣議決定ノ件

内閣外甲第六二号

(七月二十日接受)

大正九年七月十九日

ハ「サー、ジョン」ヲ訪問シ交渉ノ成行ヲ尋ネタルニ日本  
ノ条件ハ確實ニ決定セラレタルコトヲ答ヘタリ其後協定案  
ノ作成中ナリシガ最近起草委員会ニ廻付セラレタル右協定  
案ヲ見ルニ其編成頗ル複雑難解ナルモ之ヲ本邦ニ適用スレ  
バ  
分配率ハ〇、七五「パーセント」英二二「パーセント」仏  
五二「パーセント」伊太利一〇「パーセント」白八「パー  
セント」ニテ満足ト称シ得ベキモ受領現物及独逸ノ貸方ニ  
記入スベキ額ノ処分ニ付テハ本邦ノ主張ト多大ノ懸隔アリ  
主要ナル場合ヲ掲グレバ

a、一九二一年五月一日迄ニ本邦ニ受領スル現物ノ価格  
及第二四三条ニ依リ独逸ノ貸方ニ記入セル額(經濟条項第  
三及第四附属書ノ最後残額ヲ除ク)ハ本邦ノ賠償債権ニ対  
シ賠償委員会ヨリ前渡ヲ受ケタルモノト看做シ五分ノ利子  
ヲ支払フ又此ノ前渡金額ハ五箇年間に独逸ニ起サシムル公  
債ノ非常担保ニ充当ス(此ノ意味ニ於テ賠償委員会ノ処分  
権ニ属ス)又此ノ前渡金額ハ五箇年ニ分割当テ各部分共  
該年度ニ於テ本邦ノ受クベキ年賦債権ノ満足ニ充当シ若シ  
残余アルトキハ賠償委員会ニ払込ムモノトス(第二四三条

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七二六

七二六

九三四

内閣総理大臣 原 敬(印)  
外務大臣子爵 内田康哉殿

指令

大正九年七月八日和一機密送第六八号

対独平和条約ニ依ル賠償金品ノ分配問題ニ関シ同条約第八  
編ノ解釈決定方ノ件  
請議ノ通

七二六

七月十九日

在仏國松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸賠償分配協定ニ珍田大使調印ノ経緯同大

使ヨリ報告ノ件

第一一六一号

(七月二十日接受)

珍田大使ヨリ左ノ通

第一、賠償ノ分配ニ関シテハ「スパ」到着ノ夜「サー、  
ジョン、ブラッドベリー」ハ森ニ告グルニ若シ仏國ヨリ交  
渉アラバ「ブラッセル」ニ於ケル日英ノ協定ハ日本ニ於テ強  
硬ニ維持セラレタク若シ日本讓歩セバ英國ノ讓歩ヲ已ムナ  
キニ至ラシムベシト、而シテ英仏兩國交渉主任トナリテ各  
國ト折衝中ナリシガ日本ニ対シ交渉ナキヲ以テ七月九日森

ニ依リ独逸ノ貸方ニ記入スベキ額ノ未確定ノモノハ賠償委  
員会(仮ニ之ヲ定ムトアリ)

b、經濟条項第四附属書ニ依ル清算残額ヲ一九二一年五  
月一日迄ニ賠償委員会ニ払込ムトキハ全部白耳義ノ優先権  
ノ満足ニ充當セラル

c、聯合國ノ引渡ヲ受ケタル染料ノ大部ハ全部白耳義ノ  
優先権ニ充當ス

d、一九二一年五月一日以降独逸ノ一切ノ支払又ハ引渡  
又ハ賠償委員会ノ受領金額ハ占領軍費用ニ優先充當スルモ  
ノヲ除ク外先ヅ白耳義ノ優先権ニ充當セラル

第二、仍テ森ハ七月十三日英國委員ヲ訪ヒ協定案ノ構成ハ  
本邦ガ分配率ニ付同意セル条件(往電特別第四号)ト著シ  
ク異レルノミナラズ其根本ハ本邦ノ関知セザル白耳義優先  
権ニ在ルヲ以テ到底如斯協定ニ同意シ難キコトヲ注意シタ  
ルニ英國委員ハ右協定案ナルモノハ今尚協議中ノモノニ属  
シ確定ノモノニ非ズ尚又前記(a)ノ如キハ仏國ノ提案ニシテ  
英國ト雖今尚反对シ居ル次第ナリ但シ独逸ヲシテ起サシム  
ル債券ノ担保ニ充當スルコト丈ハ大局ノ趨勢ニテ之ニ同意  
ノ外ナカルベシト思考ス日本ニ対シテハ英國政府トシテ同

九三五

意セル条件ヲ履行シ出来得ル(脱)

第三、右ノ如ク英国委員ノ好意的回答ヲ得タルモ協定ノ進行ニ願ミ本邦ノ主張ヲ文書トシテ提出シ置クノ必要ヲ認メタルニ依リ七月十四日森ヨリ英国委員宛左ノ覚書ヲ交付シタリ

一、日本ノ受クル賠償分配率ハ〇、七五(パーセント)タル可キコト若シ或年又ハ或ル期間ニ日本ガ独逸ヨリ引渡ヲ受ケタル現物ノ代償ト日本ガ独逸ノ賠償貸方ニ記入セル額トノ合計ガ該年又ハ該期間ニ於テ日本ノ受ク可キ賠償率ノ價格ヲ超過スル時ハ此ノ超過額ハ日本之ヲ保留シ爾後ノ年又ハ期間ニ於ケル日本ノ賠償年賦債権ノ満足ニ充当ス此ノ目的ニ充當シテ尚残額アル時ハ之ヲ賠償委員会ニ支払フ右ノ如ク保留セル超過額ハ日本ノ賠償債権ニ関シ賠償委員会ヨリ前渡ヲ受ケタルモノト看做シ之ニ対シ年五分ノ利子ヲ支払フ此ノ利子モ日本ノ年賦債権ノ満足ニ充當ス

日本ハ右超過額ノ存スル間ハ独逸ノ現金ヲ以テ支払フ可キ賠償ノ分配ニ与ラザルコトニ同意ス

第四、此ノ夜「サー、ジョン」ノ森ニ語ル所ニ依レバ恰モ同日(七月十四日)ノ会議ニ於テハ日本ノ受クル賠償ニ付

ノ優先権ニ充當スル為現金ニテ支払フコトヲ要ス染料ニ付テハ条約ナキノミナラズ他ノ諸国ト同一ノ取扱ヲ受クルコトハ已ムヲ得ズト認メラル

b、船舶ハ特別条項ニ依リ一九二一年五月一日迄ニ英国ニ分配セル船舶ノ英国市場ニ於ケル實際売却價格ヲ標準トシテ評価スルモノナルガ故ニ前記第一 aノ規定及前記第五ノ新条項ニ依リ其ノ價格ハ全部本邦ノ賠償債権ニ充當シ得但シ休戦後ニ於ケル白耳義ノ價格決定ノ専門(脱)ニ比例シテ其ノ分配後白耳義ニ分与スルノ規定アルヲ以テ日本ノ分配額ニモ約一七〇〇噸ノ減額ヲ生ズ可シ

c、山東鉄道及鉱山ニ付テハ其ノ私有タルコト証明セラレタル場合モ其ノ價格ハ之ヲ本邦ノ賠償債権ノ満足ニ充當シ得ルコトト成レリ(一九二一年五月一日迄ニ独逸ノ貸方ニ記入ス可キ額ノ判明セザル時ハ仮リニ賠償委員会ノ見積額ヲ以テス)

d、海底電線ニ付テハ之ヲ賠償ノ目的ニ当テタル現物ノ支払ト解釈スルニ於テハ一九二一年五月一日迄ニ引渡ヲ受ケ其ノ價格ヲ決定シタル場合ニ限り其ノ價格ヲ全部本邦ノ賠償債権ニ充當シ得ルニ過ギザルモ之ヲ第二四三条ニ依リ独

テノミ論議セラレタリ英国委員ハ日本ト協定条件ヲ固執シ日本ガ他国ノ計數ニモ顧慮セズ容易ニ分配率ノ協定ニ賛成セルハ現物保留ノ条件アリタルガ為ノミ英国ハ此ノ契約ヲ履行スル義務ヲ有ス依テ若シ他国ガ之ヲ承認セズンバ今回ノ分配率ノ協定ハ全部不成立ナルコトヲ覚悟セザル可カラズト説キタルヲ以テ他国委員モ結局日本ノ主張ヲ容ルルコトトナリタリ但シ目下進行中ノ協定案ニ対スル修正ノ形ヲ以テスルコト困難ナルガ為日本ノ為ニ特別ノ条項ヲ設クルコトトナリタリ但シ伊太利委員ハ日本ニ関スル特別条項ガ自国ニ影響アルヤヲ顧慮セルガ為或ハ此ノ点ニ関シ又特殊ノ条項ヲ設クルコトトナルヤモ図リ難シトノコトナリキ

第五、七月十六日落手セル最終協定案ニ依レバ前日ノ論議ノ結果第四条ハ伊太利及日本ノ為ニ特別ノ条項挿入セラレ其ノ結果トシテ第一ノ(a)ノ前渡金額ノ残余ヲ賠償委員会ニ払ヒ込ム前ニ日本及伊太利ノ将来ノ年賦金(五パーセントヨリ低カラザル率ヲ以テ割引キシタル)ノ満足ニ充當シ得ルコトトナレリ

第六、右ノ最終協定案ヲ本邦ニ適用考察スルニ

a、賠償委員会ノ分配シ又ハ売却セル染料ノ代價ハ白耳義逸ノ貸方ニ記入ス可キ受領物ト解釈スルトキハ實際評価ノ時期如何ニ拘ラズ全部本邦ノ賠償債権ニ充當シ得ルコトトナレリ

e、經濟条項ニ依リ独逸ノ貸方ト成ル可キ最終残額ハ前記第一 aニ述べタルガ如ク本邦ノ前渡ヲ受クル金額ノ計算ヨリ除外セラレ全部白耳義ノ優先権ニ充當セラルル規定ト成リ居レリ

此ノ点ニ関シ英仏委員ノ説明スル所ニ依レバ經濟条項ニ於ケル最終残額ナルモノハ長年月ヲ経ザレバ判明セズ從而白耳義ノ優先権ガ他ノ方法ニテ満足シタル後ニ實現スルモノナルガ故ニ白耳義ニ取り実益ナキ規定ナリ換言スレバ英仏共ニ經濟条項ノ残額ヲ白耳義ニ与フルガ如キコトハ予想シ居ラズトノコトナリ然レ共本邦ハ仮リニ英仏等ノ例ニ倣ヒ清算ヲ遅延スル場合ニ白耳義ノ優先権ノ適用ヲ免カレ得ト言フニ止マリ該適用ヲ免カレタル後ノ処分ハ今回ノ協定中ニ規定ナキ結果条約ノ規定ニ復帰シ結局賠償勘定ニ吐出スノ外ナキコトト成ル可シ

f、前記第一ノ a前渡金額ヲ五ケ年間独逸ノ賠償担保ニ充當スルコトハ素ヨリ本邦ノ好マザル所ナレ共仏國ノ熱心ナ

ル主張ノ結果英国モ之ヲ容認セル次第ニテ英国委員ハ此ノ容認ノ理由トシテ之又實際ノ適用ヲ生ゼザル可シト信ズルガ為(脱)タレリ故ニ本邦トシテモ敢テ之ニ反対スル必要ナシト認メタリ

第七、以上ノ考察ヨリスルニ最終協定案ハ特ニ本邦ノ希望ヲ容レタル点尠カラズ此ノ上微細ノ点迄我主張ヲ貫徹セントスルハ大勢ノ許サザル処ナルノミナラズ仮リニ本邦ガ白耳義優先賠償協定ニ加入シ居ラザル理由ヲ以テ其ノ本邦ニ對スル適用ヲ拒否シ得ベシトスルモ占領軍ノ費用ノ優先ト現物ノ支払ヲ現金ノ支払ト同視シテ分配スルノ原則ハ條約ニ於テ認メタル処ナルガ故ニ此ノ点ヨリ追窮セララルル時ハ本邦ノ特例主張ノ基礎薄弱トナル虞アリ然カ而已ナラズ白耳義優先賠償ノ協定モ改メテ本邦ニ呈示シ承認ヲ求メラルルニ於テハ(不明)八日松井大使宛往電第八六七号ノ宣言加入ノ關係モアリ結局承認ノ外ナキ地位ニ在リ又往電特第四号英国トノ申合ヲ固執セントスルモ之ハ要スルニ一國トノ協定ニ過ギズ然モ当事國タル英国ハ既ニ其ノ協定ノ履行ニ出来得ル限り尽力シタル今日尚飽ク迄我主張ヲ貫カントスルモ英国ヲ苦境ニ陥ラシムルニ過ギズシテ若シ之ガ為全

部ノ協定ノ不成立トナルガ如キコトアランカ本邦ノ不利益ナリト思考セルニ依リ本使ハ茲ニ最後ノ決定案ヲ承認スルコトニ決意セリ

第八、但シ前記第六ノ四、經濟条項ニ於ケル最終残額ノ除外ハ貴電第五二三号所報ノ計數ノ巨額ナルニ照ラシ影響多大ナリト認メタルヲ以テ本使ハ七月拾六日ノ最高會議ニ於テ右最終残額ノ除外ヲ削除スルカ又ハ本邦ノ関スル限り此ノ点ノ留保スルコトヲ提議スル意志ヲ以テ會議ニ臨ミタリ而シテ右提議ノ貫徹ヲ期スルニハ予メ英國側ノ同意ヲ得置クコトハ必要ト認メタルヲ以テ會議前本使ハ森ト共ニ Sir Laming Worthington Evans ニ面会シ内意ヲ伝ヘタル処「エヴァンス」ハ少カラズ驚キ經濟条項最終残額ニ付テハ英國ノ希望モ全然一致セリ然レドモ他國ノ意向ニ照ラシ此ノ主張ハ到底貫徹ヲ期シ難キコト判明セルノミナラズ經濟条項ノ最終残額ニ関シテハ一國ノ所作如何ニ依リ事實上ニ於テ現金支払ヲ避クルノ道アリト信ジタルガ故ニ固執スルヲ欲セズ蓋シ「ブ」府以來英國ハ諸國トノ交渉ニ幾多ノ難關ヲ重ネ此ノ間ニ於テモ常ニ日本トノ約束ヲ支持シ一方其ノ配当率ニ於テハ其ノ最高限度タリシ四分ノ三「パーセン

ト」ヲ獲得シ他ノ一方ニ於テハ日本ノ為ニ特別条項ヲ設ケシムル迄ニ至レルハ英國ノ最善ノ努力トシテ認識セラレンコトヲ希望ス此ノ以上ハ英國ト雖モ力及バズ若シ日本ニ限り閣下ノ如キ留保ヲ為サントセバ仏國ノ如ク本協定ニ不満ニシテ為ニ會議ノ分裂ヲ生ジ調印ヲ希望シ居ラザル國ハ之ヲ機トシテ留保ヲ申出デ他國モ又是ニ倣ヒ結局スル処無カルベク延イテ今迄ノ苦心努力ノ結果タル折角ノ協定案モ水泡ニ帰スベシ賠償問題ノ將來及諸國ノ態度ニ察スルニ聯合國間ニ於ケル協定ノ速成最モ必要ナルコト論ヲ俟タズ而モ

日英兩國ノ為ニハ本協定ハ最モ有益ナルコト疑ヲ容レズ故ニ英國ハ今日中ニ諸國ノ調印ヲ終ラシメンガ為ニ全力ヲ尽シ遂ニ仏國首相ヲシテ其ノ同僚ノ意ニ反シテ承諾セシメ今ヤ將ニ諸國調印ノ有無決セントスル瞬間ニ際シ日本ノ提案ハ本協定ニ重大ナル危険ヲ与フベシ故ニ大局ニ貢獻スルノ趣旨ヲ以テ曲ゲテ提案ヲ見合ハサレ度キ旨ヲ懇願セリ本使ハ英國政府代表者ノ意志斯ノ如クナルニ於テハ假令提議スルモ英國側ノ同意ヲ得ル見込絶無ニシテ從ツテ希望貫徹不可能ナルハ勿論今日ニ至ル迄ノ英國ノ好意ニ報ユル所以ニアラズト信ジタルヲ以テ「エヴァンス」ニ對シ本使ハ政府

ノ明確ナル訓令ニ違反スル次第ナルモ英國政府ノ意ノ存スル所ヲ諒シ本使ノ責任ヲ以テ修正案ノ提議ハ之ヲ見合スベシト告ゲタル処「エ」ハ大イニ喜ビ深ク謝スル所アリタリ第九、以上ノ經過ヲ以テ本使ハ七月拾六日賠償分配協定ニ署名セリ協定全文<sup>(註)</sup>追電ス

註 協定全文ヲ報告シタル珍田大使來電第六〇号(八月四日、五日、六日東京著)ヲ省略ス但シ右協定全文ニ付テハ後出七三一文書參看

七二七 八月四日 在英國珍田大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

賠償問題討議ノ為ノ委員会ニ出席スベキ我方

代表指名ニ関スル件

第六七八号

(八月六日接受)

貴電第三四八号<sup>(註)</sup>ニ関シ該會議ニ對スル我代表委員トシテハ森、関場ノ兩人ヲ指名致シタク右兩人ノ列席ハ賠償委員タル資格ニ非ズ特ニ「ゼネヴァ」ニ開カルベキ會議ニ帝國政府ヲ代表シ出席スルモノナルニ付其ノ趣旨ヲ以テ右兩人及隨員トシテ山路後藤ノ二名ニ對シ御發令方至急御措置アリタシ

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七二八

尚英國政府代表者ニ関シ去月三十日「カーゾン」卿ニ面会ノ節同卿ヨリ英國ハ大蔵大臣及「サー、ラミング、ウォーシングトン、エヴァンス」ノ二名ヲ派遣スル趣内話アリ右ハ往電六三五号次官内話ト稍趣ヲ異ニスルヤニ認メラレ問ヒ糺シタル処右兩名ハ矢張り「エキスパート」トシテ選定セラレタルモノニシテ政治家トシテノ意味ニ非ザル旨説明アリタリ仍ツテ本邦トシテハ森等ヲシテ代表セシメ妥当ト思考セラレ前記発令方上申ニ及ブ次第ナル処他國ヨリ大臣格ノ委員派遣アリ我代表者ニ於テ其ノ間ニ伍シ行動スル以上之ニ相当ノ待遇ヲ与フルコト必要ナルハ申ス迄モナク就テハ委員ニ対シ規定支給ノ外潤沢ナル機密費御給与相成リ度ク右至急御詮議ノ上何分ノ回電ヲ請フ(四日)

(追テ前記山路トハ大蔵属山路鎮夫ナリ)

在仏大使へ転電セリ

註一 七月三十一日外務大臣発珍田大使宛電報第三四八号ヲ省略セリ右ハ在本邦白耳義代理公使ヨリ「スパイ」會議ニ於テ設置シタル賠償問題討議ノ委員会ニ出席スル我方代表者名ヲ問合越セルニ付珍田大使ニ於テ適宜我方代表委員ヲ指定シ其氏名ヲ白耳義政府ニ通告スル様珍田大使ニ訓令セルモノナリ

之アルヘキニ付テハ佐藤代理公使ヲ加フルコト致シタシ但英國側ニ於テモ賠償委員ヲ専門委員トシテ同伴スル管ナルニ付関場ハ其ノ資格ニテ出張セシメタシ依テ左ノ形式ニテ発令方御詮議相成リタシ

(正委員) 森財務官 (副委員) 佐藤代理公使 (専門委員) 関場事務官

(委員附) 山路大蔵属 (同上) 後藤財務書記

尚万一佐藤代理公使ハ瑞西公使館手不足ノ際ニモ之アリ出張方御詮議相成リ難キ様ノ場合ニハ「スパイ」以来ノ関係モ之アルニ付当館齋藤書記官ヲ副委員ニ任命相成リタシ將又愈々「ゼネヴァ」出張ノ際ニハ電信事務等ノ為在英仏大使館等ヨリ繰合セ官補二名臨時出張ノ必要之アルヘク予メ御認可ヲ請フ

在瑞西公使へ転電セリ (七日後六時半)

七二九 八月八日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償条項第一附属書二関シ取調方在仏大使宛

訓令二対シ回答ノ件

第六九三号

(八月十日接受)

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七二九

九四〇

2 七月二十四日珍田大使発外務大臣宛第六三五号ヲ省略セリ  
該電ハ賠償問題討議ノ為「ジュネーヴ」ニ開カルベキ會議ニ英國ガ派遣スル代表者ニ関スル外務次官「ハーディン」ノ内話ヲ報告セルモノナリ

七二八 八月七日 在英國珍田大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題討議ノ為ノジュネーヴ會議へノ我派

遣代表団ノ構成ニ関シ稟申ノ件

第六九〇号

(八月九日接受)

往電第六七九号ニ関シ英國側ニ於テハ「ゼネヴァ」會議ガ賠償委員会ノ變形タルカ如キ外観ヲ避ケタキ希望ニシテ英國ガ往電第六七八号ノ人選ヲナシタルモ此趣旨ニ外ナラズ然ルニ日本ト賠償委員会トノ關係ハ特殊ノ形式ニアルノミナラス森委員ノ任命ハ海外ニ於ケル日本大蔵省代表者トシテ認メラレタル地位ニ基キ行ハルモノト英國大蔵省ニ於テ了解シ居ルヲ以テ差支ナキモ更ニ関場ヲモ加フルトキハ聊カ會議ノ趣旨ニ反スルカ如キ嫌モ之アルノミナラズ又會議ノ性質上ヨリ考へ外務省側ヨリモ代表者ヲ出シ置クコト最モ然ルヘク尚會議ニ関シ瑞西政府ト交渉ヲ期スル場合モ

対独平和条約賠償条項第一附属書ノ五及七ニ関シ取調方ニ関スル在仏大使宛電第一一二号ニ関シ回答ス

第一、御問合ノ諸点ハ皆議論ノ種トナルベカリシモノナリシモ今日トナリテハ如何ナル必要アリテ調査ヲ望マルルヤ了解シ難シ蓋シ六月二十一日「ブローニー」會議以來巴里、「ブラッセル」「スパイ」ニ跨リ聯合國間ニ協議ヲ重ネタル大目的ハ各國損害種目及其ノ評価ニ関スル賠償委員会ノ決定ヲ俟ツコトナク一方ニ於テハ敵國ニ課スベキ賠償総額ヲ確定シ他ノ一方ニ於テハ其ノ総額如何ニ拘ラズ聯合國間ノ配当率ヲ確定シ置キ斯クノ如クシテ各國ノ損害種目及其ノ評価ニ関シ賠償委員会ニ於ケル議論査定ノ煩累ヲ一掃セントスルニ在リシコト既ニ数次ノ電報ニ依リ御承知ノコトナルベシ而シテ松井大使発第一一六一号ノ通「スパイ」協定成立シ本邦ノ配当率モ確定シタル今日ニ於テハ御問合ノ諸点ノ如キハ最早調査ノ必要消滅シ本邦ト賠償委員会トノ關係ハ頗ル簡單トナレリ之レ右協定ニ依リ収メタル利益ノ一タル所以言外御推察アルベシ

第二、尤モ右協定ハ形式上賠償委員会ノ承認ヲ要スル次第ニシテ而モ現ニ賠償委員會議長タル仏國委員ハ右協定ノ内

容ニ不満ヲ抱キ居ルモ事實ナリ然レドモ聯合國間分配ハ条約上ニ於テモ聯合國間ノ権内ニ属スルノミナラズ賠償委員  
会ガ右協定ノ全部ヲ排斥シ殊ニ損害種目及其ノ評價ノ遂行  
ヲ主張スルニ至ラントハ想像シ難シ(受領現物及財産ノ評  
価ハ別問題ナリ)何レニセヨ一方ノ立場ニ於テハ斯クノ如  
キ査定ノ必要消滅シタルモノト前提シタル態度ヲ維持スル  
コト肝要ニシテ聊モ疑念ヲ示スガ如キハ不得策ナリト信ズ  
在仏大使へ転電セリ

註 前出六六九文書

七三〇 八月十二日 内田外務大臣ヨリ  
在英國珍田大使宛(電報)

賠償条項ニ関スル取調方訓電及回電ノ件

第三六一号

貴電第六九三号ニ関シ右ハ本年二月取調方訓電セルモノニ  
係リ当方ヨリ最近何等之ニ関シ取調方申進シタルコトナ  
シ何カノ間違ヲ認メラル尚貴電ノ趣意ハ当方ニ於テハ能ク  
了解セリ為念  
在仏大使ニ転電ブリタシ

七三一 八月二十三日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛

七月十六日スバーニ於テ同盟諸國代表署名ノ  
協定認証写等送付ノ件

附屬書 右協定認証写

機密公第二二号 (十月九日接受)

大正九年八月二十三日

在英

臨時代理大使 永井松三(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

賠償分配ニ関スル「スバー」同盟側決議認証写

送付ノ件

本年七月十六日「スバー」ニ於テ署名ノ同盟諸國間賠償分  
配率等ニ関スル協定認証写英仏文各巻通及認証写ノ写英文  
式通致ニ及御送付候 敬 具

註 本件協定認証写ハ仏文ノミヲ採録シ他ハ省略セリ

(附屬書)

七月十六日スバーニ於テ同盟諸國代表署名ノ協定認証写

ARRANGEMENT ENTRE LES GOUVERNEMENTS  
ALLIES REGLANT CERTAINES QUESTIONS

CONCERNANT L'APPLICATION DES TRAITES  
DE PAIX ET ACCORDS COMPLEMENTAIRES  
CONCLUS AVEC L'ALLEMAGNE, L'AUTRICHE,  
LA BULGARIE ET LA HONGRIE.

Les Gouvernements de la Belgique, de la France, de  
la Grande-Bretagne, de l'Italie, du Japon et du Portugal,  
respectivement représentés par les soussignés, reconnais-  
sant qu'il y a un intérêt général à régler entre eux, dès  
à présent certaines questions soulevées par l'application  
des Traités de Paix et accords complémentaires conclus  
avec l'Allemagne, l'Autriche, la Bulgarie et la Hongrie,  
ont convenu des dispositions qui suivent :

PARTIE I

ARTICLE 1

En conformité de l'article 237 du Traité de Paix  
de Versailles les sommes reçues de l'Allemagne à titre  
de réparations, seront réparties suivant les proportions  
ci-après :

EMPIRE BRITANNIQUE .....22 pour cent

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七三一

FRANCE .....52 pour cent  
ITALIE.....10    "   "  
JAPON .....0.75   "  
BELGIQUE .....8    "   "  
PORTUGAL.....0.75   "

6.5 pour cent sera réservé à la Grèce, à la Roumanie,  
et à l'Etat Serbe-Croate-Slovène, ainsi qu'aux Puissances  
non signataires du présent arrangement, admises au  
bénéfice des réparations.

ARTICLE 2

L'ensemble des sommes reçues de l'Autriche, de la  
Bulgarie et de la Hongrie, à titre de réparations, ainsi  
que les sommes reçues de l'Italie, de la Roumanie,  
de l'Etat Serbe-Croate-Slovène et de l'Etat Tchéco-  
Slovaque, en exécution des Arrangements des 10 septem-  
bre—8 décembre 1919, sera réparti comme suit :

a) Une moitié sera répartie entre les Gouvernements  
alliés mentionnés à l'article 1<sup>er</sup> et suivant les proportions  
fixées par le dit article;

10 按照本條規定、總額將由國々之半 中川 1

b) Sur l'autre moitié, l'Italie recevra 40% et 60 pour cent sera réservé à la Grèce, à la Roumanie et à l'Etat Serbe-Croate-Slovene, ainsi qu'aux Puissances non signataires du présent Arrangement, admises au bénéfice des réparations.

## PARTIE II

### ARTICLE 3

Les Gouvernements alliés reconnaissent qu'il est de l'intérêt général de fixer le montant total des obligations mises à la charge de l'Allemagne par les articles 231 et 232 du Traité de Versailles, et d'en régler le mode d'exécution sur la base d'un arrangement comportant :

- 1° la fixation d'annuités à payer par l'Allemagne ;
- 2° la possibilité pour l'Allemagne de se libérer par anticipation en escomptant tout ou partie des dites annuités ;
- 3° l'émission par l'Allemagne d'emprunts, destinés tant au besoin propre de ce pays qu'au prompt acquittement de sa dette à l'égard des Puissances alliées.

e) Valeur des prestations en nature jusqu'au 1<sup>er</sup> mai 1921, à l'exclusion des restitutions effectuées en vertu de l'article 238 du Traité de Versailles.

f) Sommes à porter au crédit de l'Allemagne en exécution de l'article 243 du dit Traité, à l'exclusion des soldes définitifs visés aux Sections III et IV de la Partie X (clauses économiques) et à l'exclusion également de toutes sommes reçues par la Commission des réparations et affectées en vertu de l'article 5 § a) du présent arrangement, au droit de priorité de la Belgique.

Si le paiement de la dette de réparations de l'Allemagne consiste en annuités ou en paiements périodiques susceptibles d'être escomptés, la somme apportée dans la colonne crédit pour la valeur actuelle de la créance réparations visée sous la lettre c) sera établie pour chaque Puissance en escomptant à 5 pour cent la part attribuée à cette Puissance dans les annuités ou paiements périodiques mis à la charge de l'Allemagne, à moins que cette part ait été, par exception, fixée en capital.

10 按照本條規定、賠償金額將由國々之半 中川 1

十四四

Les Gouvernements alliés se déclarent disposés à prendre, entre eux, telles mesures qu'ils jugeront propres à faciliter un arrangement de cette nature.

## PARTIE III

### ARTICLE 4

1/- Pour chacune des Puissances alliées, la Commission des Réparations dressera, dans la forme suivante, un compte établi au 1<sup>er</sup> mai 1921 :

1<sup>er</sup> mai 1921

#### CREDIT

- a) Coût jusqu'au 1<sup>er</sup> mai 1921 des armées d'occupation ;
- b) Sommes avancées à la Belgique avant le 11 novembre 1918, y compris les intérêts jusqu'au 1<sup>er</sup> mai 1921.
- c) Valeur actuelle de la créance réparations  
DEBIT
- d) Sommes reçues en acompte sur le coût des armées d'occupation ;

Si, au moment de l'établissement du compte, les soldes à inscrire dans la colonne débit sous la lettre f) n'ont pas été définitivement fixés, la Commission des Réparations en fera une estimation provisoire. Au moment où interviendra la détermination définitive, la Commission opérera dans les écritures les redressements nécessaires.

2/- Si le compte, établi pour une Puissance comme il est dit ci-dessus, fait ressortir que le montant des sommes inscrites au débit sous les lettres d), e) et f), est supérieure au montant total des sommes inscrites au crédit sous les lettres a), d), et c), la Commission des Réparations notifiera à cette Puissance le montant de l'excédent constaté et la dite Puissance en effectuera le reversement à la Commission des Réparations dans un délai de trois mois à dater de la notification.

3/- Dans tous les cas, et après le reversement ci-dessus prévu s'il y a lieu, tout excédent des sommes inscrites au débit (lettres d), e), et f) sur les sommes

十四五

inscrites au crédit sous la lettre a), sera conservé aux effets ci-après :

- a) En ce qui concerne la Belgique, l'excédent sera considéré comme un acompte sur les 2 milliards ½ de francs or, qui lui sont dus par priorité ;
- b) en ce qui concerne chacune des Puissances alliées, autres que la Belgique, l'excédent sera considéré comme une avance remboursable ainsi qu'il est dit plus loin, et portant jusqu'au remboursement un intérêt annuel de 5%, qui sera inscrit au crédit du compte spécial d'intérêts, dont il est question au § 4.

Les sommes ainsi considérées comme des avances constitueront un fond de réserve éventuelle, pour permettre à la Commission des Réparations de faire face, en cas de défaut de l'Allemagne et pendant cinq ans, au service de tout ou partie des arrérages des emprunts allemands prévus à l'article 3, paragraphe 3 du présent arrangement.

n'étant pas inférieur à 5%, qui de temps à autre sera fixé d'accord entre les dites Puissances et la Commission des réparations.

Tout solde, non absorbé par les affectations ci-dessus, sera versé à la Commission des réparations pour être réparti par elle en l'acquit de l'Allemagne entre les Puissances alliées admises au bénéfice des réparations, et suivant les proportions fixées à l'article 1<sup>er</sup>.

4/. Les intérêts des avances, visées au paragraphe 3, feront l'objet d'un compte spécial établi pour chaque Puissance. Le solde créditeur de ce compte sera réparti entre les Puissances autres que la Belgique, suivant les proportions fixées à l'article 1<sup>er</sup>.

#### ARTICLE 5

En considération des sacrifices faits dans l'intérêt général par toutes les Puissances créancières de l'Allemagne afin d'assurer le succès des emprunts visés à l'article 3, et pour prévenir toutes difficultés dans les règlements financiers interalliés la Belgique accepte, et il

L'excédent, dont il vient d'être question, sera, pour chacune des Puissances intéressées divisé en cinq portions égales, respectivement applicables à chacune desdites 5 années. Si, pour une année la portion applicable n'est pas absorbée par le service des emprunts allemands cette portion recevra dans l'ordre ci-après, les affectations suivantes :

- 1/ Acquittement des sommes dues par l'Allemagne à la dite Puissance au titre du coût des armées d'occupation ;
- 2/ Acquittement des sommes, capital ou intérêts, dues par la Belgique à la dite Puissance à titre de sommes avancées avant le 11 novembre 1918 ;
- 3/ Acquittement de l'annuité, s'il y en a une, due par l'Allemagne, à la dite Puissance ;
- 4/ En ce qui concerne l'Italie et le Japon, acquittement par anticipation des futurs versements des annuités dues à ces Puissances (en commençant par les versements les plus proches) à tel taux d'escompte

est entendu par les présentes, que la somme de 2 milliards 1/2 de francs or, qu'elle doit recevoir par priorité en vertu de l'arrangement du 16 juin 1919, lui soit assurée dans les conditions ci-après :

La Belgique conservera, comme il est dit à l'article 4 du présent Arrangement, l'excédent, sur le coût de ses armées d'occupation, des prestations en nature et des transferts de droits et intérêts allemands, dont elle aura bénéficié avant le 1<sup>er</sup> mai 1921. Le surplus des 2 milliards 1/2 de francs or sera prélevé comme il suit, après remboursement du coût des armées d'occupation qui n'aurait pas été effectué comme il est prévu à l'article 4 et jusqu'à ce que la priorité reconnue à la Belgique ait été épuisée :

a) Jusqu'au 1<sup>er</sup> mai 1921, sur tous paiements en espèces reçus par la Commission des Réparations en conformité de l'article 243, et notamment aux titres ci-après :

- 1°/ Remboursements à effectuer dans les conditions

spécifiées à l'article 4, par chacune des Puissances Alliées qui aurait reçu des prestations en nature ou des transferts de droits ou d'intérêts allemands visés à l'article 243 du Traité de Versailles, pour une valeur supérieure à celle de ses créances sur l'Allemagne du fait de ses droits éventuels au paiement du coût de ses armées d'occupation, ainsi qu'à la réparation des dommages subis, et au remboursement des sommes que cette Puissance aurait avancées à la Belgique jusqu'au 11 novembre 1918.

2°/ Règlement du solde définitif en faveur de l'Allemagne des offices de vérification et de compensation prévus à l'article 296 du Traité de Versailles, et versement du produit de la liquidation des biens, droits et intérêts allemands détenus par les Puissances alliées sur leurs territoires respectifs, effectué à la Commission

et outillage, qui doivent être détruits en vertu de l'article 169 du Traité de Versailles.

7°/ Vente au Luxembourg du charbon allemand livré conformément aux dispositions de l'Annexe V, Paragraphe 5, Partie VIII (Réparations) du Traité de Versailles.

8°/ Répartition ou vente des matières colorantes et produits chimiques pharmaceutiques livrés par l'Allemagne dans les conditions prévues à l'Annexe VI, Partie VIII (Réparations) du Traité de Versailles.

b) Après le 1<sup>er</sup> mai 1921—sous réserve du paiement par priorité du coût des armées d'occupation—sur la valeur de toutes livraisons ou de tous versements effectués par l'Allemagne, et de tous autres versements faits à la Commission des Réparations et en état d'être distribués.

c) Jusqu'à concurrence de la somme indiquée plus bas, sur le produit du premier emprunt allemand, et

des Réparations de la manière indiquée à l'article 297, paragraphe h. du dit Traité.

3°/ Reprise, conformément à l'article 254 du Traité de Versailles, d'une part de la dette de l'Empire ou d'un Etat allemand par le Danemark (Slesvig), la Tchéco-Slovaquie, ou la ville libre de Dantzig.

4°/ Acquisition, conformément à l'article 256 du Traité de Versailles, des biens et propriétés de l'Empire et des Etats Allemands par le Danemark (Slesvig), la Tchéco-Slovaquie ou la ville libre de Dantzig, dans les territoires allemands qui leur sont transférés.

5°/ Acquisition, en vertu de l'article 260 du Traité de Versailles, des droits ou intérêts allemands dans des entreprises d'utilité publique ou dans des concessions acquises dans les pays et territoires visés audit article.

6°/ Vente des armes, munitions, matériel de guerre éventuellement sur le produit des emprunts suivants. La Belgique reconnaît, en effet, qu'en vue d'assurer le succès des emprunts, il convient d'intéresser le plus grand nombre possible de créanciers de l'Allemagne à ce succès, et de ne pas réserver à une seule Puissance la quasi totalité du produit. Déduction faite de la part réservée à l'Allemagne sur le produit de ces emprunts, la Belgique touchera, s'il y a lieu, jusqu'à concurrence de 50% dudit produit.

Si le paiement de la dette de réparations de l'Allemagne est prévu sous forme d'annuités, les sommes versées à la Belgique à titre d'acompte en vertu de son droit de priorité viendront en déduction de la part de cette Puissance dans les annuités restant à courir ou dans les versements anticipés que l'Allemagne ferait ultérieurement. Cette déduction sera établie de telle manière que la part de la Belgique dans la valeur actuelle des versements reçus ou à recevoir de l'Allemagne, soit exactement conforme au pourcentage étalé li

par l'article 1<sup>er</sup> du présent arrangement.

#### ARTICLE 6

1/ L'Allemagne ayant, par l'Annexe III de la Partie VIII (Réparations) du Traité de Versailles, et l'Autriche et la Hongrie ayant par les dispositions correspondantes des Traités de Saint-Germain et de Trianon, reconnu le droit des Puissances Alliées et Associées au remplacement tonne par tonne et catégorie pour catégorie de tous les navires de commerce et bateaux de pêche perdus ou endommagés par faits de guerre et étant donnée la grande difficulté de fixer une valeur équitable pour les navires livrés sans avoir tout d'abord procédé : à une vente réelle de la majorité de ces navires, il est convenu ce qui suit :

La vente des navires attribués à l'Empire britannique sera effectuée avant le 1<sup>er</sup> mai 1921 par la Commission des Réparations sur le marché britannique et ces navires ne seront adjugés qu'à des ressortissants britanniques.

Le montant des sommes qui seront à porter au

total attribué ou transféré à l'Empire britannique. 2/ Aucune somme ne sera portée au débit d'une Puissance Alliée, à laquelle des navires allemands auraient été attribués, pour l'utilisation de ces navires postérieurement à la date de la mise en vigueur des Traités respectifs.

Un intérêt annuel de 5% à partir de ces dates, et jusqu'à la date de la vente, ou jusqu'au 1<sup>er</sup> mai 1921 si les navires ne sont pas vendus avant cette date, sera porté au débit de l'Empire britannique au titre des navires qui lui sont attribués ou transférés, et au crédit du compte spécial d'intérêts prévu à l'article 4.

En ce qui concerne chacune des autres Puissances, une somme globale sera portée au débit de cette Puissance à titre d'intérêt et portée au crédit du compte spécial d'intérêts. Cette somme présentera, vis-à-vis de la somme totale portée au débit de l'Empire britannique à titre d'intérêts, la même proportion que la valeur du montant total du tonnage attribué ou transféré à cette Puissance présente vis-à-vis de la valeur du tonnage

crédit de la Puissance ex-ennemie et au débit de l'Empire britannique relativement aux navires de commerce et aux bateaux de pêche qui lui seront attribués ou ultérieurement transférés en vertu d'arrangements interalliés, sera, sous réserve des règlements de compte rendus nécessaires par les réparations ou les dépenses de livraison, le montant du prix réel réalisé par les dites ventes.

En ce qui concerne les autres Puissances, le montant des sommes à porter à leur débit, relativement aux navires de commerce et aux bateaux de pêche qui leur sont attribués ou leur seront ultérieurement transférés en vertu d'arrangements interalliés, sera la moyenne des prix, sous réserve de règlements de compte comme ci-dessus, réalisés par la vente de navires similaires de chaque classe sur le marché britannique.

Les valeurs ainsi déterminées seront portées au débit de la Puissance Alliée et au crédit de la Puissance ex-ennemie intéressées, sous les dates suivantes : En ce

total attribué ou transféré à l'Empire britannique. 2/ Aucune somme ne sera portée au débit d'une Puissance Alliée, à laquelle des navires allemands auraient été attribués, pour l'utilisation de ces navires postérieurement à la date de la mise en vigueur des Traités respectifs.

3/ Dans le cas des navires transférés, la location de ces navires jusqu'à leur transfert sera payée aux Puissances transférantes par la Puissance à qui les navires sont transférés. Les paiements seront effectués en déduisant le montant du prix de location, plus 5% intérêts par an à partir de la date du transfert, des premiers paiements soumis au pourcentage, autres que les paiements en nature au services rendus, et qui auraient été reçus par la Puissance à qui les navires ont été transférés, soit de l'Allemagne, soit de l'Autriche, soit de la Hongrie, quelle que soit celle de ces Puissances qui effectue les premiers versements. Le montant ainsi déterminé sera ajouté au premier paiement soumis

au pourcentage et reçu par la Puissance transférante.

4/ Après l'allocation finale du tonnage par la Commission des Réparations, la Belgique recevra sur les parts des autres Puissances participant à la répartition du tonnage, une quantité de tonnage suffisante pour lui constituer une allocation équivalente tonne pour tonne au tonnage des navires condamnés après l'Armistice par la Cour des Prises belge. Le tonnage ainsi alloué sera approximativement du même âge, du même type et de la même valeur que les navires condamnés. La contribution de chacune des Puissances transférantes sera en proportion de ses réclamations admises à l'allocation tonne pour tonne du tonnage ex-ennemi.

La valeur des navires alloués ou transférés à la Belgique sera porté au débit des Puissances transférantes dans la proportion suivant laquelle elles contribuent au transfert de ces navires.

La condamnation des navires ci-dessus visés par la Cour des Prises belge n'étant pas reconnue par les

Puissances Alliées, la Belgique, tout en maintenant la validité de ces jugements, et en considération du transfert de tonnage mentionné dans le présent paragraphe 4, s'engage à ne réclamer aucun droit sur lesdits navires, en se prévalant de leur condamnation.

ARTICLE 7

Aucune somme ne sera portée au crédit de l'Allemagne pour les croiseurs légers, les docks flottants et le matériel livré ou à livrer en exécution du Protocole du 10 janvier 1920 en compensation des bâtiments de guerre coulés.

En ce qui concerne les bâtiments allemands coulés, qui ont été ou seront renfloués, toute Puissance qui en a reçu ou en recevra l'attribution, tiendra compte des frais de sauvetage à la Puissance qui aura supporté ces frais.

ARTICLE 8

Aucune somme ne sera portée au crédit de l'Allemagne relativement au produit de la vente des bâtiments

de guerre et du matériel naval de guerre livré en conformité des clauses navales du Traité de Versailles, y compris la valeur du produit de la vente du matériel naval de guerre qui a pu ou pourra être effectué par la Commission des Réparations à la requête du Conseil Suprême. Ces sommes seront réparties entre les Puissances Alliées suivant la proportion qui a été approuvée par le Conseil Suprême pour le matériel livré en vertu du Protocole du 10 janvier 1920.

ARTICLE 9

L'Italie aura la faculté, par priorité sur toutes les autres Puissances Alliées, de retenir, en compensation des sommes à elle dûes par l'Autriche, la Bulgarie et la Hongrie, au titre du coût des armées d'occupation et au titre des réparations, une somme égale à celle, dont la Commission des réparations pourra la déclarer comptable vis-à-vis d'elle en raison de la valeur des biens transférés et des services rendus jusqu'au 1<sup>er</sup> mai 1921, conformément à l'article 189, et Annexes III, IV et V

de la Partie VIII (Réparations) du Traité de Saint-Germain, et des dispositions correspondantes du Traité de Trianon, ainsi qu'en raison des dettes visées dans l'Arrangement du 10 septembre 1919, modifié à Paris le 8 décembre 1919, relatif au compte de réparations en ce qui concerne l'Italie. Cette Puissance n'aura, par suite, à émettre les bons prévus à l'article 4 dudit arrangement que si et en temps que sa dette ne se trouve pas avoir été éteinte par compensation comme il est dit ci-dessus.

ARTICLE 10

Les dispositions du présent arrangement ne sont pas applicables à la Pologne. Les droits à la réparation des dommages subits par cette dernière, en temps que partie intégrante de l'ancien Empire de Russie, demeurent réservés conformément à l'article 116 du Traité de Versailles et à l'article 87 du Traité de Saint-Germain.

Les sommes dont la Pologne devra créditer l'Alle-

magne et l'Autriche, en exécution de l'article 243 du Traité de Versailles et de l'article 189 du Traité de Saint-Germain seront inscrites provisoirement à des comptes d'attente qui porteront intérêts à 5% l'an.

ARTICLE 11

Les dispositions du présent Arrangement ne pourront porter atteinte à l'exécution des stipulations de l'article 232, paragraphe 3 du Traité de Versailles.

Le montant des sommes empruntées par la Belgique jusqu'au 11 novembre 1918, y compris l'intérêt des dites sommes à 5% l'an jusqu'à la date du remboursement, sera imputé immédiatement après le paiement de 2 milliards 1/2 de francs or visés à l'article 5, par portions, autant que possible égales, sur les sommes payées chaque année par l'Allemagne avant le 1<sup>er</sup> mai 1926.

Les versements anticipés de l'Allemagne ne seront pas affectés à l'escompte de cette partie des annuités.

ARTICLE 12

au Ministère des Affaires Étrangères de la République Française, à Paris

(Signé) Rolin Jacquemyns

~~~~~  
七三二 十月四日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

対独平和条約第一三四条ニ規定スル独逸財産  
ノ譲渡ハ賠償勘定ニ於テ独逸ノ貸方トスベシ

ト賠償委員会決議ノ件

第一五三三号 (十月六日接受)

賠実六六

一、賠償委員会ハ九月廿八日条約一三四条ニ規定スル独逸財産ニ関スル財政部ノ覚書及法律部ノ意見ヲ議題トシ次ノ決議ヲナセリ

当該財産ノ譲渡ハ賠償勘定ニ於テ独逸ニ貸記(貸方記入)トノ法律部ノ意見ヲ採用シ同時ニ英國賠償委員ハ本国政府ニ広東沙面ニ於ケル英國專管居留地内ニ在ル独逸国王財産ノ価格ヲ決定センコトヲ求ム可ク仏國賠償委員モ上海ニ於ケル仏國專管居留地内ニ在ル独逸学校ノ財産ニ関シ同様ノ

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七三二

Rien dans le présent Arrangement ne portera atteinte au droit des Puissances Alliées d'obtenir le remboursement des crédits de ravitaillement consentis par eux aux Puissances anciennement ennemies.

ARTICLE 13

La question de la réduction du coût des armées d'occupation à une base uniforme pour toutes les Puissances Alliées et Associées, est réservée afin de pouvoir être discutée avec les Etats-Unis d'Amérique.

- (s) Léon DELACROIX (s) C. SPORZA
- (s) A. MILLERAND (s) S. CHINDA
- (s) D. LLOYD GEORGE (s) Afonso COSTA

Spa, le 16 juillet 1920.

Le Secrétaire Général de la Conférence de Spa,  
(s) ROLIN-JACQUEMYNS.

Je soussigné, ROLIN-JACQUEMYNS, Secrétaire Général de la Conférence de Spa, certifie que le présent document est entièrement conforme à l'original déposé

手續ヲナス可シ

一、右法律部意見ノ要旨ハ

一三四条ニ規定セル同盟及聯合國ノ為ニセル独逸財産權ノ拋棄ハ独逸ニ貸記ス可キヤ又ハ單純ノ拋棄(補償ナキ)ナリヤノ問題ニ付テハ前説ヲ肯定ス其理由ハ

(a) 二四三条(イ)ハ独逸財産ノ譲渡アリタル時ハ常ニ(反対ノ規定ナキ限り)譲渡財産ニ相当スル金額ヲ独逸ニ貸記ス可キコトヲ規定ス此場合ニ於ケル独逸ニ対スル貸記ハ賠償委員会ノ義務ニシテ選択權ニ非ズ二四三条ニ依リ賠償委員会ニ附与セラレタル權能ハ譲渡財産ノ価格ヲ決定スル範圍ニ限ル (the right conferred by paragraph C of the Article is limited to the determination of the total amount of the sum representing the value of the transfer) 而シテ本件拋棄ハ疑モナク財産ノ譲渡ナリ

(b) 更ニ同盟及聯合國ノ独逸ニ回答セル平和条件(第四編第五項)ヲ見ルニ

同盟及聯合國ハ膠州湾地域ニ於ケル独逸公有財産ハ他ノ独逸海外屬領ニ於ケルモノト同一ノ標準ニ依リ無償ニテ移転セラルベキモノト思惟ス(中略)一五六条第二項ニ規定ス

ル鉄道及鉱山ニ付テモ同盟及聯合國ハ公有財産ト認メラルベキモノトノ見解ヲ有スルモ独逸ニ於テ反証ヲ提示シ来リタルトキハ私有財産ノ項ヲ適用スルニ外ナラス

トアリ膠州灣地域ニ関シ二五七条及一二〇条ノ原則ヲ適用スベキカノ点ニ付テハ右地域ハ一八九八年三月六日支那ヨリ独逸之ヲ九十九年間租借シ一八九八年四月二十七日帝國保護領ナリト宣言セラレ而シテ總テ公文書ニ帝國ノ保護領植民地トシテ數ヘラルル事実ニ依リテ同盟及聯合國ハ右地域ヲ独逸ノ海外屬領ノ一部ヲナスモノト認メタルナリ以上ニ関スル同盟及聯合國ノ解釈ハ独逸之ヲ承認シタルガ如ク依ッテ対独条約議定書第二項ヲ訂正シ以テ膠州灣地域ノ独逸国有財産ノ讓渡ハ独逸ニ貸記シ得ザルモノナルコトヲ明白ニセリ

斯ノ如ク膠州灣地域ハ独逸ノ保護領又ハ屬領地ナルコト明白ナルモ広東沙面ニ於ケル英國專管居留地又ハ上海ニ於ケル仏國專管居留地ハ固ヨリ之ト同一視シ得ベカラズ從ツテ二五七条及一二〇条ノ適用トナラズ

(C)暹羅ニ関スル一三六条第一項ヲ見ルニ条約ハ海外ノ独領ニアラザル地域ニ於ケル独逸財産ガ独逸ニ貸記セラレズシ

報ゼラル本件ニ付キテハ英仏伊白諸國ノ間ニ引続キ交渉アリタル由ナルガ信ズベキ情報ニ依レバ白國政府「スパイ」會議以來賠償問題ニ付仏國ト歩調ヲ一ニスル約束アリ英國政府ガ九月二日附ニハ「ジュネーヴ」會議開催ノ回章ヲ発セル際ニモ仏ト同ジク「ブラッセル」ノ財政會議以前ニ「ジュネーヴ」會議ヲ開クコトニ反対シタリ九月中旬「エイクス・レ・パン」ニテ仏伊首相ノ會談アリタル際ニモ仏國首相ハ賠償問題ニ付テハ條約所定ノ賠償委員會ニ一任シ其ノ決定ヲ俟チテ独逸側ノ意見ヲ聴取シ度キ意向ナル旨ヲ告ゲ対独條約ノ実施ニ付伊國ガ仏國ヲ支持スル限リ仏國ハ對獨對勃條約ノ実施ニ際シ伊國ノ立場ヲ支持スベキ約束ヲ為セリト伝ヘラル

前記仏白伊ノ決定ニ対シテハ英國政府ニ異議アリ拾月初重ネテ賠償ニ関スル會議ノ開催ヲ仏白兩國ニ迫リタルガ仏國政府ノ態度ハ絶対ニ賠償會議ノ開催ヲ排斥セントスル次第ニアラズ蓋シ本年春季以來仏國ガ賠償問題ノ解決ヲ急ゲルハ拾月拾五日償還期日ノ到来セル「アングロ・フレンチ・ローン」ヲ出来得レバ独逸ノ賠償金ヲ引当トスル國際公債ニテ取り換ヘシメントスルモノナルモ最近一億弗ノ公債米

テ讓渡セラルル時ハ明文ヲ以テ之ヲ規定ス故ニ一三四条ニ依リ独逸政府カ英仏政府ニ讓渡スル專管居留地内ニ存スル独逸ノ公私有財産ノ讓渡ハ二四三条ノ(財産ノ讓渡)ト認メザルベカラズト云フニアリ

三、本件會議ニ際シテハ事支那居留地ニ関シ且膠州灣地域ヲ援用セル關係上本邦副委員ハ陪席委員トシテ出席センコトヲ求メタレドモ賠償委員會ハ討議ノ末此要求ヲ容レズ只書類ノミ入手スルヲ得右ノ事実ヲ知りタルヲ以テ御參考迄ニ電報ス

在英、独大使へ転電セリ

七三三 十月八日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

寿府開催予定ノ賠償會議開催時期ニ関スル英

仏伊白ノ意向報告ノ件

第一五五六号 (十月十日接受)

在英大使發大臣宛第八一六号ニ関シ白耳義首相ハ拾四日倫敦ニ舉行セラルル祭典参列ノ序ヲ以テ「ジュネーヴ」ニ開會ノ予定ナリシ賠償會議ノ件ニ付英國政府ト協議スベシト

國ニテ成立シ是ニテ決濟ヲ了スルコトナレルニ依リ内政上ノ理由ハ別トスルモ此ノ際急ニ賠償問題ヲ解決スル要ナキニ至レルコト及「スパイ」會議ニテ聯合國間ノ意見一致セザル為独逸トノ交渉ニ困難ヲ加ヘタル事実ニ鑑ミ賠償會議以前先ヅ以テ聯合國間ニ充分ノ討議ヲ為シ其ノ上ニテ独逸委員ト會見センコトヲ希望シ居ル由ニテ白耳義首相ハ「ロイド、ジョージ」ニ會見ノ上英仏間ノ意思疎通ヲ計ル考案ヲ有スルモノト想像セラレ居レリ

英、独、伊各大使へ転電セリ  
註 林大使發内田外務大臣宛電報第八一六号(九月十八日外務省著)ヲ省略セリ右ハ寿府賠償會議開催行惱ノ状況ヲ報告セルモノナリ

七三四 十月十一日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛(電報)

山東鉄道及鉱山ガ賠償委員會ノ議事ニ上ルト

キハ我代表ハ必ズ出席スルコトニ予メ了解取

付方訓令ノ件

第七八三号

貴電第一五三三号(三)ニ関シ山東鉄道及鉱山ニ関スル件賠償

委員会ノ議事ニ上ルトキハ本邦代表者ハ其ノ都度必ず出席ヲ求メラルヘキコトハ御承知ノ通客年六月廿四日附松井大  
使來電講第一四三九号及第一四四〇号ノ通既ニ決定セラレ  
居ル次第ニ付今後該事項ヲ審議セラルル際ハ本邦代表者ハ  
必ず出席スルコトニ予メ賠償委員会ノ諒解ヲ得置ク様可然  
御取計相成度為念  
在英大使ニ転電アリタシ

註 松井大使來電講第一四三九号及第一四四〇号ニ就イテハ前出  
五月六日内田外務大臣兼松井大使宛電報第三八七号(六七九  
文書)ノ附記参照

七三五 十月十三日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ関スル仏外務省ベルトロノ談話

報告ノ件

第一五八二号 (十月十五日接受)

拾三日「ベルトロ」ニ面会シ損害賠償問題ニ関シ内報ヲ  
求メタルニ其ノ云フ所左ノ通一方「ブラッセル」ニ於テ仏  
英米ヨリ各二名ノ財政専門家ヲ会合セシメ是ニ独逸ノ委員  
ヲ加ヘテ損害問題ニ関スル専門家ノ研究ノ交渉ヲ為サシメ

七三六 十月十九日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛(電報)

賠償問題ニ関スル武府會議其他同種會議ニハ

我方代表者ヲ参加セシムル様取計方訓令ノ件

第八〇七号

貴電第一五八二号ニ関シ

「ブラッセル」ニ於ケル賠償問題ニ関スル仏英米ノ財政專  
門家並ニ独逸委員ノ会合ハ御意見ノ通り普通ノ賠償委員会  
ト性質ヲ異ニスルモノナルニ依リ此ノ種会合ニハ日本専門  
家モ参加スル様御交渉方御取計相成度シ尙専門家會議ニ止  
ラズ「ブローニユ」及「スパ」會議ニ繼續シテ対独賠  
償問題ノ根本方針ヲ議定スルヲ目的トスル他ノ會議ニハ常  
ニ従前ノ通り我代表者ヲ参加セシムルヲ必要ト認メラル  
ニ付其ノ御含ヲ以テ機ニ応シ可然御取計相成度シ  
本電在英大使及在白公使ニ転電アリタシ

七三七 十月二十三日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

山東鐵道及鉞山ニ付独逸國民ノ有スル利益ノ

評価ニ関スル賠償委員会ノ決議取消方ノ訓令

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七三六 七三七

一方「ジュネーヴ」ニ於テ右四國政府ノ代表者(専門家ニ  
アラズ)ヲ会合セシムルコト丈ヲ主義トシテ決定セリ  
本使ヨリ「ブラッセル」會議ハ普通賠償委員会ト異リ独逸  
委員モ参加スルコトナレバ「ベルサイユ」條約ニ関スル公  
然タル會議ノ繼續ト見ルヲ得ベク從テ日本ヨリモ専門家ヲ  
出席セシメ可然キ儀ト思考スト云ヒタルニ「ベ」氏ハ尤ノ  
御意見ナレド本件ニ関スル談話ノ際最モ本件ニ重要關係ヲ  
有スル右四國ノ会合ヲ企圖シタル訳ニシテ貴國専門家ヲ招  
集スルコトハ考ヘ居ラザリシト答ヘタリ然ラバ日本ヨリ專  
門家ヲ参加セシメタシトノ要求ハ何等仏國政府ニ於テ異議  
無キヤト問ヒタルニ確ニ異議無シ殊ニ日本専門家ガ参列ス  
ルモ吾等ト同意見ナルベキヲ確信スレバナリト答ヘタリ尚  
「ブローニユ」會議ノ決定事項即チ損害総額ニ関スル事  
項ヲ再議スルコトアリヤトノ本使ノ問ニ對シ「ベ」ハ「ブ  
ラッセル」會議ハ専門家ノ會議ナレバ損害問題ノ根本ニ付  
干渉スル所無シト逃ゲテ深キ説明ヲ避ケタリ  
在歐米各大使ヘ転電セリ  
在白公使ヘ転電セリ

再考セラレ度旨稟申及請訓ノ件

第九一〇号(賠実第七〇号) (十月二十五日接受)

本電在仏大使ト協議ノ上電報ス引用セル電信番号ハ総テ在  
仏大使館ノ番号ニ依ル

貴電第五一〇号ニ関シテハ抗議ノ理由ニ付慎重ノ研究ヲ必  
要トスルハ勿論會々「スパ」會議ニ際会シ之ト關聯シテ  
其ノ利害ニ付更ニ考慮ノ要ヲ認メタルニ依リ當時賠償委員  
会ニ對シ抗議ヲ提出スルニ至ラズ

第一、本件ハ往電第一〇二〇号(賠実第四八号)所報ノ如  
ク単ニ賠償委員会ノ内部組織ヲ定メタル分科規定タルニ過  
ギズ賠償委員会ハ事務ノ進捗ニ伴ヒ又促進要求ノ當時ノ輿  
論ニ鑑ミ損害ノ調査及賠償資源タル可キ物件ノ評価ヲ急ギ  
其部局ヲ督励セリ山東鐵道鉞山評価ノ項モ此ノ關係ヨリ分  
科規定ニ挿入セラレタルモノニシテ苟モ独逸ノ賠償資源タ  
リ得可キモノハ賠償委員会ニ關係無キ事項ニ非ズ寧ロ賠償  
勘定貸借計算ノ必要上必ず賠償委員会ニ於テ調査シ置カン  
コトヲ希望スルハ自然ナリ

第二、況ヤ eventual ナル文字ヲ冠シタル以上ハ其ノ評價  
権限ヲ必ずシモ予断シタルモノニ非ズトノ解釈ナルヤモ知

ゾズ

第三、翻ツテ評価権限ノ所在ニ付条約及議定書ヲ検スルニ評価ノ権限ノミナラズ其私有ナリヤ否ヤノ認定権ノ所在ニ付テモ何等明文無ク条約締結ノ沿革ニ徴スルニ独逸ニ宛テタル平和条件第四編第五項ヨリ Allied and Associated Powers... they would, however, be prepared to bring the rights in the two kinds of powers which are the subject of the fifth and sixth articles of the fourth part of the fourth section of the said conditions into the hands of the Government of the United States of America, and to place them under the control of the Reparation Commission, provided that the Government of the United States of America shall be satisfied that the Government of the United States of America is in a position to guarantee the fulfilment of the obligations which the Government of the United States of America has undertaken to assume in connection with the settlement of the reparations claims of the United States of America against Germany.

シテハ本邦ニ表決権無キコト明白ナリ

第四、故ニ是非共我主張ヲ貫徹セントノコトナラバ賠償委員会ニ対スル抗議ト同時ニ主要聯合國及白耳義政府ニ対シ外交的手段ヲ用ヒテ賠償委員会各委員ノ行動ヲ指令セシムルノ外無シ而シテ賠償委員会内部ノ分科規定ニ対シテ斯ノ如キ手段ニ出ツベキヤ否ヤハ帝國政府ノ慎重ニ考慮セラルベキ所ナルベシ

第五、更ニ「スパイ」協定後ニ於ケル本邦ノ地位ヲ考フレバ  
(A) 「スパイ」協定前ニ於テハ私有ナリト決定シタル場合ニ於ケル評価額ハ一般賠償資源ニ充當セラルベキ処 「スパイ」協定ニ依リ是ヲ日本ノ賠償年金ト相殺シ得ルノ結果ヲ得タリ斯ノ如ク所謂現金吐出ノ義務ヲ免レタル以上ハ認定及評価ノ権限何人ニアリヤノ問題ハ「スパイ」協定前ニ比シ余程其ノ重要ノ程度ヲ減シタリト云フベシ

(B) 初メ「スパイ」協定ノ原案ニハ一九二一年五月一日迄ニ金額確定セザルモノ例ヘバ本件鉄道鉦山ニ於ケル私有権ノ如キハ第四条ノ貸借対照表中ニ計上スル由無キヲ以テ從テ一般賠償資源ニ當テラルル外無キ地位ヲ生ジ居タリ故ニ斯

ノ如キ地位ヲ生ゼシメザル様英國委員ニ尽力ヲ求メ其ノ結果(金額確定セザルモノト雖モ賠償委員会ニ於テ仮ニ見積ヲ作り置キ此ノ見積ヲ以テ貸借対照表中ニ計上シ後日金額確定ノ上ニテ可然清算整理ヲ為スベシ)トノ規定ヲ挿入セシメタリ

(C) 勿論此ノ規定ノ挿入ハ我方ニ於テ認定ハ勿論評価ノ権限ヲ賠償委員会ニ与ヘタルニアラズ即チ賠償委員会ノ見積ハ仮ノ見積ニ過ギズ後日金額確定セバ賠償委員会ハ更ニ清算整理スベシ而シテ其ノ金額確定ハ権限ヲ有スルモノニ於テ認定シ評価スルモノナルコト素ヨリ言フ俟タズ

然レドモ賠償委員会ニ仮ノ見積ヲ為サシムルコトハ我方ニ於テモ認容セリ是ヲ認容セザランカ賠償委員会ハ貸借対照表中ニ計上スルヲ得ズ從テ後日確定ノ金額ハ一般賠償資源トナリ我方ニ取り現金吐出ノ非常ナル不利益ヲ見ルノ結果ヲ生ズ

(D) 故ニ今日ニ於テハ少クモ賠償委員会ニ於ケル仮見積ニ對シテハ本邦ヨリ異議ヲ云フベキ筋合ニアラズ

要スルニ賠償委員会分科規定ノ制定ニハ本邦参与ノ権無キト同時ニ又該規定ノ結果ニ付何等責任モ無シ又況ンヤ第五

ノ事情ニ照ラシ単ニ分科規定ニ對シ賠償委員会ニ抗議ヲ申入ルルコトハ最早断念スルヲ得策トス

第六、素ヨリ私有認定権ハ勿論評価ニ関スル権限問題ハ今尚充分熟慮ヲ要ス然レドモ「スパイ」協定ノ結果現金吐出ヲ免レ得ルノ地位ニ立チタル今日ニ於テハ山東鉄道鉦山ガ將來私有ト決セラレタル場合ニ於テモ第二四三条ニ落ツルモノト解釈スルコト實質上本邦ニ利益アリ若シ然ラザレハ現金吐出ノ義務ヲ免ルル特典ヲ失フノ結果ニ陥ラン既ニ第二四三条ニ落ツルモノトセバ仮評価ニ限ラズ第三末段ノ如ク in the judgement of the Reparation Commission ノ文句ニ依リ賠償委員会ガ容喙スルコトアルヲ覚悟セザルベカラズ

第七、今ヤ賠償委員会ハ「スパイ」協定実行ノ手段ヲ急ギツツアルコト往電第一四〇八号、第一四二八号、第一四八三号、第一四九九号、第一五三三三号所報ノ如シ然レバ早晚山東鉄道鉦山海底電信等直接本邦ニ利害關係アル問題ニ及ブベク仮令仮見積トハ云ヘ賠償委員会ハ貸借対照表ノ作成上出来得ル文ノ材料ノ提示ヲ帝國政府ニ照会シ来タルモノト覚悟スルヲ要ス然レバ此ノ際少クモ賠償委員会ノ仮見積

ニ対スル帝國ノ態度ヲ決シ置クベキハ差シ掛リタル急務ト認メラルルニ付若シ照会アリタル場合ニハ如何ナル範圍ノ説明ヲ為スベキヤ又如何ナル材料ノ提示ヲ為スベキヤ至急御決定ノ上御訓電ヲ請フ

第八、又是ト同時ニ私有認定ハ勿論評価ニ関スル権限ノ問題ニ付テモ更ニ此ノ際今一度御考慮ヲ要セザルヤ即チ吾ニ於テ進ンデ権限問題ニ付賠償委員会ハ聯合諸國ト争ヲ開始スベキヤ否ヤ寧ロ正面ヨリ本問題ニ触ルルヲ避ケ実行上ニ於テ最モ有利ナル解決ノ方法ヲ講ズルコト便利ナラズヤ換言スレバ帝國政府ニ於テ山東鉄道鉅山等ノ評価ニ付主動的態度ニ出デラレ若シ独逸ニ於テ私有タルコトヲ主張スルニ於テハ其ノ根拠並証拠ヲ帝國政府ニ提出スル様促ス等外交手段ヲ用ヒ其ノ結果ハ追テ是ヲ賠償委員会ニ通知スルノ準備ヲ取ラルルコト得策ニハアラザルカ御考究ヲ煩ハシタシ

七三八 十月二十三日 在英國林大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

武府財政専門家會議及寿府代表者會議ノ開催

期日決定次第我方ニ通知スベキ旨クロー次官

回答ノ件

(一) 対独条約第八編附属書第一ニ列挙セル種目ニ該当スル損害ノ評価ヲ速ニ賠償委員会ニ提出アリタシ

右ハ出来得ル丈統計上ノ根拠ニ基キテ評価セラレタク又其ノ数字ハ更ニ詳細ニ調査スルモ減少シ得サルヘキ最少限度ノモノタルヘキコト

(二) 次ニ該当スル損害種目ノ評価ハ遅クモ本年十一月一日迄ニ提出セラレタキコト

A、戦争ノ犠牲トナリタル陸海軍軍人及其ノ被扶養者ニ対スル恩給及補償金

B、動員セラレタル者ノ家族及被扶養者ニ対スル給与金

C、海上損害ヲ除ク外ノ財産損害

D、海上損害

右ノ評価ニハ其ノ損害ノ性質ノ許ス限リ数量及単価ヲ示シ若シ単価ハ期限内ニ決定スルコト能ハサル場合ト雖モ数量丈ハ完全ニ示スヘキコト

第二、本邦損害計數ニ関シテハ「スパー」會議前住電第一〇七八号及第一〇七九号所報ノ如ク各国ノ例ニ倣ヒ賠償委員会議長及英國委員ニ示シタル關係アリ又数次御訓電ニ接シ居ル而已ナラズ第一(一)ニ就テハ余日モ無キコトトテ此ノ

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七三九

第九一二号 (十月二十五日接受)

二十二日次官「クロー」ニ会见シ賠償問題ニ関シテ愈々(一)ブラッセルニ於テ財政専門家會議(賠償委員会ニ代表者ヲ有スル諸國ハ其代表者ヲ財政専門家ノ資格ニテ出席セシム)及(二)「ゼネヴァ」ニ於テ各国代表者會議(賠償委員以外)ヲ開催スルコトナリタル模様ナルガ之等両會議ハ其性質上及從來ノ行懸リニ鑑ミ当然日本モ代表セラルベキモノナルニ付テハ開催期日決定次第通知ヲ請ヒタキ旨申入レタル処「クロー」ハ本件ハ目下猶交渉中ナルモ確定次第早速御通知ヲ怠ラザルベシト答ヘタリ

在仏伊各大使ニ転電セリ

七三九 十月二十五日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償委員会ヨリ我國ノ損害額ノ評価提出ヲ要

請越ノ件

第一六三九号 (十月二十八日接受)

賠償第七二号

第一、損害額評価ニ関シ十月九日賠償委員会議長ヨリ大要左ノ書面ヲ接手ス

際ハ大要囊ニ提示ノ計數ヲ基本トシ各国ノ様子ヲ見極メタル上提示スル見込ナルニ付御含ミヲ請フ

第三、尤モ往電第一〇七八号第二ノ如ク曩ニ充分留保シ置ケル次第モ有之計數ノ訂正追加ハ毫モ妨ナキヲ以テ之ヲ必要トセラレタルニ於テハ至急御訓電ヲ請フ又今回ノ提示ニ際シテモ以上ノ留保ハ之ヲ為シ置ク見込ナリ

第四、今回ノ損害評価ノ目的ハ主トシテ現下問題トナリ居ル独逸トノ賠償総額交渉(往電第一五八二号及在英大使宛大臣宛第八七六号参照)ニ資スルニアリ右交渉ニ就テハ既報ノ如ク英仏間態度ヲ異ニシテ未タ終局ノ一致ヲ見ルマテニ至ラサルモ賠償委員会カ何等カノ形ニ於テ關係スルコトトナルヘキ以上及他面ニ於テハ自己ノ権限ニ屬ストノ体面上ヨリ斯クノ如ク期日ヲ指定シテ問合セラ発セルモノト観測セラル

第五、賠償委員会ハ右各国ニ対スル問合ノ決議ト同時ニ英國ニ対シ前記第一(一)D、仏國ニ対シA及C、伊國ニ対シB、白國ニ対シ工業損害(但シ仏國ト協同シ)ノ評価及評価方法ノ明細書ヲ同シク十一月一日迄ニ賠償委員会ニ提出セムコトヲ求メ賠償委員会ハ右四國ノ採用セル方法ヲ審査シテ

合理的ナリト認ムル範圍ニ於テ他ノ諸國ノ同一種目ニ準用スルコトヲ決議セリ然レハ英仏間一致点ニ到達シ賠償委員  
会以外ニ於テ賠償ニ関スル根本問題ヲ解決スル國際會議即  
チ「スパイ」會議ノ延長ノ如キモノ開催セラルルニ至ラバ  
本邦ニ取り好都合ナルヘキモ仏國一部ノ輿論ノ如ク賠償総  
額ノ決定其ノ他ノ問題ヲ賠償委員会ノ仕事トスルニ於テハ  
本邦ノ採リタル標準ヲ認メシムルコトニ付困難ヲ増スノミ  
ナラス本邦全体ノ立場ニ至大ノ關係ヲ及ホスヘキニ付特ニ  
注意スルノ要ヲ認メ居ル次第ナリ  
在英大使及在独大使へ転電セリ

七四〇 十月二十八日 在独國出淵臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸ノ賠償義務不履行ノ場合英國政府ハ独逸

國民ノ英國内財産差押ノ権利ヲ行使セザル旨

独逸ニ通告ノ件

第二三八号 (十月三十日接受)

独逸政府ハ二十七日 Wolf 通信ヲ以テ十月十六日英國政府  
ヨリ独逸ガ条約賠償編ノ義務ヲ故意ニ履行セザル場合ニ同  
政府ガ条約賠償編第二附属書十八ニ基キテ有スル独逸國民

ノ英國内ニ於ケル財産ヲ差押フルノ権利ヲ行使セザルコト  
ヲ声明シ且此權利放棄ハ銀行保管財産タルト英國船中ニア  
ル貨物タルト売却ノ目的ヲ以テ英國ニ輸送セラレタル貨物  
タルトヲ問はず英國又ハ英國ノ権力内ニ在ル独逸ノ財産一  
切ヲ包含スルモノナル旨通告ニ接シタル趣ヲ發表シタルガ  
一般輿論ハ右通告ガ勿論戰時中ニ差押ヘタル財産ノ清算ヲ  
放棄スル意味ニ非ズシテ只将来差押ヲナサズト云フニ止ル  
モノニ依テ独逸人ハ今後安ンジテ英國ト取引ヲ為シ得ベシ  
トテ英國政府ノ此緩和態度ニ對シ満足ノ意ヲ表シツツアリ  
各大使へ転電セリ

七四一 十月二十八日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸ノ賠償義務不履行ノ場合ニ對スル英國ノ

態度ニ關シ英國ヨリ仏國ニ通告ノ件

第一六五九号

(十月三十日接受)

對独平和条約第八編第一款第二附属書拾八ノ規定ヲ適用ス  
ル意向無キ旨英國政府ヨリ独逸ニ通告シタル旨二拾一日附  
Board of Trade Journal ヲ以テ公表セラレ右決定ハ二拾  
五日附ニテ仏國政府へ通告セラレタリ

本件ハ仏國側ガ最モ力ヲ入レタル賠償問題並条約不履行ノ  
場合独逸ニ對シテ取ルベキ報復手段ニ触ルル問題ナル為メ  
仏國ノ輿論ハ英國ノ自由行動ニ對シ不満ノ声ヲ洩ラシ居レ  
リ二拾八日「タン」ハ本件ニ付左ノ述述ベタリ

(A)英國政府ノ今回ノ措置ハ吾人ニ不安ヲ感ゼシムル心理情  
態ヲ反映セルモノナリ而シテ是ガ影響ハ想像外ニ大ナルモ  
ノアラン從來ノ經驗ニ依レバ斯ノ如キ行為ハ却テ独逸ヲシ  
テ条約不履行ヲ敢テセシムル結果トナルベキハ疑無シ

(B)英國政府ノ説明ニ依レバ英國政府ハ一ニ独逸人ノ財産ニ  
保障ヲ与ヘテ自國人トノ商取引ヲ安全ナラシムル考ヨリ前  
記ノ決定ヲ為シタルモノナリト云ヘリ其ノ結果ハ他ノ聯合  
國モ亦英國ト同様ノ措置ニ出デザルベカラザルニ至ルベシ  
何トナレバ英國ノミ右規定ノ適用ヲ放棄スル場合ニハ独逸  
トノ商業ハ自然英國ニ奪ハルル結果トナルベク一面ニハ英  
國政府ハ苟クモ自國ノ商業及航海ノ利益ノ為メニハ他ノ同  
盟國ノ經濟的利益如何ニ拘ラズ任意ニ「ヴェルサイユ」条  
約ノ許与スル權利ヲ放棄シ得ベキヤ否ヤノ問題ヲモ生ズベ  
シ

(C)英國政府ガ其ノ議會ノ協賛ヲ經タル条約ノ權利ヲ議會ニ

一〇 對独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七四二

諮ラズ放棄シタル事ノ可否ハ内政問題ニシテ吾人ノ関スル  
処ニアラザルモ条約ノ実施ニ付テハ各國協議ノ上同一態度  
ニ出ヅル為メ現ニ大使會議ヲ開キテ隔意無キ討議ヲ為シツ  
ツアル際英國政府ノ自由行動ハ仏國ノ遺憾トスル処ニシテ  
延テ目下独逸ニ行ハレツツアル平和条約改定運動ニ一層氣  
勢ヲ添フル結果トナルベキヲ恐ル云々

英独へ転電セリ

七四二 十月三十日 内田外務大臣ヨリ  
在仏國石井大使宛(電報)

賠償委員会ヨリノ我國損害額ノ評価提出方要

請ニ對スル措置ニ付回訓ノ件

第八三七号

貴電第一六三九号ニ関シ

一、賠償額分配ニ関スル聯合國間ノ配当率ハ「スパイ」會  
議ニ於テ確定シ且ツ賠償委員会ハ既ニ「スパイ」會議ノ決  
定ヲ承認セル以上本回ノ調査ニ依リ更ニ之ヲ變更スルノ趣  
意ニアラザルヘク又帝國政府ニ於テハ今更之ヲ變更スルコ  
トニ同意ヲ表シ難キ次第ナル処本回調査ハ此ノ如キ事項ニ  
關シテモ調査ヲ為スモノナリヤ承知致度シ

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七四三

二、損害種目ニ関シテハ從來帝國政府ニ於テ着々其ノ歩ヲ進メツツアリタル際「スパー」會議ニ於テ達觀論ヨリ聯合國間ノ配当率等ヲ協定シタル結果細目ノ調査ハ必ずシモ其要ナキニ至レルノミナラズ貴電第一〇八六号及珍田大使(來電)第六九三号ニ依リ右ノ趣意一層明確トナリタルヲ以テ細目ノ調査及之ニ関スル証拠書類等ノ作製ハ左マデ急ヲ要セザルモノト認メ居リタリ從ツテ今回ノ賠償委員會ノ要求ニ對シテハ直チニ詳細ナル事項ヲ通知スルコトハ帝國政府トシテハ事實上困難トスル所ナリ

更ニ御來電ノ趣旨等ニ依レハ今回賠償委員ノ行動ハ一種ノ政策上ヨリ出デタルモノト見ルヲ得ベキガ如ク從來賠償問題ハ主トシテ賠償委員會以外ノ會議ニ於テ審議セラレ然モ今日英仏兩國政府ノ意見モ未ダ一致ヲ見ザルニ當リ賠償委員會ガ突然短期日ヲ限リテ賠償ノ細目調査ヲ各國ニ要求セルガ如キハ頗ル妥當ヲ欠クモノト云フベク英國其他ノ諸國ニ於テ果シテ期日内ニ調査事項ヲ提出スルヤ否ヤハ疑問ノ余地ナキニアラズ

三、依テ我方ニ於テハ御來示ノ通り他國ノ態度如何ヲ見極メタル上調査ヲ提出スルコトニ致シ度尚提出ニ當リテハ左  
續キトシテ來ル「ブラッセル」財政聯合會議ニ帝國政府ヨリモ其專門家ヲ出席セシメ度キ旨ノ電報ニ接シタルニ付念ノ為メ更ニ仏國政府ノ快諾ヲ需ムル旨ヲ述ベタル処「ベ」氏ハ右會議ニ日本專門家ノ出席スルコトニ何等異議アルベキ筈ナケレドモ念ノ為メ賠償委員長「ガバイユ」氏ニ移牒ノ上公然ノ回答ヲ送ルベシト約シ更ニ本使ノ問ニ對シ同會參列者ハ英、仏、伊、白及米ヨリ二名宛ノ答ナリト説明シ日本ヨリモ二名ヲ參列セシムル御希望ナリヤト尋ネタルニ付然リト答ヘ置キタリ  
在米大使へ転電セリ  
在白公使へ転電セリ

七四四 十一月六日 内田外務大臣ヨリ  
在英國林大使宛(電報)

山東鐵道及鈺山ニ付独逸國民ノ有スル利益ノ  
評価ニ関スル賠償委員會ノ態度ニ對シ我方ノ  
措置振回訓ノ件

附記一 大正八年七月十七日在仏國松井大使宛内田外務大臣宛電報講第一六五八号

二 大正九年七月二十三日内田外務大臣宛松井大使宛電報講第一六五八号

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七四四

九六六

ノ趣意ヲ以テ措置セラレ度シ  
(イ)必要ニ応シ帝國政府ハ「スパー」會議ニ於テ決定セル各國ノ配当率其他賠償ニ関スル原則ヲ變更セザルコトヲ條件トシテ提出スルモノナルコトヲ明ニシ置クコト  
(ロ)前記二、ノ事情ニ依リ此際短期日内ニ詳細ナル事項ヲ提示スルコトハ不可能ナルコトヲ述ヘ将来ニ於ケル計數ノ訂正追加ヲ留保セラルルコト  
四、本件ニ関スル賠償委員會議長ヨリノ通知ハ十月九日ニシテ当方宛御發電ハ十月二十五日ナル処右發電遅延ノ理由如何

本電在英大使及在独代理大使ニ転電アリ度シ  
註 七月二日松井大使宛第一〇八六号省略セリ

七四三 十一月五日 在仏國石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

武府財政專門家會議ニ日本ノ專門家列席方ニ  
關シベルトロイ氏ト會談ノ件  
第一六九六号 (十一月七日接受)

貴電第八〇七号ニ関シ  
去ル二日「ベルトロー」氏ニ面會往電第一五八二号談話ノ

使宛電報第五三三号  
三 大正八年六月二十四日松井大使宛内田外務大臣宛電報講第一四三九号

第四九七号  
貴電第九一〇号(賠案第七〇号)ニ関シ

(一)在仏大使來電第一〇二〇号(賠案第四八号)ハ委員會内部ノ組織ヲ規定シ凡ユル場合ヲ予想セル準備ノ調査ヲ為サムトスルニ過キザルコト御來示ノ通ナリトスルモ元來山東鐵道及鈺山ハ独逸ヨリ反証ヲ提出シ其ノ私有タルコトニ審決セラレザル限り公有財産ト認メラレ居ル次第ナルヲ以テ此際委員會ガ進ムテ同鐵道及鈺山カ私有タル場合ヲ仮想スルガ如キ措ヲ講ゼムトスルニ對シテハ我方トシテ之ヲ不問ニ付シ難キ儀ナルニ付委員會ガ此際本問題ヲ考量スルノ謂ハレ無キ所以ヲ力説シテ差當リ本問題ニ触レシメザル様措置方在仏大使宛往電第五一〇号ヲ以テ訓令ニ及ヒタル次第ナリ

(二)貴電ニ拠レバ公私有審定權ノ所在モ明確ナラズトノ御意見ナルガ如キモ客年在仏松井大使宛來電講第一六五八号ニ(註一)  
拠レハ山東鐵道問題ニ付反証ヲ提出シ來リタルトキハ日本

九六七

カ之ヲ受領審査スヘキモノナリトノ了解アル趣ニテ審査機  
関ニ関スル明文ナシトスルモ、勘クトモ賠償委員会ガ其ノ權  
限ヲ右公私有問題ノ審査ニ及ホスコトハ何等抛ルヘキ明文  
ナキノミナラズ前記巴里ニ於ケル了解ニ反スルモノト謂ハ  
ザルベカラズ只價格評定權ニ関シテハ右審定權ノ如キ了解  
アリタルヲ聞カザルモ已ニ審定權アル以上当然之ニ附帶ス  
ヘキ評價權モ亦我方ニ存スト主張シ得ザルニ非ザルノミナ  
ラズ一方御來示ノ通り山東問題ガ特別条項ナルノ事情ヲ指  
摘シ、鐵道鈺山ノ公私有認定及評價權ヲ第二四三条(C)ニ依リ  
当然賠償委員会ノ任務ナリトスル解釈ヲ拒斥スルコト必ズ  
シモ不当ニ非ズト思考セラル

(三)「スパー」協定當時ニ於ケル経緯モ左ルコト乍ラ右協定  
ハ素ヨリ我方ニ於テ認定ハ勿論評價ノ權限ヲ賠償委員会ニ  
付与シタルモノニハ非ズ賠償委員会ノ權能ガ単ニ價格ノ評  
定ニ在ルハ在仏大使來電第一五三三三号(賠実第六六号)ニ  
依テモ明白ナルノミナラズ万一独逸ヨリ反証ヲ提出シ來ル  
トスルモ右ノ場合ニ於ケル鐵道及鈺山財産評價ノ方法ニ就  
テハ之ヲ適用スヘキ条文如何ニ依リ或ハ自ラ相違ヲ来スベ  
ク即チ若シ經濟条項ヲ準用スヘシトノ主張ニシテ認容セラ

財産タルコト確實ニ立証セラレタル場合ニハ我軍押収當時  
ニ於ケル價值ヲ標準トシ約三千万円ト評定シ差支無キ内意  
ナルモ尚此際右價格ノ評定ニ関シ精査ヲ遂ケ私有タルコト  
証明セラレタル場合ニ於ケル準備ヲ整ヘ置ク所存ニ付右併  
セテ御含置アリタシ  
在仏大使ヘ可然転電アリタシ

註一 左掲附記一  
2 左掲附記二

(附記一)

大正八年七月十七日在仏國松井大使宛内田外務大臣宛電報講第  
一六五八号

講第一六五八号

(七月二十日接受)

貴電講第五四二号ニ関シ

山東鐵道鈺山公私有認定方法ニ付テハ山東問題ニ関スル条  
約中ニハ何等規定セズ又別ニ右ニ関スル審査機關ヲ定ムル  
コト無シ從テ日独間ニ解決セラレ可キ問題タリ独逸對案回  
答中ニ聯合國ノ名ニ於テ反對証提提供セバ云々トアルモ右  
ハ審査委員会ニ於テモ我方ヨリ念ヲ押シ日本ガ之ヲ受領審  
査スルノ意ニテ日本ヨリノ回答ナルモ尚聯合國全体ノ回答  
トシテ發送シタルニ過ギザルコトノ了解アリ只賠償ヲ要ス

ルルニ於テハ價格評定權所在ノ問題ハ自ラ消滅スルコトト  
ナルベシ要スルニ當方ニ於テハ未ダ独逸ヨリ何等申出無キ  
ニ拘ラズ賠償委員会カ進ムデ私有タル場合ヲ予見セル措置  
ヲ進ムルガ如キハ成ルヘク之ヲ避ケシムルコト得策ト思考  
スル次第ナリ

(四)上述ノ通ナルニ付テハ此際在仏大使宛往電第五一〇号ニ  
依リ賠償委員会ニ抗議ヲ提出スルカ如キハ已ニ時機ヲ逸シ  
タルニ付之ヲ見合スモ差支無キモ万一委員会ヨリ貸借對照  
表ノ作成上參考資料ノ提示ヲ照会シ來リタル場合ニハ独逸  
ヨリ何等反証ヲ提出シ來ラザルニ先チ進ムテ私有財産タル  
コトヲ前提トスル本件補償問題ヲ考慮スルニ便ナラズ若シ  
独逸ヨリ確實ニ私有タルコト立証セラレタル場合ニハ我方  
ニ於テハ遲滞無ク平和条約ノ規定ニ照シ公正ニ價格評定等  
必要ノ措置ヲ採ルベク少クトモ本件ノ性質上之カ決定ニ関  
シテハ日本委員ノ参加ヲ求メラレタク何レニセヨ「スパー」  
會議協定期限即チ明年五月一日迄ニハ何等カノ進展ヲ期  
待シ得ヘシト思考セラルルニ付委員會ニ於ケル本件ノ最終  
確定ハ姑ク延期セラレ度旨可然回答シ置カルル様致度シ

(五)尚在仏大使宛往電第五三三三三号ニテ申進シタル通愈ミ私有

ル場合ニ第二六〇条ノ適用トシテ賠償委員会ニ於テ取扱フ  
様成行ク場合ニハ日本ハ必要ニ応シ山東鐵道ノ特別ナル地  
位及關係ニ基キ特別ノ取扱ヲ主張スルカ又ハ他ノ委員ト協  
議スルカ何レニテモ必ズ日本カ主タル發言權ヲ有シ且我方  
國人損害賠償其他ニ付支払未了ナルニ我ノミ山東鐵道ニ関  
スル賠償ヲ賠償委員会ニ提供スル様ノ妙ナル立場ニ陥ルヲ  
防ク為往電第一四三三九号ノ通り山東鐵道問題賠償委員会ノ  
議ニ上ル時ハ必ズ日本委員出席ノ件ニ付實質ヲ取り置キタ  
ル次第ナリ右ノ成行ナルニ付貴電中御質問ノ点(一)(二)ニ付  
テハ玆ニ明答シ得ズ總テ未定ノ儘ナリト御承知置キテ請フ  
而シテ近來仏國人ニシテ山東鐵道株券ヲ有スルモノ大分有  
之又中立國人ニ売渡シタルモノモ可有之右ニ對スル処置ニ  
付テモ考究ヲ要スルコトト存ゼラル何レ牧野男婦朝ノ上協  
議致ス可キモ公私有ノ決定期間方法及其ノ賠償額ニ付テハ  
一切未定ノ儘ナルニ付其ノ積リニテ帝國政府ニ於テモ之カ  
決定ニ付御考究ヲ煩ハシ度シ殊ニ株券等カ大分独逸國外ニ  
出デ居ルコトヲ考量ニ加ヘラレ度シ將又条約全体ニ亙リ各  
國各別ノ見解ニテ提案セルモノヲ妥協折衷シテ挿入シ協議  
決定セルモノナルヲ以テ不完全ナル点多ク解釈ニ付テモ既

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七四四

ニ各方面ニ議論アル位ナリ独リ山東問題ノミニ付不明ナルニ非ザルコトヲ御含置キアリ度シ

註 左掲附記三

(附記一)

大正九年七月二十三日内田外務大臣発在仏国松井大使宛電報第五三三三号

第五三三三号

在英大使発來電第五三三九号中(ニ)ニ関シ元來山東鐵道及鉦山ハ独逸ヨリ反証ヲ提出シ私有タルコトニ審査セラレザル限リ公有財産ト認メラレ居レル次第ニ付此際日本ヨリ進デ右鐵道及鉦山カ私有タル場合ヲ仮定スルガ如キ施措ハ可成之ヲ避クルコト得策ト認メラレ且又右ノ通り万一独逸ヨリ反証ヲ提出シ來リタル時ハ其ノ反証ノ如何ニヨリ又此ノ場合ニハ第二百六十条ヲ適用スヘキヤ或ハ二百九十七条(b)ヲ適用スルヤ等ノ決定如何ニヨリ鐵道及鉦山財産評価ノ方法モ自然相違シ來ル筋合ニ付此際直ニ本件金額ヲ予斷シ難キ次第ナレバ他国側ヨリ本件ニ付申出アリタルトキハ右ノ趣旨ニテ応酬セラルル様致度唯貴官御含迄申添ユル次第ナルガ万一山東鐵道及鉦山カ全部私有財産タルコト証明セラレタル場合ニハ我日本軍ノ押収當時ニ現存セシ状態ニ於テ有セ

九七〇

シ価値ヲ標準トシ大体參千万円位ハ之ヲ支弁シ差支ナキ内意ナリ尤モ右金額ハ議定書第二ニ記載セラレ居ル独逸人ニ對スル補償ヲ含ムハ勿論其ノ他聯合國人竝中立國人ノ手ニ移レル同鐵道会社株券ニ基テ請求權等ノ如キモ包含セシムル趣旨ナリ(牧野男ニ交付セル講和ニ関スル方針第四頁及講和準備調査附屬參考調書上卷第八四頁参照)

在英大使へ転電アリタシ

(附記三)

大正八年六月二十四日在仏国松井大使発内田外務大臣宛電報講

第一四三三九号

講第一四三三九号 (六月二十八日接受)

往電講第一四〇九号所報二十一日午後首相會議(牧野全權出席)ニ於テ山東省鐵道並鉦山ニ関スル對独回答案ニ就キ討議ノ際若シ將來賠償委員會ニ於テ本問題ノ議題ニ上ルコトアラハ其ノ都度必ズ日本政府代表者出席ヲ求メラルベキ旨ノ言質ヲ得タルガ右ニ関シ二十三日附ヲ以テ講和會議書記局ヨリ公然其ノ通知ト共ニ右ノ旨賠償委員會委員長(仏国大藏大臣)へ通告済ノ趣通牒シ來レリ委細ハ別電首相會議書記官 Sir Maurice Hankey ヨリ會議書記官長 Dutasta 氏宛書面写(当方へモ送付シ來ル)ニテ御承知アリタシ

第一七四八号

(十一月十八日接受)

賠實第七九号

賠償總額決定ニ関スル独逸側トノ會議ハ曩ニ報告ノ次第モアリタルガ愈英仏間ニ於テ一応別電第一七四九号ノ通決定セリ右ハ仏国外務省ニ就キ相違ナキヲ確メタル上不取敢報告ス英独へ転電シ在「ゼネヴァ」聯盟總會日本代表へ転電セリ

(別電)

十一月十六日在仏国松井大使発内田外務大臣宛電報第

一七四九号

独逸賠償總額等決定ノ手順ニ関スル英仏間協定

第一七四九号

Son Excellence Lord Derby a bien voulu remettre

le 5 Novembre 1920 la réponse du Gouvernement anglais à la note française du 20 Octobre. Le président du conseil apprécie hautement l'esprit d'entente dans lequel le Gouvernement britannique se rallie d'une manière générale à la procédure proposée par le Gouvernement français. Les différents stades de l'examen de la question des réparations seront dès lors les suivants.

七四五 十一月十一日

在仏国石井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ関スル武府會議ニ我方専門家出席

ニ仏側ハ異議無キ旨ベルトロイ氏回答ノ件

第一七三四号

(十一月十三日接受)

往電第一六九六号ニ関シ本使「ゼネヴァ」出張ニ付十日再ビ「ベルトロイ」氏ニ面会シ本件ニ談及シタル処未ダ英仏間ニ公然文書ノ交換ヲナス運ビニ到ラザルモ仏国政府ノ関スル限リハ日本ヨリ二名ノ専門家ヲ出サルルニ何等ノ異議無ク又右二名ハ賠償委員等ヨリ選バルルモ其以外ノモノヨリ選バルルモ差支無キ旨ヲ答ヘタリ

在歐米各大使及在白公使へ転電セリ

七四六 十一月十六日

在仏国松井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸ノ賠償總額其支払方法等決定ノ手順ニ関

シ英仏間協定成立ノ件

別電 同日在仏国松井臨時代理大使発内田外務大臣宛

電報第一七四九号

右英仏間協定

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七四五 七四六

1° Réunion à Bruxelles "d'experts" techniques alliés siégeant avec les experts allemands.

Les experts feront leur rapport à leurs Gouvernements respectifs et le procès-verbal de leur réunion sera communiqué à la Commission des réparations.

2° Une conférence des "ministres" se réunira à Genève après le plébiscite de Haute-Silésie mais au plus tard dans la première quinzaine de février pour discuter dans son ensemble la question des réparations, montant total de la dette, examen de la capacité de paiement de l'Allemagne etc.

Les représentants du Gouvernement allemand participeront à cette conférence à titre consultatif comme à Spa.

Les membres de la conférence de Genève feront leur rapport à leurs Gouvernements respectifs et chacun de ces Gouvernements informera son représentant à la Commission des réparations des conclusions auxquelles il sera arrivé quant au rapport de ses représentants à

la conférence de Genève.

3° La Commission des réparations procédera alors conformément aux termes du Traité de Versailles à la fixation du montant total et des modalités de paiement des sommes dues par l'Allemagne et fera aux Puissances son rapport sur la capacité de paiement de l'Allemagne.

4° Réunion du "Conseil" suprême pour examiner toutes mesures ultérieures à prendre, gages et sanctions inclusivement.

Matsuda

七四七 十一月十七日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

山東鉄道鈦山ニ関シ日本政府ノ借方ニ記入スベキ金額決定ノ問題ニ付賠償委員会法律部ヨリ我方ノ法律的意见ヲ照会越ノ件

第一七五一号 (十一月十九日接受)

賠償第八〇号

第一、賠償委員会財政部ガ賠償勘定貸借対照表ノ作製ヲ急ギツアル事(註)ニ付賠償委員会法律部ニ対シ意見ヲ提出セシムベキ見込ナリ

求メタリ

第三、山東鉄道鈦山価格評価ニ対スル本邦ノ態度ニ就イテハ在英大使宛第四九七号御訓示ノ次第アリタルガ前記財政部ノ文書等ニハ承認スベカラザル点多キヲ以テ熟議ヲ遂グル(脱)ニ出張スベキ関係ヲシテ篤ト林、石井両大使ト談合セシメタル上賠償委員会法律部ニ対シ意見ヲ提出セシムベキ見込ナリ

英、独及「ジュネーブ」ニ転電セリ  
註 賠償第七十号ハ前掲十月二十三日在英園林大使宛内田外務大臣宛電報第九一〇号(七三七文書)ナリ

七四八 十一月十八日 在仏国松田臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸賠償金ニ関スル英仏間協定ニ賛同方及武府會議ニ日本代表任命方仏国側ヨリ申越ノ件

第一七五三号 (十一月二十日接受)

賠償第八一号

往電第一七四九号(賠償第七九号)独逸賠償金支払方法ニ関スル英仏協定ニ付本月十四日附ヲ以テ(十六日接到)仏国外務大臣ヨリ賛同方並ニ「ブラッセル」會議ニ帝國ヲ代

表スベキ専門委員至急任命方照会アリタリ就テハ右賛同可然ト認メラルルニ付至急何分ノ御回訓アリタシ尚右専門委員ニ関シ本官外務次官往訪確メタル処各国二名ヲ出スベク且其ノ委員ハ賠償委員会中ヨリ又ハ其ノ他ヨリ選任スルコト自由ナルコト往電第一七三四号ノ通りナリ將又右仏國専門委員任命ノ振合ヲ尋ネタルニ「ブラッセル」會議開會日取り未ダ決定セザル今日何人ヲ任命スルヤ全ク不明ナリト答ヘタリ

在英独各大使及聯盟總會代表へ転電セリ

七四九 十一月二十二日

内田外務大臣ヨリ

在仏國松田臨時代理大使宛(電報)

山東鉄道及鉱山ニ関スル賠償委員会ノ態度不

当ナル所以ニ付同委員会ノ了解ヲ求メ置カレ

度旨回訓ノ件

第八九一号

貴電第一七五一号(賠実第八〇号)ニ関シ財政部ノ態度ニ承服シ難キ点アルハ在英大使宛往電第四九七号ニテ大体御了解ノコトナルベキモ元來賠償委員会ガ其ノ権限ヲ山東鉄道公私有問題審定ニ迄及ボサムトスルガ如キ举措ニ出ヅル

家側ヨリ英國政府ガ自發的ニ此ノ好意ヲ示シタルコトヲ暗示シ此際日本ヨリ右ノ通告ヲ得タキ意嚮ヲ洩シタリ此種事項ニ関シテハ我方ニ於テモ寛大ノ措置ニ出ヅルコト諸般ノ關係上得策ナルベク從テ適當ノ時期ニ於テ英國政府同様独逸側へ通告ヲナスコト然ルベシト存ゼラルルニ付テハ右御詮議ノ上何分ノ儀御電訓ヲ請フ  
在欧米各大使へ郵送セリ

七五一 十一月二十九日

在ジュネーブ聯盟總會代表ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

山東鉄道及鉱山ニ於ケル私有利益評價問題ニ

付賠償委員会法律部ヨリ我方へノ問合ニ対ス

ル回答振ニ付稟申ノ件

第六五号

(十一月三日接受)

賠実第八二号

仏發往電第一七五一号ニ関シ仏宛貴電第八九一号御回答ノ如

第一、賠償委員会法律部ニ於テ今回審議セントスル第一点ハ既報ノ如ク独逸ノ貸方ニ記入スベキ金額ハ議定書第二項ニ規定アレドモ之ニ対応スベキ日本ノ借方ニ記入スベキ金

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七五一

ノ不当ナルハ往電第三八七号其ノ他ノ往電ニテ申進シタル通ナルノミナラズ假令独逸ヨリ私有タルコトヲ立証シ来リ我方ニ於テ之ヲ承認スルコトアリトスルモ賠償ノ金額方法等ニ至テハ山東鉄道会社ナル法人ヲ相手トスヘキヤ或ハ株主ヲ対象トスヘキヤハ篤ト攻究ヲ要スル問題タルベキハ是亦往電第二九八号ヲ以テ申進シタル通ナリ就テハ法律部ニ対スル意見表示ニ當ッテハ右等ノ点ヲモ酌量セラルル様致度ク尚ホ兎ニ角未ダ独逸ヨリ何等反証ノ提言無キニ拘ラズ賠償委員会ニ於テ本問題ノ進議ヲ計ラムトスルノ不当ナルコトニ就キ此ノ際篤ト委員会ノ了解ヲ求メ置クコト必要ト思考ス

七五〇 十一月二十四日

在獨國出淵臨時代理大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

独逸ノ賠償義務不履行ノ場合ニ関スル英國政

府ノ措置ニ倣ヒ可然旨稟申及請訓ノ件

第二五七号

(十一月二十八日接受)

往電第二三八号所報ノ英國政府ガ对独議和条約第八編第二附屬書第十八規定ノ權利ヲ放棄シタル旨ノ通告ハ当國一般ニ英國ニ対シ尠カラズ好影響ヲ与ヘタル処外務当局及実業

額ハ何等条約ニ明文ナシ仍テ此点ニ関シ法律的意见ヲ求ムトテ問題ヲ貸借計算上ノ形ヲ以テセルガ故ニ私有鑑定及評價ノ権限問題ハ直接表面ニ現ハレ居ラザル次第ナルニ依リ此際ニ於ケル法律部ニ対スル回答トシテハ之等問題ニ触ルルコト無ク単ニ在英大使宛第四九七号四御垂示ノ趣旨ニ基キ

一、議定書第二項ハ聯合國ノ独逸ニ対スル回答第四編第五條ノ結果ナルコト從ッテ独逸ヨリ私有タルノ反証ヲ拵ゲ来レル場合ニ於テ始メテ問題トナルモノナルコト  
二、独逸ガ此反証ヲ拵ゲ来レル場合ニハ帝國ハ遲滞ナク最公平ニ審査シ議定書ノ規定ヲ履行スルニ吝ナラザルコト  
三、故ニ其レ迄ノ間ニ於テ帝國ハ貸記若クハ借記ノ問題ヲ考慮スルノ地位ニ在ラザルコト  
四、何レニセヨ本件問題トナル場合ニハ日本委員出席要求ノコト

ヲ骨子トシ更ニ反証ノ提出アリタル場合ニ於テ審査ノ結果独逸ノ貸方ニ記入スルコトアルベキ金額ハ帝國ノ借方ニ記入スベキ金額ト同額ナルベキ管ナルヲ以テ財政部ニ於テハ單ニ帝國ニ借記スルコトアル金額ノミナラズ独逸ノ貸方ニ

九七五

記入スベキヤ否ヤ及其金額ノ問題モ当然審査ノ結果ニ讓ルベキモノナルコトヲ敷衍セル意見ヲ提出セシムベキ筈

尚第二点支那ガ条約ニ調印セザル事実云々ニ付テハ山東鉄道鉱山ニ関スル國際ノ權利ハ平和条約ニ依リ本年一月十日以來適法ニ是ヲ取得保持シタルヲ以テ支那ノ調印ノ有無ハ何等此条約上既成ノ地位ニ關係スルモノニアラザルコトヲ説述セシムル筈

第二、賠償委員会ガ以上ノ意見ヲ採用シ貸記借記ノ問題ヲ延期スルヤ否ハ今後ノ成行ニ徴セザル可カラザル次第ナルガ既ニ英發第九一〇号(賠案第七〇号)稟請ノ通り帝國ニ於テモ本件ニ付テハ実行上ニ於テ最有利ナル解決方法ヲ講ゼラル可キコト便利ナル時機ニ到来セルニハアラザルカ英宛實電第四九七号四ニ依レバ「スパイ」議定ノ期限即チ明年五月一日迄ニハ何等カノ進展ヲ期待シ得可シトノ御垂示ナルモ明年五月一日ハ貸借対照表作製ノ最終期日ニシテ賠償委員会ガ右期日ニ作製ヲ了スルニハ其以前ニ於テ幾多ノ手續ヲ履マザル可カラズ從ツテ相当ノ日子ヲ要ス可キハ自明ノ理ナレバ當モナク徒ニ延期ヲ重ヌルハ貸借計算ノ時期ヲ違ハシメ終ニ大局ヲ利スル所以ニアラザル可キヲ恐ルル

現在ノ賠償委員会ニ對シテ遵由ノ効力ヲ生ズベキ性質ノモノナリヤヲ知ルニ非ザレバ単ニ賠償委員会ニ於ケル主張ハ何等ノ目的ヲ達セザルベシ

第四、將又英宛實電第四九七号三ニ依レバ經濟条項ヲ準用スベキ御主張ナルガ如ク見ユル処之又根拠ヲ明示セラレザルニ依リ判明セザルモ之ヲ主張スルニハ左ノ如キ困難ニ逢着ス

一、山東鉄道鉱山ニ付テハ條約第二九七条(b)ノ「讓リ受ケタル地域内」ナル解釈ヲ下スコト困難ナラズヤ

二、經濟条項ノ適用アルコトヲ認容スル結果ハ反ツテ支那ノ權力ガ優先ストノ議論ノ余地ヲ与フル羽目ニ陥ラザルカ殊ニ膠州灣地方租借地以外ニ存スル鉄道鉱山ニ付難問ヲ生ズル虞アリ

三、元來經濟条項ノ目的ハ戰前債務ノ相殺ニ資スルニアリテ其ノ残高ヲ生ジタルトキハ始めて賠償ニ充テラルルコトアル結果トナルニ過ギズ之ニ反シ議定書第二項ハ私有タルコト証明セラレタル場合ハ始ヨリ賠償ニ落ツル規定ニシテ其ノ精神ニ於テ一致セズ

四、經濟条項ニ依ル残高ハ場合ニ依リ直接ニ独逸ニ還付シ

ニ付遅クモ来年一月迄ニハ我方ノ態度ヲ決定通知スルノ要アリト思惟ス茲ニ重ネテ御考慮ヲ煩ハス次第ナリ

第三、英宛第四九七号二ニ依レバ在仏大使發講第一六五八号ニ依リ山東鉄道問題ニ付反証ヲ提出シ來リタル時ハ帝國ガ是ヲ受領審査ス可キモノナリトノ了解アル趣ナル処右ノ了解ヲ今日ニ於テモ立証スルニ足ル可キ關係文書至急御垂示ヲ請フ將又右ノ了解ハ條約ノ解釈權ヲ有スル現在ノ賠償委員会ニ對シテモ遵由ノ効果ヲ生ズ可キ手續ヲ取り置カレタルモノナルヤ心得ノ為承知シ置キ度シ

蓋シ山東鉄道鉱山ノ公私有認定權ノ所在ニ関シテハ右講第一六五八号以外當方ニ何等倚ルベキノ文書無シ而モ右電報ニハ確的ノ根拠ヲ示サズ凡ソ事條約ノ解釈及適用ニ亙リ居ルニ於テハ最モ公正ナル立場ニ於テ列國ヲ承認セシメ得ル底ノ理由ヲ具フルモノナルコトヲ要ス特ニ賠償委員会ハ広汎ナル解釈ノ權能ヲ有シ而モ平和條約ニ基ク日本ノ代表權頗ル(脱)現状ニ於テ適確ノ論拠無ク英宛實電第四九七号ノ二ノ如ク主張スルハ頗ル危険ナリト云ハザル可カラズ要スルニ確實ナル根拠ヲ示サルルニ於テハ我が賠償委員ニ於テモ元ヨリ之ヲ主張スベシ然レドモ其ノ所謂諒解ナルモノ

得ベキ場合アレドモ(但シ「スパイ」協定ニハ拘束セラルルモ)山東鉄道關係ニ付テハ右ノ自由ナク條約ノ規定ヨリ必ズ賠償勘定ニ入ルコト議定書ノ規定ナリ

五、更ニ實質上ノ利害問題トシテハ經濟条項ヲ適用スレバ其ノ價格ハ賠償委員会ニ払込ムコトトナル從ツテ「スパイ」協定ニ依リ白耳義ノ優先權ニ充當セラルベシ

右ノ如ク經濟条項ヲ適用スルニハ幾多ノ難問アルノミナラズ又自ラ進ンデ所謂現金吐出シノ不利益ヲ敢テスルコトトナルベク價格評定權所在ノ問題ヲ消滅セシムルノ利益ヲ以テ相償フニ足ルベキヤ御考慮ヲ煩ハス

第五、要スルニ山東鉄道評価權所在ノ問題ニ對スル御電示ノ議論モ然ルコトヲ倚ルベキ十分ノ根拠ナキガ如シ然ラバ英發第九一〇号(賠案第七〇号)條約第二四三条(c)ニ依リ賠償委員会ノ「ジャヂメント」ニ落ツルモノト覺悟スルノ外ナキニ非ズヤ尤モ英宛第四九七号ニ御垂示ノ諒解ニ関スル根拠及此ノ根拠ヨリ御垂示ノ如ク「当然之ニ附帶スベキ評価權モ亦我方ニ存ス」ト主張シ得ル材料アルニ於テハ自ラ別問題ナリ

第六、本件決定ニ関シテハR、Cニ本邦委員ノ参加ヲ求ム

ベシトノ御訓示ニ対シ前記ノ如ク一応主張スル考ナル処一方ニ於テハR、Cノ権限ヲ一切拒絶シ乍ラ同時ニ他方ニ於テ決定ニ付本邦ノ参加ヲ要求スルハ矛盾シタル論理トナルベシ蓋シ本件決定ニ関シ本邦委員ノ参加ヲ求ムルハ則チ本件ノ決定R、Cノ権内ニアルコトヲ認容シタル前提ニ基クニ外ナラズ故ニ若シ他日権限問題発生シタル時飽ク迄R、Cノ権内ニアラズトノ態度ヲ以テ進マルルニ於テハ本邦ノ出席要求ハ之ヲ撤回スルノ外ナキ時期ニ到着スベシ仍ツテ権限問題ニ関シ最終ノ態度ヲ決定セラルルニ当リテハ出席権ニ関スル右予想ノ結果ヲ予メ御覚悟相成ルヲ要ス尤モ本邦参加ノ権ニ付テハ客年五月二十一日最高會議議事録等ノ文書アルヲ以テ一応主張ノ根拠トナシ得ベキモ最高會議ガ現在ノ賠償委員会ニ対シ訓令ヲ与へ得ルヤ又果シテ右訓令ハ現在ノ賠償委員会ニ届キ居ルヤニ付テハ明白ナラザル廉アルヲ以テ我が主張ヲ貫徹シ得ルヤ否ヤ今後ノ形勢ニ徴セザルベカラザルナリ

七五二 十二月一日

内田外務大臣ヨリ  
在仏国松田臨時代理大使宛(電報)

独逸賠償問題ニ関スル英仏協定承認方及武府

ヲ仏国政府ニ通報スベシ  
第二、次ニ「ブラッセル」ニ於ケル専門家會議本邦代表者ニ関シテハ森賠償委員並他ニ適任者一名ヲ石井大使ニ於テ御選任相成其ノ結果ヲ仏国政府へ御通報相成度シ  
尚前記在本邦仏国大使ニ与へタル回答中(一)及(二)ニ関シ各任  
國政府ノ了解ヲ求ムルノ措置ヲ執ラルヘキ旨ヲ加へテ本大臣訓令トシテ在英、白、伊各大公使ニ転電シ参考トシテ在  
独大使及聯盟代表者へ転電アリタシ

註 右電報第九〇〇号ハ十一月二十日起草セラレ「本月」トアル  
ハ十一月ノコトナリ

七五三 十二月五日

在ジュネーヴ聯盟總會代表ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

武府會議出席ノ我方代表者選任ニ付請訓ノ件

第九四号

(十二月六日接受)

石井ヨリ

在仏大使宛電第九〇〇号第二「ブラッセル」ニ於ケル専門家會議出席ノ本邦代表者ニ関シ曩ニ森財務官当地出張ノ際林大使トモ協議ノ上本件會議ハ前後三回開催ノ予定ニ付最初ヨリ森財務官自身出席スルハ不得策ナルベキヲ以テ第

一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七五三 七五四

會議ニ日本参加方ニ付在本邦仏国大使ヨリノ  
申出ニ対スル回答通報ノ件

第九〇〇号

第一、貴電第一七五三号並第一七四九号ニ関シテハ本月十六日附ヲ以テ在本邦仏国大使ヨリモ同趣旨ノ申出アリタルニ付本月二十二日附ヲ以テ同大使ニ対シ左記(一)乃至(四)ニ掲クル趣旨ノ回答ヲ發シ置キタルニ付右御承知アリタシ

(一)本件英仏協定ニ関シテハ大体ニ於テ異存ナシ  
(二)此種諸會合ノ目的ハ「スパー」會議ニ於テ決定セル独逸賠償額ノ配当率及帝國政府ノ現金吐出ヲ要セザル原則ニ何等変更ヲ加ヘザル趣旨ト認ムベク帝國政府ハ「スパー」會議ノ決定ヲ變更スルコトニハ賛成スルコト能ハズ  
(三)賠償問題決定ニ付テハ既ニ特別方法ヲ認メ本邦モ常ニ之ニ参加シ来リタル従来ノ経過ニ鑑ミ賠償委員会ニ於テ独逸國賠償総額及支払方法等ノ諸問題ヲ審議決定スルニ当リテハ帝國委員モ他主要國委員ト同一ノ権限ヲ以テ参加シ度キニ付仏国政府ノ支持ヲ得度

(四)専門家會議及「ジュネーヴ」大臣會議ニ列セシムヘキ帝國代表者ハ後日便宜当省若クハ仏国駐在帝國代表者ヨリ之

一回ハ閱場及新井兩大藏書記官ヲシテ出席セシムルコトニ打合セ置ケリ就テハ右御異存無之ニ於テハ仏国政府ニ通報致度ク何分ノ儀折返シ返電ヲ請フ

七五四 十二月六日

在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本ノ賠償委員會出席問題及武府會議我方代表ノ人選ニ関シ稟申ノ件

第一〇五六号

(十二月八日接受)

在仏大使宛電第九〇〇号ニ関シ御訓令早速執行スベキモ仏国大使へノ貴答(一)ニ賠償委員会ニ於テ諸問題ヲ審議云々トアリ右ハ従来實際ノ経過ニ合致セズ即チ従来本件ニ関シ日本ガ参加シタルハ最高會議若シクハ協議會ニテ賠償委員會ニハ非ズ今回政府ガ支持ヲ求メラルルモ帝國代表者ガ他國代表者ト同一権限ニテ賠償委員会以外ノ賠償關係會議ニ加ハルノ点ニアリト思考ス賠償問題決定ニ付特別方法ヲ認メタリト云フモ聯合國ハ條約ニ依リ為シ得ル限りノ事ヲ為シ賠償委員會條約上ノ地位ハ毫モ損傷セラレタル次第ニ非ザルニ付賠償委員会ニ於テ我委員ガ他委員ト同一権限ニテ審議シ得ルヲ主張スルハ篤ト考量ヲ要スベクト存ゼラル右

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七五五 七五六

九八〇

趣旨ハ本省ニ於テモ御熱承ノ事ニテ回答中賠償委員会ニ於テ云々トアルハ文字上稍々正確ヲ欠カレタルノミナルヤニ存ズルモ一応念ノタメ申進ス

將又貴電第二ニ森委員ヲ「ブ」府會議代表者ニ指名アリタル処同委員ハ追テ「ジュネーヴ」ニ臨ミ「ブ」府會議ニハ閣場副委員ヲ列席セシムルコト便宜ナルベク右ハ森委員右井大使ト打合済ト承知ス  
在仏独伊各大使及在白公使へ転電セリ

七五五 十二月八日 内田外務大臣ヨリ  
在仏国松田臨時代理大使宛(電報)

在本邦仏国大使ヨリ寿府賠償會議及武府賠償予備會議ニ対スル我方代表者ヲ至急選任方申出ニ付通報及指示ノ件

第九一三号

往電第九〇〇号ニ関シ本月六日在本邦仏国大使本大臣ヲ来訪シ今般同大使ハ本国政府ヨリノ訓電ニ接シタル趣ヲ以テ「(一)「スパー」會議ニ於テ決定セル聯合國賠償割合並同協定第四条第三号ノ規定ニ変更ヲ加ヘザルコト

(二)帝國政府代表者ハ他ノ大國代表者ト平等ノ資格ニテ會議

約(第二三三條第一項前段)所定ノ通り賠償委員会ノミニテ審議決定シ来リタルニ於テハ勿論實見ノ通りナルベキモ實際上本問題ニ付テハ最高會議若クハ協議會等ニ於テ主トシテ審議シ来リタルノミナラズ今回モ亦大臣會議ヲ「ジュネーヴ」ニ開キ独逸賠償總額並仕払能力ヲ審議シ其ノ結果ニ基キ賠償委員会開催セラルル次第ナル処如此條約ノ予想セザル特別方法ヲ認メ本邦モ常ニ之ニ参加シ来リタル趣旨ニ願ミ本件ニ関シテハ賠償委員会ニモ帝國ハ他主要國代表者ト同一資格ニテ参加ヲ希望スル所以ナリ為念  
本電ノ趣旨ヲ在仏、白、伊、独各代表者並聯盟代表へ転電アリタシ

七五七 十二月十日 在英國永井臨時代理大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ係ル英仏協定承認方ニ関スル我政府ノ意向ヲ英國政府ニ傳達及同政府回答ノ件  
第一〇六八号 (十二月十三日接受)

在仏大使宛貴電第九〇〇号ニ関シ

帝國政府ハ本件英仏協定ニ関シ仏國政府ニ回答済ナル旨並右ハ「スパー」會議決定賠償額配当率及日本特別取扱ニハ

一〇 对独平和条約ノ賠償条項實施ニ関スル件 七五七 七五八

ニ列席スルコト

ノ二事情ノ下ニ仏國政府ハ帝國政府カ遲滯ナク「ゼネヴ」會議ニ於ケル帝國代表者ヲ選任スヘキコトヲ疑ハザル旨ノ書翰ヲ手交シタルニ付本大臣ハ(二)ニ関シテハ帝國政府ハ賠償委員会ニ於ケル帝國代表者ヲモ当然包含スルモノト解シ居ル旨ヲ注意シ置ケリ

次ニ同大使ハ更ニ本國政府ヨリ訓電ニ接シタル趣ヲ以テ本月十三日「ブラッセル」ニ Preliminary Conference for the Reparation ヲ開キ本月二十五日前ニ終了セシメタキニ付至急日本委員ヲ任命セラレタキ旨申出テタリ就テハ「ジュネーヴ」発石井大使來電第九四号ニ関シテハ異存無キニ付其ノ趣至急仏國政府へ御通報方御取計相成度

七五六 十二月十日 内田外務大臣ヨリ  
在英國永井臨時代理大使宛(電報)

賠償委員会ニ我代表ノ参加ヲ希望スル理由說示ノ件

第五五九号

貴電第一〇五六号ニ関シ

在本邦仏國大使宛第一ノ(三)ノ趣旨ハ若シ從來賠償問題ヲ条

何等変更ヲ加ヘザルヲ条件トシ且賠償諸會議ニハ従前ノ場合ノ如ク日本委員参加スベキモノナル旨時期切迫ニ願ミ七日不取敢往電第一〇〇〇号(註)來簡回答トシテ英國政府ニ申入レタル処「ブ」府會議日本出席ハ白耳義政府ヨリ招請シタル筈又英國委員ハ十三日該地着ノ予定ナルモ独逸委員來着期不確ニ付開會ハ來週幾日ナルベキヤ不定ナル旨ヲ述ベ將又当方申入ノ諸点闕承セル趣本十日附回答シ來レリ  
仏、独、伊、白及國際聯盟帝國代表へ転電セリ

註 永井臨時代理大使宛内田外務大臣宛電報第一〇〇〇号(十一月二十日外務省接受)ヲ省略セリ右ハ独逸賠償問題ニ関スル十一月十一日決定ノ英仏協定ヲ十一月十六日附ニテ英國外務省ヨリ送附シ來レル旨ヲ報告セルモノナリ

七五八 十二月十一日 内田外務大臣ヨリ  
在獨逸出淵臨時代理大使宛(電報)

独逸ガ賠償義務ヲ怠リタル場合ノ措置ニ関スル英國ノ对独通告ニ付我方ノ方針回電ノ件

第一二八号

貴電第二五七号ニ関シ

英國政府ニ於テ之カ拋棄ヲ独逸政府ニ通告シタル对独平和

九八一

条約第八編第二附属書第一八ハ其内容甚ダ広汎ナルモ右実行ハ同第一七ニ依ル委員会ヨリ各国ニ対シ建議シタル場合ニ限ラルベク而モ右ハ建議ニ過ギザルニ付各国ニ於テ之ヲ実行スルヤ否ヤハ各国ノ任意ナリト思考セラルルニ付在英大使宛本大臣宛第九九三号所載英國政府ノ採リタル解釈ハ必ズシモ不当ナリト云フヲ得ザルベク將又帝國政府ノ関スル限り本件ニ関シ当初ヨリ右ノ規定ヲ実行スルノ必要ヲ予想シ居ラザルニ付英國同様ノ措置ヲ採ルコトニ付何等ノ差支ナク寧ロ日独通商關係ノ増進上之ヲ希望スル次第ナリ乍併対独平和条約実施後未ダ一年ヲモ経ザル今日英國ノ為シタル如ク各国单独ニ平和条約ノ履行上重要ノ關係ヲ有スル本件規定ヲ無効ニセシムル措置ヲ採ルコトハ仏國政府意見ノ次第モアリ特ニ慎重ノ考量ヲ要スルモノト思考セラルル就テハ帝國政府ニ於テハ直チニ英國同様ノ宣言ヲナスコトハ幾分躊躇スルトコロナルモ今暫ク本件ニ関スル各国ノ態度ヲ見タル上可成早目ニ本件ヲ解決シ度キ意向ナリ右貴官御含ミ迄本電ヲ參考在英仏伊大使ヘ転電アレ

註 在英國永井臨時代理大使宛内田外務大臣宛電報第九九三号  
(十一月十九日外務省接受) ヲ省略セリ該電ハ英國ガ本件ヲ

英、仏、白へ転電セリ

七六〇 十二月十六日

内田外務大臣ヨリ  
在ジネネーヴ聯盟總會代表宛(電報)

山東鉄道及嶺山ノ評價問題ニ付賠償委員会法

律部ニ対スル回答振ニ関シ回訓ノ件

第七六号

貴電第六五号(賠案第八二号)ニ関シ

(第一) 法律部ニ対スル回答ハ御来示ノ通ニテ異存無シ只我方ニ於テ最モ重キヲ置キ度ハ尠クトモ山東問題ノ関スル限り同問題ニ就キ何等審議ノ要アル場合ニハ当然帝國ニ於テ之カ原動力タラザルベカラズシテ右ハ平和會議ニ於ケル帝國政府ノ一貫セル主張ニシテ且其ノ精神ニ於テ列強ノ認容セル所ナリ從テ賠償委員会カ右明確ナル帝國ノ立場ヲ輕視スルガ如キ措置ヲ進メムトスルニ対シテハ我方トシテ之ニ黙從スルヲ得ザルハ勿論ニシテ尠クトモ本問題ニシテ同委員会ノ議ニ上リタルトキハ我方委員ノ之ニ参加スヘキハ当然ノ権利ト認メラルルノミナラズ事實上ニ於テモ平和會議當時ニ於ケル了解ニ順応スル所以ト思考スル次第ニ付右ニ関シ特ニ法律部ノ注意ヲ喚起シ置カルル様致度シ

一〇 对独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件 七六〇

独逸ニ通告セルコトニ関シ同閣大臣ノ議會ニ於ケル説明ヲ報告セルモノナリ

七五九 十二月十二日

在伊國落合大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

独逸賠償ニ係ル英仏協定ニ関シ我方申入ヲ了  
解セル旨伊國外相回答ノ件

第二六二号

(十二月十四日接受)

在仏大使宛電第九〇〇号ニ関シ同館ニ於ケル電報ノ転電ニ暇取リタルタメ漸ク十一日大臣ニ會見貴訓ノ次第申入レタル処第一点(貴電第九〇〇号ノ第二点「スパー」ノ決定不変更ノ件)ニ付テハ全然異議ナク第二点(貴電ノ第三点即チ日本ノ委員加入ノコト)ニ付テハ何故ニ今更日本加入ノコトヲ特ニ主張セラルルヤ諒解セズト述ベタルニ付本使ハ平和条約ニ於テ賠償問題ノ関スル限り必ズシモ日本ガ常ニ参加スルコトニナリ居ラザルニ付今拳ゲタル事項ニ付テハ日本モ全然他ノ主要國ト同等ノ權限ヲ以テ参加ヲ希望スル次第ナリト説明シタル処大臣ハ善ク諒解セリ早速巴里ヘ問合スベキガ他ノ諸國ニシテ異議ナクバ伊國ニ於テモ異議ナシト答ヘタリ

(第二) 審査權及評價權所屬如何ノ問題ヲ離レ我方ニ於テ早キニ臨ムデ最モ有利ナル解決方法ヲ講ズルノ得策ナルハ固ヨリ同感ニシテ右ニ就テハ本件鉄道ヲ結局私有財産トシテ補償スルノ覚悟ヲ以テ在英大使宛電第四九七号(同)ノ通り速カニ証憑書類ヲ整備シ我方ニ於テ評決權アル了解ノ下ニ之ヲ賠償委員会ニ提出シ以テ我已定ノ方針タル約三千万円説ヲ力説スルノ外無カルベシトハ思考スルモノ何分独逸側ノ態度未ダ明カナラザルニ先チ我方ヨリ進ムデ私有タルコトヲ前提トスル諸般ノ措置ヲ公然進行セシムルガ如キハ決シテ策ノ得タルモノニ非ズト確信スル次第ニ有之旁々万一「スパー」協定ノ期限即チ明年五月一日迄ニ何等具体的進展ヲ見ルノ望無キニ於テハ或ハ寧ロ独逸トノ間ニ直接公私有ノ問題其ノ他必要ノ諒解ヲ遂クルモノ一策カト思料シ居ル次第ナリ

(第三) 山東鉄道問題ニ関シ平和會議當時ニ於ケル了解ニ就キ御懸念アル趣ノ処右ハ客年在仏大使宛來電講第一六五八号ノ通り當時对独回答案作成ノ際山東問題ニ関シ同委員会ニハ凡テ日本ノ名ニ於テ案文ヲ提出シ同委員会ニ於テ可決シタリ唯之ヲ独逸ニ交附スル際ニ起草委員会ニ於テ形式

上回答文ニハ同盟及聯合國ノ名ニ於テセラレタリ右ニ付我委員ヨリ特ニ同委員会起草委員ニ確メ了解ヲ得タリ猶為念書記局ト書面往復シアリ委細巴里大使館ノ當時ノ記録ヲ参照アリタシ從テ此重大ナル當時ノ了解ヲ今更覆シ得ベキ限リニ非ズ更ニ元來評価權ト審定權トハ相互密接ナル關係ヲ有シ彼是附帶スルモノト謂ハザルベカラザルノミナラズ山東問題ガ特別条項ナルノ事情等ニ顧ミルモ本件公私有ノ認定及評価權ヲ挙ケテ賠償委員会当然ノ任務ナリトスルノ解釈ニハ断シテ同意シ難ク尠クトモ本問題ニ関スル限り我方ニ於テ主タル發言權ヲ有スルコトニ付テハ明確ナル了解ヲ求メ置クノ必要アリト信ス

(第四) 經濟条項ヲ準用シ得ルヤ否ヤニ就テハ固ヨリ何等の確ナル根拠アル次第第二非ズ只御承知ノ通り山東鐵道カ確実ニ私有タルコト立証セラレタル場合ニ於テ何レノ条項ニ依リ処分スベキヤ否ヤニ就テハ平和条約中明確ニ之ニ該當スル規定ヲ欠如シ居リ何レハ然ルベキ条項ノ準用ニ版セザルベカラズ而シテ右ノ場合ニハ第二百六十条ノ外或ハ第二百九十七条(B)ヲ準用シ得ヘシトノ論議ノ余地無キニ非ザルベシト謂フニ過ギズシテ要スルニ前述ノ如ク補償問題ニ関了解ニ合致スル所以ニシテ本件参加ノ要求ハ賠償委員会ノ權限承認ヲ前提トスルモノニ非ズ況ンヤ御來示ニ拠レバ委員會ニ於テハ差当り表面右等權限問題ニ触ルルコト無ク單ニ万一ノ場合ヲ仮想セル委員會内部ノ内議ニ過ギズ而カモ貴電(第一)ノ通表明シ置ク以上此際本邦ノ参加權ヲ主張スルモ彼是矛盾ノ論理ヲ生ズルコト無シト思考ス只貴電御來示ニ拠レバ我参加權問題ガ果シテ賠償委員会ノ認容スル所トナルベキヤ否ヤニ付テモ頗ル懸念ヲ有セラルルガ如キモ右ハ頗ル意外トスル所ニシテ如斯クムバ山東問題ニ関シ平和會議ニ於テ折角取得シ得タル我優越ナル發言權ハ根底ヨリ没却セラルルモノト謂ハザルベカラザルニ付右ニ就テハ極力已存了解ノ尊重ト我当然ノ權利ヲ確認セシムルニ御尽力アリタシ

註 客年在仏松井大使宛内田外務大臣宛電報第一四三九号ニ付テハ前掲六七九文書ノ附記參看

七六一 十二月二十五日 在白国安達公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

賠償問題ニ関スル英仏協定ニ関シ我方ノ意向

ヲ白国政府ニ申入ノ件

シ拠ルヘキ的確ナル条項無キ以上特殊条項タル山東問題ノ評議ニ関シ直接ノ当事者タル我發言權ノ尊重セラルベキハ当然ノ事理ナリト謂ハザルベカラズ  
貴電(第五)ニ関シテハ評価權ノ我方ニ存在ストノ根拠ハ前述ノ通審定權ト評価權トハ附帶セザルベカラズトノ推理の見解以外何等の確ナル資料アル次第第二非ザルモ畢竟差当り我カ主タル反対点ハ山東問題ノ評価權ニ帝國委員ヲ関与セシメザルニ存シ結局私有タルコト確定スルニ於テハ我發言權ヲ尊重セシムルノ条件ノ下ニ必要ノ準備ヲ整ヘ議定書(二)ニ依リ賠償委員会ニ提出シテ之ヲ確定スル等公正ナル措置ヲ講スルノ意図ヲ有スルハ前述ノ通ナリ

(第六) 賠償委員会ハ当然本件審定評価ノ權限ヲ有スルモノニ非ズ只本問題ノ主タル原動力タルヘキ我方ニ於テ賠償委員会ニ対シ右等ノ權限ヲ認ムル場合ニ於テノミ委員會ノ評定ハ我方ヲ拘束スルモノト謂フベク而シテ右等權限ノ存否ハ独逸ヨリ何等反証ヲ挙ケ来ルコトアル場合ニ於テ初メテ之ヲ確認セラルベキ問題ニシテ右ニ先チ本問題ニシテ何等附議セラルル場合ニ我方ノ参加ヲ要求スルハ当然ノ權利ナルノミナラズ且ツ客年在仏大使來電講第一四三九号(註)已存

第一四六号

在仏大使宛貴電第九〇〇号ニ関シ御訓令ノ趣旨當時黒沢ヨリ白国政府ニ申入レ置キタルニ対シ同政府ニ於テハ別ニ異存無キ旨回答アリタル処右申入ノ第一点即チ今般ノ当地賠償専門家會議ノ如キ賠償關係会合ニ際シ現金ノ吐出ヲ要セザル帝國ノ特殊取扱ニ関スル「スパー」會議ノ決定ニ対シテハ何等変更ヲ加ヘザル可キ点ニ付テハ当国政府ノ了解ニ付疑ヲ存セザルモ独逸賠償總額及其仕払方法ノ問題ニ関シテハ今後如何ナル会合ニモ帝國代表者ガ他列國ト同等ノ權限ヲ以テ列席セント欲スル旨ノ第二点ガ在英大使宛貴電第五五九号ノ趣旨ノ如ク賠償總額等ノ問題ニ関シテハ改メテ賠償委員会ニモ帝國委員ノ參列ヲ要求スルモノナルコトハ賠償委員会組織ノ規定上白国トシテ最モ重キ關係ヲ有スル問題ナルヲ以テ右ニ関シテハ明瞭ナル白国政府ノ見解ヲ確ムルコトヲ必要トシ現大蔵大臣ガ最近迄白国賠償委員タリシ關係モアリ黒沢ニ於テ直接十二月二十四日同大臣ニ面会ノ機ヲ以テ曩ニ申入レノ趣旨ニ付白政府了解ノ真相ヲ糾シタルニ同大臣ハ本問題ニ付外務大臣ヨリノ照会ノ次第アリタル際第二点ニ関シテハ多少疑ヲ有シタルモ要スルニ右ハ

今回ノ賠償専門家會議ノ如キ賠償委員会以外ノ會合ニ對スル日本ノ態度ニ關スルモノトノ了解ノ下ニ外務大臣ヨリモ回答セルモノナルヲ述ベ若シ賠償委員会ニ於テ海上損害及第二六〇条規定事項ノ如キ日本委員出席事項以外ニ付テモ更ニ日本ノ參加ヲ求ムルモノナリトセバ同委員会ニ於ケル從來ノ實際ノ如ク日本委員ノ出席ハ白国委員ノ不参加トナリ白国トシテハ勿論承諾シ得ベキ所ニアラズ又白国ヲ排除スルコトナク日本ノ出席ヲ認メンガ為ニハ同委員会ヲ新タニ六ヶ国組織トスルニ付條約ノ規定ヲ變更スルヲ要ス可ク事實上不可能ノ問題ニアラズヤト難詰スル所アリ黒沢ヨリ日本ノ同委員会參加ノ希望ハ固ヨリ白国ヲ排除スルノ結果ヲ予想スルモノニアラズ賠償問題ガ從來屢同委員会以外ノ會合ニ於テ審議セラルルニ當リテハ常ニ日本ガ參加シ来リタルヲ以テ此事實上ノ地位ヲ同委員会ニ於テモ認メラレンコトヲ希望スルニ過ギズシテ日本參加ノ形式手續ニ關シテハ政府ノ訓令ヲ得居ラザルモ日本ガ第六國トシテ參加スルガ為委員会ノ組織ヲ變更スルコトハ決シテ條約ノ變更トナラズシテ第二二三条附屬書二十二ノ規定ニ依リ之ヲ為シ得可ク思考セラルル旨ヲ述ベタルニ同大臣ハ翻ッテ詳細ニ賠

償委員会ニ對スル白国ノ地位竝ニ從來ノ委員トシテ自己ノ取来レル態度等ヲ説明シ聯合國中賠償問題ニ關シ最重大緊切ナル利害關係ヲ有スル(不明)白国ナルノ事實及自分ハ從來共賠償問題ガ平和條約ノ明文ニ反シ賠償委員会以外ノ會合ニ於テ審議セラルルノ不当ヲ極力論難シ来リタルモノニシテ條約上賠償問題ニ關シテハ賠償委員会ノミガ只之ガ審議ノ正当權限ヲ有スル機關(脱)無キヲ指彈シ委員会組織ノ變更ニ關シテハ曾テ「セルビヤ」ヨリ只今指摘スル第二附屬書二十二ノ規定ヲ援用シ其參加ヲ求メタルコトアレドモ否決セラレタル事例ヲ語リテ本使ノ參加希望ニ對シテハ親善ナル友邦ニ對シ之ヲ妨グベキ理由ナキモ日本參加ノ實際ノ結果ハ委員会内ニ於テ各國ノ有スル四分ノ一ノ表決權ハ五分ノ一トナル可ク白国政府ノ考慮トシテハ日本ニ限ラズ到底余國ノ加入ニ同意シ難キヲ断言スルモノナリトシ更ニ黒沢ヨリ日本ノ參加ニ依ル委員会内ニ於ケル表決權分配ニ關スル他列國ノ考慮如何ナルベキヤ同大臣ノ觀察ヲ尋ネタルニ同大臣ハ単ニ個人トシテ自分ノ印象ヲ述ベ從來委員会ノ空氣殊ニ仏國側ニ於テハ常ニ日本ハ英國ト步調ヲ共ニスルモノナリトスル先入觀念ヲ有スルヲ以テ日本ノ加入

ハ即チ英國ニ對シ二重ノ表決權ヲ与フルノ結果トナルコトハ必ズ仏國ノ直覺スル所ナルベク伊太利ト雖モ恐ラク同様ナルベシト答ヘタリ終リニ會談ノ趣旨ニ付キテハ外務大臣ニモ談話ノ上別ニ白国政府ノ意向ヲ回答スベシト述ベタルニ付本件黒沢ノ會談ハ違式ノ嫌モアリ外務大臣ニ對シテハ非公式ノ談話トシテ可然伝ヘラレ度キ希望ナル旨ヲ述ベタ

ルニ自分ノ談話ハ全ク白国政府ノ虚心坦懐ノ意向ナルモ形式上ハ寧ロ互ニ個人トシテ談話セルコトトシ置クベシト答ヘタルガ更ニ帝國委員ガ表決ノ數ニ加ハルコト無ク賠償委員会參列ニ對スル同大臣ノ意向ニ關シテハ前頭御訓令ノ趣旨ニモ無之特ニ黒沢ヨリ談及スル所無カリシ趣ナリ

英仏伊ニ転電セリ